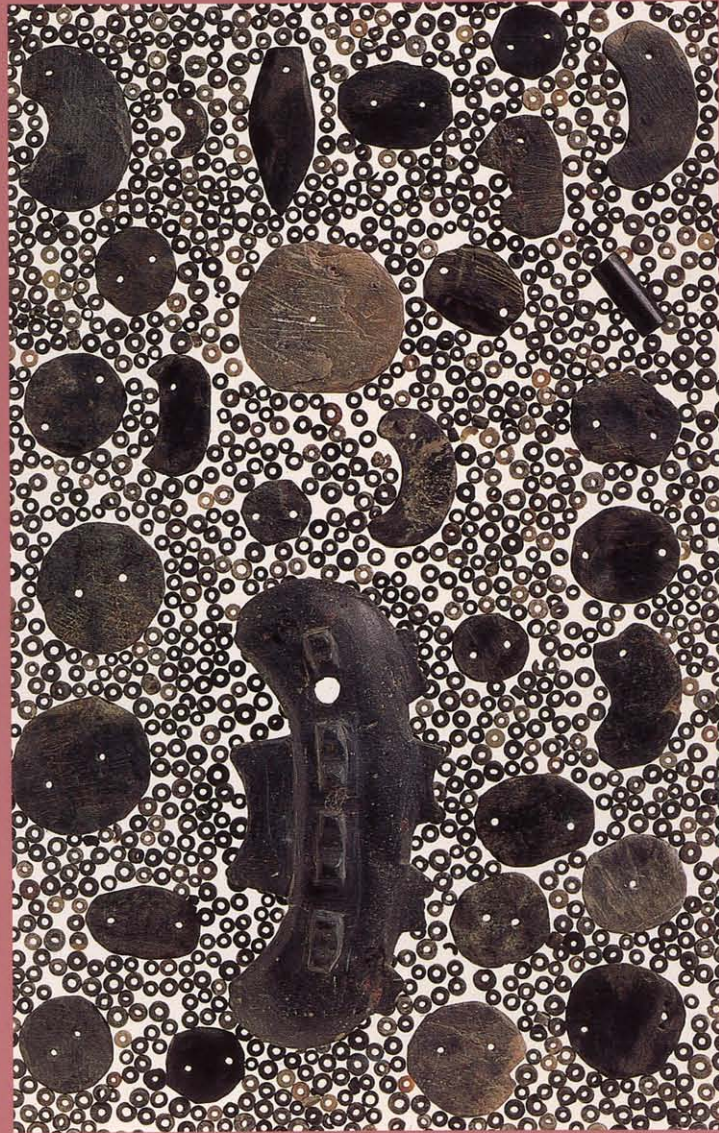


平成9年度

神戸市埋蔵文化財年報



2000

神戸市教育委員会

平成9年度

神戸市埋蔵文化財年報

2000

神戸市教育委員会



fig. 1 新方遺跡 野手西方地区 出土人骨

標高約7mの自然堤防上の南端に掘られた弥生時代前期の溝に墓坑が造られ、頭を北にして埋葬されている。二人とも成人で体に石鏃が残っており争いによる戦死者と考えられる。(本文301頁)



fig. 2 住吉宮町遺跡 第24次調査 古墳群 (本文55頁)



fig. 3 住吉宮町遺跡 第29次調査 古墳群 (本文359頁)



fig. 4 湯山遺跡 第1次調査 岩風呂遺構

有馬温泉にある湯山遺跡では、織豊期の湯殿遺構をはじめ庭園遺構・建物跡等が確認された。豊臣秀吉築造の湯山御殿の遺構と考えられる。(本文159頁)



fig. 5 長田神社境内遺跡 第10次調査 出土遺物 (本文171頁)

序

震災から5年が経過し、神戸のまちなみもようやく平静さを取り戻してまいりました。しかし、着手されたばかりの復興関連事業も少なく、これに伴う発掘調査は今も続けられております。

さて、平成9年度は「神戸市文化財保護条例」が施行されまして神戸市における文化財保護体制が本格的に整備されることになった年でした。

また、平成9年度におきましても前々年、前年と同様に全国各自治体からの支援を受け発掘調査を進めてまいりました。迅速な発掘調査の対応ができましたのも、多くの方々のご支援とご協力によるものと感謝いたしております。

さらに、この年北区有馬町で実施された湯山遺跡の発掘調査におきましては、この調査成果をもとに、先頃「太閤の湯殿館」が復元整備され市民の皆様に公開されることとなりました。

本書を通じ埋蔵文化財に対するご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後に、調査およびこの年報作成にご協力いただいた関係諸機関、関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成12年3月

神戸市教育委員会

例 言

1. 本書は、神戸市教育委員会が平成9年度に実施した埋蔵文化財調査事業の概要である。事業に関わる発掘調査は、神戸市文化財保護審議会の指導を得て、下記の調査組織によって実施した。

調査関係者組織表

神戸市文化財保護審議会 (史跡・考古資料担当)

檀 上 重 光	神戸女子短期大学教授
工 楽 善 通	奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター長
和 田 晴 吾	立命館大学文学部教授

教育委員会事務局

教 育 長	鞍本 昌男
社会教育部長	矢野 栄一郎
文化財課長	杉田 年章
社会教育部主幹	奥田 哲通
埋蔵文化財係長	渡辺 伸行
文化財課主査	丹治 康明・丸山 潔 菅本 宏明
事務担当学芸員	安田 滋・橋詰 清孝 阿部 功
調査担当学芸員	西岡 巧次・口野 博史 千種 浩・前田 佳久 富山 直人・佐伯 二郎 斎木 巖・内藤 俊哉 石島 三和・関野 豊 中村 大介

(財)神戸市スポーツ教育公社

理 事 長	福尾 重信
専 務 理 事	田村 篤雄
常 務 理 事	中野 洋二
事 業 課 主 幹	家根 康行
文化財調査係長	丹治 康明
事務担当学芸員	黒田 恭正
調査担当学芸員	西岡 誠司・谷 正俊 山本 雅和・須藤 宏 山口 英正・東 喜代秀 池田 毅・松林 宏典 阿部 敬生・浅谷 誠吾 井尻 格・藤井 太郎 川上 厚志・中谷 正 平田 朋子

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所復興調査班 (神戸市調査担当職員)

深谷 憲二	(茨城県)	半澤 幹雄	(千葉県)	中山 浩彦	(埼玉県)
河野 喜映	(神奈川県)	三輪 晃三	(岐阜県)	丸杉俊一郎	(静岡県)
木戸 雅寿	(滋賀県)	石崎 善久	(京都府)	福島 孝行	(京都府)
奈良 康正	(京都府)	横田 明	(大阪府)	小栗 明彦	(奈良県)
藤井 保夫	(和歌山県)	岡田 章一	(兵庫県)	岸本 一宏	(兵庫県)
久保 弘幸	(兵庫県)	高瀬 一嘉	(兵庫県)	深江 英憲	(兵庫県)
家塚 英詞	(鳥取県)	氏平 昭則	(岡山県)	岡山真知子	(徳島県)

2. 本書に掲載した位置図は、神戸市立中学校教育研究部編集（神戸市スポーツ教育公社発行）の5万分の1神戸市全図を、各遺跡の位置図は、神戸市発行2500分の1地形図を使用した。
3. 本書は、埋蔵文化財発掘調査一覧表に示した各調査担当者が執筆し、I. 平成9年度事業の概要については安田 滋が執筆した。本書の編集については、丸山 潔の指導のもとに内藤俊哉が行った。
4. 表紙写真は新方遺跡野手西方地区出土の滑石製品（本文301頁）で、裏表紙写真は住吉宮町遺跡出土の人物埴輪（本文55頁）である。

目 次

序 例 言

I. 平成9年度 事業の概要	1
平成9年度 埋蔵文化財発掘調査一覧	7
平成9年度 神戸市埋蔵文化財調査位置図	15
II. 平成9年度の復興事業に伴う発掘調査	21
1. 郡家遺跡 城ノ前地区 第35次調査	21
2. 郡家遺跡 城ノ前地区 第36次調査	25
3. 郡家遺跡 城ノ前地区 第37次調査	27
4. 郡家遺跡 城ノ前地区 第38次調査	33
5. 郡家遺跡 大蔵地区 第6次調査	39
6. 岡本東遺跡 第1次調査	41
7. 森北町遺跡 第18次調査	49
8. 本山遺跡 第28次調査	53
9. 住吉宮町遺跡 第24次調査	55
10. 住吉宮町遺跡 第25次調査	63
11. 住吉宮町遺跡 第26次調査	67
12. 住吉宮町遺跡 第27次調査	69
13. 住吉宮町遺跡 第28次調査	73
14. 本庄町遺跡 第6次調査	75
15. 東灘No.22地点 第2次調査	85
16. 篠原遺跡 第16次調査	87
17. 西求女塚古墳 第9次調査	89
18. 西求女塚古墳 第10次調査	91
19. 都賀遺跡 第8次調査	93
20. 都賀遺跡 第9次調査	95
21. 西郷古酒蔵群 第2次調査	99
22. 脇浜西遺跡 第1次調査	105
23. 中山手遺跡 第2次調査	107
24. 雲井遺跡 第10次調査	115
25. 日暮遺跡 第15次調査	119
26. 湊川遺跡 第3次調査	123
27. 上沢遺跡 第8次調査	125
28. 上沢遺跡 第9次調査	131

29. 上沢遺跡 第10次調査	137
30. 上沢遺跡 第11次調査	141
31. 上沢遺跡 第12次調査	143
32. 上沢遺跡 第13次調査	145
33. 上沢遺跡 第14次調査	147
34. 上沢遺跡 第16次調査	149
35. 上沢遺跡 第17次調査	155
36. 上沢遺跡 第18次調査	157
37. 湯山遺跡(湯山御殿跡) 第1次調査	159
38. 湯山遺跡 第2次調査	167
39. 長田神社境内遺跡 第10次調査	171
40. 長田神社境内遺跡 第11次調査	179
41. 御蔵遺跡 第2次調査	181
42. 御蔵遺跡 第3次調査	185
43. 松野遺跡 第5-II・6-I次調査	189
44. 三番町遺跡 第8次調査	197
45. 二葉町遺跡 第5-I・II次調査	201
46. 二葉町遺跡 第6次調査	205
47. 二葉町遺跡 第7次調査	209
48. 長田本庄町遺跡 第1次調査	215
49. 御船遺跡 第2次調査	217
50. 御船遺跡 第3次調査	221
51. 戎町遺跡 第25次調査	223
52. 戎町遺跡 第26次調査	225
53. 千歳遺跡 第1次調査	227
54. 千歳遺跡 第2次調査	229
55. 権現町遺跡 第2次調査	231
56. 大田町遺跡 第9次調査	233
57. 大田町遺跡 第10次調査	237
58. 須磨天神町遺跡 第1次調査	241
59. 垂水日向遺跡 第16次調査	247
60. 垂水日向遺跡 天ノ下地区	253
61. 垂水日向遺跡 天ノ下地区	257
62. 二ツ屋遺跡 第6次調査	261
63. 日輪寺遺跡 第4次調査	273
64. 出合遺跡 第36次調査	289
65. 出合遺跡 第38次調査	293
66. 今津遺跡 第8次調査	297

67. 今津遺跡 第9次調査	299
68. 新方遺跡 野手西方地区 第1・2次調査	301
69. 新方遺跡 東方地区 第6次調査	313
70. 新方遺跡 平松地区 第3次調査	315
71. 頭高山遺跡 第7次調査	325
72. 城ヶ谷遺跡 第3次調査	333
Ⅲ. 平成9年度の通常事業に伴う発掘調査	345
1. 坊ヶ塚古墳 試掘調査	345
2. 住吉宮町遺跡 第29次調査	359
3. 本山遺跡 第27次調査	349
4. 上小名田遺跡 第20次調査	363
5. 淡河木津遺跡 第1次調査	367
6. 勝雄遺跡 第2次調査	377
7. 勝雄遺跡 第3次調査	381
8. 玉津・田中遺跡 平野地区 第13次調査	387
9. 栃木遺跡 第13次調査	393
10. 出合遺跡 第37次調査	397
11. 長坂遺跡	399
Ⅳ. 平成9年度の大規模試掘調査	401
Ⅴ. 平成9年度の保存科学調査・作業の概要	409

插图目次

fig. 1 新方遺跡野手西方地区出土人骨 ……………	卷頭	fig. 46 調査地位置図 ……………	41
fig. 2 住吉宮町遺跡 全景 ……………	卷頭	fig. 47 第1遺構面平面図 ……………	41
fig. 3 住吉宮町遺跡 全景 ……………	卷頭	fig. 48 第2遺構面上面平面図・断面図 ……………	42
fig. 4 湯山遺跡S X34全景 ……………	卷頭	fig. 49 第2遺構面平面図 ……………	42
fig. 5 長田神社境内遺跡出土遺物 ……………	卷頭	fig. 50 北部第2遺構面全景〔写真〕 ……………	42
fig. 6 「発掘された日本列島'97」展〔写真〕 ……	2	fig. 51 南部第2遺構面全景〔写真〕 ……………	42
fig. 7 「遺跡を再現」展〔写真〕 ……………	2	fig. 52 S H01平面図・断面図 ……………	43
fig. 8 こどもたちの考古学講座風景〔写真〕 ……	3	fig. 53 S H01〔写真〕 ……………	43
fig. 9 体験考古学講座風景〔写真〕 ……………	3	fig. 54 S H02〔写真〕 ……………	44
fig. 10 調査地位置図 ……………	21	fig. 55 S H02平面図・断面図 ……………	44
fig. 11 第1遺構面・下層検出噴砂平面図 ……………	21	fig. 56 S R201〔写真〕 ……………	45
fig. 12 第2遺構面平面図 ……………	22	fig. 57 S R202〔写真〕 ……………	45
fig. 13 S B02〔写真〕 ……………	22	fig. 58 S K308平面図・断面図 ……………	46
fig. 14 第3遺構面平面図 ……………	22	fig. 59 第3遺構面平面図 ……………	47
fig. 15 S H02〔写真〕 ……………	23	fig. 60 第3遺構面全景〔写真〕 ……………	47
fig. 16 第3遺構面〔写真〕 ……………	23	fig. 61 調査区断面図 ……………	48
fig. 17 第4遺構面〔写真〕 ……………	23	fig. 62 調査区壁面〔写真〕 ……………	48
fig. 18 第4遺構面平面図 ……………	23	fig. 63 調査地位置図 ……………	49
fig. 19 第5遺構面平面図 ……………	24	fig. 64 第1・2遺構面平面図・断面図 ……………	50
fig. 20 S H09〔写真〕 ……………	24	fig. 65 S K01〔写真〕 ……………	50
fig. 21 調査地位置図 ……………	25	fig. 66 S K01平面図・断面図 ……………	51
fig. 22 調査区平面図 ……………	26	fig. 67 S D11内遺物出土状況〔写真〕 ……………	51
fig. 23 調査地位置図 ……………	27	fig. 68 S D11内遺物出土状況〔写真〕 ……………	51
fig. 24 調査区平面図・断面図 ……………	28	fig. 69 第1遺構面全景〔写真〕 ……………	52
fig. 25 S B01断面図 ……………	29	fig. 70 第2遺構面全景〔写真〕 ……………	52
fig. 26 S H02・S K01断面図 ……………	30	fig. 71 調査地位置図 ……………	53
fig. 27 S H01〔写真〕 ……………	30	fig. 72 調査区平面図 ……………	54
fig. 28 P03〔写真〕 ……………	30	fig. 73 調査地位置図 ……………	55
fig. 29 P01~03平面図・断面図 ……………	31	fig. 74 調査区平面図 ……………	56
fig. 30 調査区全景〔写真〕 ……………	31	fig. 75 土器群1〔写真〕 ……………	57
fig. 31 出土遺物実測図 ……………	32	fig. 76 土器群1平面図 ……………	57
fig. 32 調査地位置図 ……………	33	fig. 77 土器群2〔写真〕 ……………	57
fig. 33 調査区土層断面図 ……………	33	fig. 78 土器群2平面図 ……………	57
fig. 34 第0遺構面平面図 ……………	34	fig. 79 1・2号墳〔写真〕 ……………	58
fig. 35 第1遺構面平面図 ……………	34	fig. 80 3号墳〔写真〕 ……………	58
fig. 36 地震痕跡〔写真〕 ……………	34	fig. 81 4号墳〔写真〕 ……………	58
fig. 37 石材採掘穴〔写真〕 ……………	35	fig. 82 箱式石棺〔写真〕 ……………	59
fig. 38 第2遺構面平面図 ……………	36	fig. 83 箱式石棺平面図・断面図 ……………	59
fig. 39 第2遺構面全景〔写真〕 ……………	36	fig. 84 土器群4〔写真〕 ……………	60
fig. 40 第3遺構面全景〔写真〕 ……………	36	fig. 85 土器群4平面図 ……………	60
fig. 41 第3遺構面平面図 ……………	36	fig. 86 土器群5〔写真〕 ……………	61
fig. 42 弥生時代後期出土遺物実測図(1) ……………	37	fig. 87 S X01〔写真〕 ……………	61
fig. 43 弥生時代後期出土遺物実測図(2) ……………	38	fig. 88 出土遺物実測図 ……………	61
fig. 44 調査地位置図 ……………	39	fig. 89 調査区全景〔写真〕 ……………	62
fig. 45 調査区平面図 ……………	40	fig. 90 調査区遠景〔写真〕 ……………	62

fig. 91	調査地位置図	63	fig.139	第3遺構面平面図	98
fig. 92	S T01〔写真〕	63	fig.140	調査地位置図	99
fig. 93	第1遺構面平面図	64	fig.141	第1遺構面平面図	100
fig. 94	第1遺構面全景〔写真〕	64	fig.142	第2遺構面平面図	100
fig. 95	第2遺構面平面図	65	fig.143	第3遺構面平面図	101
fig. 96	土器溜まり〔写真〕	65	fig.144	第4遺構面平面図	101
fig. 97	S B01〔写真〕	65	fig.145	石組竈平面図・断面図	102
fig. 98	第3遺構面平面図	66	fig.146	石組竈〔写真〕	102
fig. 99	第3遺構面全景〔写真〕	66	fig.147	レンガ組竈〔写真〕	102
fig.100	調査地位置図	67	fig.148	レンガ組竈煙道〔写真〕	103
fig.101	第1遺構面平面図	67	fig.149	地下室石垣〔写真〕	103
fig.102	第2・3遺構面平面図	68	fig.150	調査区全景〔写真〕	104
fig.103	調査地位置図	69	fig.151	調査地位置図	105
fig.104	調査区全景〔写真〕	70	fig.152	調査区全景〔写真〕	106
fig.105	調査区平面図	70	fig.153	S B01〔写真〕	106
fig.106	S T01〔写真〕	71	fig.154	調査区平面図	106
fig.107	第3遺構面平面図	71	fig.155	調査地位置図	107
fig.108	S B401〔写真〕	72	fig.156	上層平面図	108
fig.109	第4遺構面平面図	72	fig.157	第1遺構面平面図	109
fig.110	調査地位置図	73	fig.158	第1遺構面全景〔写真〕	109
fig.111	調査区平面図	74	fig.159	S K01〔写真〕	109
fig.112	調査地位置図	75	fig.160	第2遺構面平面図	110
fig.113	調査区東壁・北西壁土層断面図	76	fig.161	2 S D03〔写真〕	110
fig.114	第1・2遺構面平面図・断面図	77	fig.162	第3遺構面平面図	111
fig.115	第3遺構面平面図・断面図	78	fig.163	第3遺構面全景〔写真〕	111
fig.116	第4遺構面平面図・断面図	79	fig.164	第3遺構面全景〔写真〕	111
fig.117	第5遺構面平面図	80	fig.165	出土遺物実測図	112
fig.118	出土遺物実測図	82	fig.166	炭層断面〔写真〕	112
fig.119	遺構検出状況〔写真〕	84	fig.167	遺構面変遷図	113
fig.120	調査地位置図	85	fig.168	調査区断面図	114
fig.121	調査区平面図	86	fig.169	調査地位置図	115
fig.122	調査区断面図	86	fig.170	調査区設定図	115
fig.123	調査地位置図	87	fig.171	南調査区平面図	116
fig.124	調査区平面図	88	fig.172	北調査区全景〔写真〕	116
fig.125	調査地位置図	89	fig.173	北調査区平面図	116
fig.126	地震痕跡〔写真〕	90	fig.174	調査区全景〔写真〕	117
fig.127	調査区平面図	90	fig.175	S P06断面〔写真〕	117
fig.128	調査地位置図	91	fig.176	S P07断面〔写真〕	117
fig.129	調査区平面図・断面図	92	fig.177	掘立柱建物〔写真〕	117
fig.130	調査地位置図	93	fig.178	S B01平面図	118
fig.131	調査区平面図	94	fig.179	調査地位置図	119
fig.132	調査区全景〔写真〕	94	fig.180	S E01〔写真〕	119
fig.133	調査地位置図	95	fig.181	第1遺構面平面図	120
fig.134	第1遺構面平面図	96	fig.182	第2遺構面平面図	120
fig.135	S X101〔写真〕	96	fig.183	第3遺構面平面図	121
fig.136	S X101平面図	96	fig.184	第3遺構面全景〔写真〕	121
fig.137	調査区断面図	97	fig.185	第2～3遺構面平面図	121
fig.138	土石流検出状況〔写真〕	97	fig.186	出土遺物実測図	122

fig.187	調査地位置図	123	fig.235	第2遺構面平面図	148
fig.188	調査区平面図	124	fig.236	第3・4遺構面平面図	148
fig.189	石組み遺構〔写真〕	124	fig.237	調査地位置図	149
fig.190	調査地位置図	125	fig.238	調査区設定図	149
fig.191	S E01〔写真〕	126	fig.239	1区遺構平面図	150
fig.192	第1遺構面平面図	126	fig.240	第3遺構面全景〔写真〕	151
fig.193	S K01〔写真〕	127	fig.241	S B301〔写真〕	151
fig.194	S P04〔写真〕	127	fig.242	S B302〔写真〕	151
fig.195	第1遺構面全景〔写真〕	127	fig.243	2～5区遺構平面図	151
fig.196	第2遺構面全景〔写真〕	128	fig.244	4・5区第4遺構面平面図	152
fig.197	S B202〔写真〕	128	fig.245	S X401〔写真〕	152
fig.198	S K216〔写真〕	128	fig.246	地震痕跡〔写真〕	152
fig.199	第2遺構面平面図	128	fig.247	6区第3遺構面平面図	153
fig.200	調査区遠景〔写真〕	129	fig.248	S B302〔写真〕	153
fig.201	第3遺構面平面図	130	fig.249	6区第3遺構面全景〔写真〕	153
fig.202	調査地位置図	131	fig.250	出土重圈文軒丸瓦	154
fig.203	調査区設定図	131	fig.251	調査区遠景〔写真〕	154
fig.204	第1遺構面平面図	132	fig.252	調査地位置図	155
fig.205	S B01〔写真〕	132	fig.253	調査区平面図	156
fig.206	S B02〔写真〕	132	fig.254	調査区断面図	156
fig.207	第2遺構面平面図	133	fig.255	調査地位置図	157
fig.208	S K01遺物出土状況〔写真〕	134	fig.256	調査区平面図・断面図	158
fig.209	S B08〔写真〕	134	fig.257	調査地位置図	159
fig.210	1区S B03～05〔写真〕	134	fig.258	S X01〔写真〕	160
fig.211	5～7区第2遺構面全景〔写真〕	134	fig.259	第1遺構面全景〔写真〕	160
fig.212	調査区遠景〔写真〕	135	fig.260	第2遺構面全景〔写真〕	160
fig.213	S D23遺物出土状況〔写真〕	136	fig.261	第3遺構面平面図	161
fig.214	調査地位置図	137	fig.262	S X02断・立面図	162
fig.215	第1遺構面平面図	138	fig.263	本堂南側遺構面全景〔写真〕	162
fig.216	S D03〔写真〕	138	fig.264	S X02〔写真〕	162
fig.217	第2遺構面平面図	139	fig.265	第3遺構面全景〔写真〕	162
fig.218	S E01平面図・断面図	139	fig.266	S X23断・立面図	163
fig.219	S E01〔写真〕	139	fig.267	S X23〔写真〕	163
fig.220	S E01細部〔写真〕	139	fig.268	S X23底面給気管〔写真〕	163
fig.221	第3遺構面平面図	140	fig.269	S X31・34断・立面図	164
fig.222	第2・3遺構面全景〔写真〕	140	fig.270	S D06〔写真〕	164
fig.223	調査地位置図	141	fig.271	S X34〔写真〕	164
fig.224	第1遺構面平面図	142	fig.272	植木移植痕〔写真〕	165
fig.225	第2遺構面平面図	142	fig.273	S X18〔写真〕	165
fig.226	調査地位置図	143	fig.274	S X11〔写真〕	165
fig.227	調査区断面図	143	fig.275	S X11内瓦当出土状況〔写真〕	166
fig.228	第1遺構面平面図	144	fig.276	S X11内鯪出土状況〔写真〕	166
fig.229	第2遺構面平面図	144	fig.277	安土桃山時代瓦拓本	166
fig.230	調査地位置図	145	fig.278	調査地位置図	167
fig.231	調査区平面図	146	fig.279	調査区設定図	167
fig.232	調査区東壁土層断面図	146	fig.280	調査区平面図	168
fig.233	調査地位置図	147	fig.281	第2遺構面全景〔写真〕	169
fig.234	第1遺構面平面図	147	fig.282	軒丸瓦出土状況〔写真〕	169

fig.283	石垣裏込め石〔写真〕	170	fig.331	I区遺構面平面図	198
fig.284	石垣検出状況〔写真〕	170	fig.332	I区第2遺構面全景〔写真〕	198
fig.285	調査地位置図	171	fig.333	SX01〔写真〕	199
fig.286	調査区平面図	172	fig.334	II区遺構面平面図	199
fig.287	調査区(北半部)全景〔写真〕	173	fig.335	III区遺構面全景〔写真〕	200
fig.288	調査区(南半部)全景〔写真〕	173	fig.336	III区遺構面平面図	200
fig.289	SB01〔写真〕	173	fig.337	調査地位置図	201
fig.290	SB02〔写真〕	173	fig.338	調査区設定図	201
fig.291	Pit702〔写真〕	174	fig.339	SB01~03〔写真〕	202
fig.292	SB07平面図・断面図	174	fig.340	SE01〔写真〕	202
fig.293	SX03内仿製鏡出土状況〔写真〕	175	fig.341	1・2調査区全景〔写真〕	202
fig.294	SX03平面図	175	fig.342	調査区遺構平面図	202
fig.295	SB5・12・13平面図・断面図	176	fig.343	1~4トレンチ北壁断面図	203
fig.296	SB5・12・13〔写真〕	176	fig.344	出土遺物実測図	204
fig.297	噴砂痕跡断面〔写真〕	177	fig.345	調査区全景〔写真〕	204
fig.298	地震痕跡確認位置図	177	fig.346	調査地位置図	205
fig.299	土偶・小型仿製鏡実測図	178	fig.347	遺構断面図	206
fig.300	調査地位置図	179	fig.348	SE01〔写真〕	206
fig.301	調査区平面図	180	fig.349	調査区平面図	206
fig.302	調査区断面図	180	fig.350	調査区全景〔写真〕	207
fig.303	調査地位置図	181	fig.351	出土遺物実測図	207
fig.304	調査区平面図	182	fig.352	調査区遠景〔写真〕	208
fig.305	調査区全景〔写真〕	182	fig.353	調査地位置図	209
fig.306	SB01〔写真〕	182	fig.354	調査区設定図	209
fig.307	SB02〔写真〕	182	fig.355	調査区西部全景〔写真〕	210
fig.308	SB03平面図	183	fig.356	調査区東部全景〔写真〕	210
fig.309	SB03〔写真〕	183	fig.357	調査区平面図	211
fig.310	SE01平面図・断面図	184	fig.358	SE01〔写真〕	212
fig.311	SE01〔写真〕	184	fig.359	SE01平面図・断面図	212
fig.312	調査地位置図	185	fig.360	SB01〔写真〕	213
fig.313	第1遺構面平面図	186	fig.361	SX02〔写真〕	213
fig.314	第1遺構面全景〔写真〕	186	fig.362	出土遺物実測図	214
fig.315	第2遺構面平面図	187	fig.363	調査地位置図	215
fig.316	第2遺構面全景〔写真〕	187	fig.364	調査区平面図	215
fig.317	御蔵遺跡遠景〔写真〕	188	fig.365	調査区断面図	216
fig.318	調査地位置図	189	fig.366	調査地位置図	217
fig.319	SE2001平面図・断面図	190	fig.367	第1遺構面平面図	218
fig.320	SE2001〔写真〕	190	fig.368	SK01平面図・立面図	218
fig.321	SB2001〔写真〕	190	fig.369	SE01〔写真〕	218
fig.322	SB2002〔写真〕	190	fig.370	第1遺構面全景〔写真〕	219
fig.323	5-I区遺構面平面図	191	fig.371	第2遺構面全景〔写真〕	219
fig.324	遺構断面図	192	fig.372	第2遺構面畦畔〔写真〕	219
fig.325	6-I区遺構面全景〔写真〕	193	fig.373	第2遺構面平面図	220
fig.326	6-I区遺構面平面図	193	fig.374	調査地位置図	221
fig.327	SB1001平面図・断面図	194	fig.375	調査区設定図	221
fig.328	出土遺物実測図(1)	195	fig.376	調査区東壁断面図	222
fig.329	出土遺物実測図(2)	196	fig.377	御船遺跡遠景〔写真〕	222
fig.330	調査地位置図	197	fig.378	調査地位置図	223

fig.379	調査区断面図	223	fig.427	第Ⅵ地区平面図	246
fig.380	調査区平面図	224	fig.428	第Ⅵ地区全景〔写真〕	246
fig.381	調査地位置図	225	fig.429	調査地位置図	247
fig.382	調査区平面図	226	fig.430	調査区設定図	247
fig.383	調査地位置図	227	fig.431	A区平安時代～近世遺構面平面図	248
fig.384	S T 201平面図・断面図	227	fig.432	A区平安時代～近世面全景〔写真〕	248
fig.385	S T 201〔写真〕	227	fig.433	A区縄文時代早期面足跡〔写真〕	248
fig.386	第2遺構面平面図	228	fig.434	S B 101〔写真〕	249
fig.387	第2遺構面全景〔写真〕	228	fig.435	S B 102〔写真〕	249
fig.388	第3遺構面平面図	228	fig.436	S B 103平面図・断面図	249
fig.389	第3遺構面全景〔写真〕	228	fig.437	B区古墳～平安時代面全景〔写真〕	250
fig.390	調査地位置図	229	fig.438	B区古墳～平安時代遺構面平面図	250
fig.391	調査区設定図	229	fig.439	C区全景〔写真〕	250
fig.392	調査区平面図	230	fig.440	C区微高地末端と低湿地平面図	250
fig.393	調査地位置図	231	fig.441	C区漣痕面〔写真〕	251
fig.394	調査区設定図	231	fig.442	C区第1足跡面〔写真〕	251
fig.395	調査区全景〔写真〕	231	fig.443	調査地位置図	253
fig.396	出土軒丸瓦拓本	232	fig.444	調査区設定図	253
fig.397	調査区平面図	232	fig.445	A区全景〔写真〕	254
fig.398	調査地位置図	233	fig.446	C区全景〔写真〕	254
fig.399	調査区平面図	234	fig.447	D区全景〔写真〕	255
fig.400	3区S K 301平面図・断面図	234	fig.448	D-1区遺物出土状況〔写真〕	255
fig.401	7区S K 701平面図・断面図	235	fig.449	F区平面図	255
fig.402	7区遺構面平面図	235	fig.450	F区全景〔写真〕	256
fig.403	6区遺構面全景〔写真〕	236	fig.451	F区北壁断面図	256
fig.404	7区第2遺構面全景〔写真〕	236	fig.452	調査地位置図	257
fig.405	調査地位置図	237	fig.453	調査区平面図	258
fig.406	調査区設定図	237	fig.454	調査区全景〔写真〕	258
fig.407	第2・3遺構面平面図	238	fig.455	出土遺物実測図	259
fig.408	第4遺構面全景〔写真〕	239	fig.456	調査区断面図	260
fig.409	水田面上遺物出土状況〔写真〕	239	fig.457	調査地位置図	261
fig.410	第4遺構面平面図	239	fig.458	I区東西トレンチ土層断面図	262
fig.411	第5遺構面全景〔写真〕	240	fig.459	I区西トレンチ上層全景〔写真〕	263
fig.412	N区西壁断面図	240	fig.460	I区西トレンチ下層全景〔写真〕	263
fig.413	調査地位置図	241	fig.461	I区西トレンチ平面図	264
fig.414	第Ⅰ地区遺構面全景〔写真〕	242	fig.462	溝3遺物出土状況平面図・断面図	264
fig.415	第Ⅰ地区平面図	242	fig.463	柱穴1・2平面図・断面図	264
fig.416	第Ⅰ地区S X 15・16〔写真〕	242	fig.464	柱穴2遺物出土状況〔写真〕	264
fig.417	第Ⅰ地区S X 15・16平面図・断面図	242	fig.465	Ⅱ区南北トレンチ土層断面図	265
fig.418	第Ⅰ地区S X 17〔写真〕	242	fig.466	Ⅱ区南トレンチ南壁〔写真〕	266
fig.419	第Ⅱ地区平面図	243	fig.467	Ⅱ区南トレンチ第2遺構面全景〔写真〕	266
fig.420	第Ⅲ地区平面図	243	fig.468	Ⅱ区南トレンチ平面図	266
fig.421	第Ⅳ地区S E 01〔写真〕	243	fig.469	Ⅱ区北トレンチ平面図	267
fig.422	第Ⅳ地区平面図	244	fig.470	Ⅱ区北トレンチ第1遺構面全景〔写真〕	267
fig.423	第Ⅴ地区S E 01〔写真〕	244	fig.471	Ⅱ区北トレンチ第2遺構面全景〔写真〕	267
fig.424	第Ⅴ地区S E 01平面図・断面図	244	fig.472	Ⅲ区南北トレンチ土層断面図	268
fig.425	第Ⅴ地区平面図	245	fig.473	Ⅲ区南北トレンチ平面図	268
fig.426	第Ⅴ地区全景〔写真〕	245	fig.474	Ⅲ区南トレンチ第1遺構面全景〔写真〕	268

fig.475	Ⅲ区北トレンチ第2遺構面全景〔写真〕	268	fig.523	1トレンチ全景〔写真〕	294
fig.476	Ⅳ区南北トレンチ土層断面図	269	fig.524	2トレンチ全景〔写真〕	294
fig.477	Ⅳ区南トレンチ溝2〔写真〕	270	fig.525	S K04遺物出土状況〔写真〕	294
fig.478	Ⅳ区南トレンチ全景〔写真〕	271	fig.526	S K04平面図・断面図	294
fig.479	Ⅳ区北トレンチ全景〔写真〕	271	fig.527	S K01平面図・断面図	295
fig.480	Ⅳ区南北トレンチ平面図	271	fig.528	S K01〔写真〕	295
fig.481	出土遺物実測図	272	fig.529	S D04遺物出土状況〔写真〕	296
fig.482	調査地位置図	273	fig.530	調査地位置図	297
fig.483	調査区遺構平面図	274	fig.531	調査区平面図	298
fig.484	遺構面垂直写真〔写真〕	274	fig.532	3トレンチ全景〔写真〕	298
fig.485	調査区遠景〔写真〕	274	fig.533	調査地位置図	299
fig.486	基本土層図	275	fig.534	調査区平面図	300
fig.487	S H01平面図・断面図	276	fig.535	調査地位置図	301
fig.488	S H01〔写真〕	276	fig.536	S E201〔写真〕	302
fig.489	S H01中央穴〔写真〕	276	fig.537	S E401〔写真〕	302
fig.490	S H02平面図・断面図	277	fig.538	S B401〔写真〕	303
fig.491	S H02〔写真〕	277	fig.539	S B4002〔写真〕	303
fig.492	S H03平面図・断面図	277	fig.540	第5遺構面平面図	303
fig.493	S H03〔写真〕	277	fig.541	S B6003〔写真〕	304
fig.494	S H04平面図・断面図	278	fig.542	S B5001〔写真〕	304
fig.495	S H05〔写真〕	278	fig.543	2トレンチ第5遺構面下層平面図	305
fig.496	S H05平面図・断面図	278	fig.544	2トレンチ第5遺構面全景〔写真〕	305
fig.497	S H06~10平面図・断面図	279	fig.545	2トレンチ第5遺構面下層全景〔写真〕	305
fig.498	S H11平面図・断面図	280	fig.546	2トレンチ第7遺構面平面図	307
fig.499	S H12〔写真〕	281	fig.547	溝状遺構平面図	307
fig.500	S H12平面図・断面図	281	fig.548	人骨1・3出土状況平面図・断面図	307
fig.501	S H13・14平面図・断面図	281	fig.549	人骨1出土状況〔写真〕	307
fig.502	S H15・16平面図・断面図	282	fig.550	人骨3出土状況〔写真〕	307
fig.503	S H15〔写真〕	282	fig.551	方形周溝墓平面図	308
fig.504	S H17・18〔写真〕	283	fig.552	方形周溝墓内人骨4〔写真〕	308
fig.505	S H17・18平面図・断面図	283	fig.553	円形周溝墓〔写真〕	308
fig.506	S H19平面図・断面図	284	fig.554	調査区設定図	308
fig.507	S B01~04平面図・断面図	284	fig.555	復旧・第6遺構面平面図	309
fig.508	S K15平面図・断面図	285	fig.556	S B6001〔写真〕	310
fig.509	S K35平面図・断面図	285	fig.557	S X6002獣骨出土状況〔写真〕	310
fig.510	S K15〔写真〕	285	fig.558	F区第7遺構面平面図	311
fig.511	出土遺物実測図(1)	287	fig.559	F区第7遺構面全景〔写真〕	311
fig.512	出土遺物実測図(2)	288	fig.560	調査区遠景〔写真〕	312
fig.513	調査地位置図	289	fig.561	調査地位置図	313
fig.514	調査区設定図	289	fig.562	調査区平面図	314
fig.515	第2遺構面平面図	290	fig.563	調査地位置図	315
fig.516	第2遺構面全景〔写真〕	290	fig.564	I区第1・2遺構面平面図	316
fig.517	掘立柱建物2〔写真〕	291	fig.565	I区第2遺構面全景〔写真〕	317
fig.518	第3遺構面全景〔写真〕	292	fig.566	I区第3遺構面平面図	318
fig.519	第3遺構面平面図	292	fig.567	I区第3遺構面全景〔写真〕	318
fig.520	調査地位置図	293	fig.568	S B03平面図・断面図	319
fig.521	5トレンチ南壁土層断面図	293	fig.569	Pit 306〔写真〕	319
fig.522	調査区平面図	294	fig.570	Pit 312〔写真〕	319

fig.571	Ⅱ区第1・2遺構面平面図	320	fig.619	調査地位置図	345
fig.572	Ⅱ区第1遺構面全景〔写真〕	321	fig.620	調査区平面図	346
fig.573	S B 05〔写真〕	321	fig.621	調査区断面図	347
fig.574	S B 06〔写真〕	321	fig.622	Ⅱ区葺石検出状況〔写真〕	348
fig.575	S K 01〔写真〕	322	fig.623	Ⅱ区葺石平面図・断面図	348
fig.576	S X 04〔写真〕	322	fig.624	調査地位置図	349
fig.577	鍛冶関連遺構平面図・断面図	323	fig.625	調査区設定図	349
fig.578	鍛冶関連遺構〔写真〕	323	fig.626	弥生～古墳時代遺構面平面図	350
fig.579	Ⅱ区西半部第2遺構面全景〔写真〕	324	fig.627	S D 08〔写真〕	351
fig.580	Ⅱ区東半部第2遺構面全景〔写真〕	324	fig.628	S D 05・06〔写真〕	351
fig.581	調査地位置図	325	fig.629	S D 06平面図・断面図	351
fig.582	S T 02平面図・断面図	326	fig.630	S D 06内遺物出土状況〔写真〕	351
fig.583	S T 02〔写真〕	326	fig.631	1号墳〔写真〕	352
fig.584	S K 36・39・40平面図	326	fig.632	1号墳墳丘断面〔写真〕	352
fig.585	S K 36〔写真〕	326	fig.633	石棺平面図・断面図	352
fig.586	調査区平面図	327	fig.634	石棺〔写真〕	352
fig.587	S B 13平面図	328	fig.635	2-A号墳〔写真〕	353
fig.588	S B 13〔写真〕	328	fig.636	2-B号墳〔写真〕	353
fig.589	S B 15平面図	328	fig.637	4号墳遺物出土状況〔写真〕	353
fig.590	S B 15〔写真〕	328	fig.638	4号墳遺物出土状況平面図	353
fig.591	段状遺構08・10平面図	329	fig.639	S B 2001〔写真〕	354
fig.592	段状遺構08・10〔写真〕	329	fig.640	Ⅲ区遺構面全景〔写真〕	354
fig.593	段状遺構14〔写真〕	329	fig.641	S B 01・02〔写真〕	354
fig.594	段状遺構19平面図	330	fig.642	Ⅱ区古代～中世遺構面全景〔写真〕	355
fig.595	調査区遠景〔写真〕	331	fig.643	古代～中世遺構面平面図	355
fig.596	調査地位置図	333	fig.644	調査区断面図（Ⅱ区南壁）	356
fig.597	6～8区遺構配置図	334	fig.645	調査区遠景〔写真〕	356
fig.598	S B 302平面図・断面図	335	fig.646	噴砂痕断面〔写真〕	356
fig.599	S B 302〔写真〕	335	fig.647	出土遺物実測図(1)	357
fig.600	S B 306平面図・断面図	335	fig.648	出土遺物実測図(2)	358
fig.601	S B 306〔写真〕	335	fig.649	出土遺物〔写真〕	358
fig.602	S B 311平面図	336	fig.650	出土遺物〔写真〕	358
fig.603	S B 311〔写真〕	336	fig.651	調査地位置図	359
fig.604	6～8区全景〔写真〕	338	fig.652	調査区設定図	359
fig.605	6～7区谷部全景〔写真〕	338	fig.653	調査区平面図	360
fig.606	8区全景〔写真〕	338	fig.654	1トレンチ平面図・断面図	361
fig.607	8区丘陵頂部全景〔写真〕	338	fig.655	1トレンチ全景〔写真〕	361
fig.608	4～5区遺構配置図	339	fig.656	木製品出土状況〔写真〕	361
fig.609	S D 304・303断面図	339	fig.657	噴砂痕〔写真〕	362
fig.610	4～5区全景〔写真〕	339	fig.658	調査地位置図	363
fig.611	S X 330平面図	340	fig.659	第1遺構面平面図	364
fig.612	S T 303〔写真〕	340	fig.660	第1遺構面全景〔写真〕	364
fig.613	S T 301～303平面図・断面図	340	fig.661	第2遺構面平面図	365
fig.614	S D 303〔写真〕	341	fig.662	第2遺構面全景〔写真〕	365
fig.615	S D 304〔写真〕	341	fig.663	水溜め遺構内漆塗り椀出土状況〔写真〕	366
fig.616	調査区遠景〔写真〕	342	fig.664	調査地位置図	367
fig.617	出土遺物実測図(1)	343	fig.665	6・7区遺構面平面図	368
fig.618	出土遺物実測図(2)	344	fig.666	6区遺構面全景〔写真〕	368

fig.667	7区遺構面全景〔写真〕	368	fig.715	A-S区第1水田面〔写真〕	389
fig.668	9区遺構面平面図	369	fig.716	A-S区第2水田面〔写真〕	389
fig.669	9区南部遺構面全景〔写真〕	369	fig.717	B区遺構平面図	390
fig.670	園池状遺構平面図	370	fig.718	B区第1水田面〔写真〕	390
fig.671	9区園池状遺構〔写真〕	370	fig.719	C区遺構平面図 杭列平面図・断面図	391
fig.672	S T01平面図・断面図	371	fig.720	C区第2水田面〔写真〕	391
fig.673	S T01〔写真〕	371	fig.721	C区杭列全景〔写真〕	391
fig.674	10-南区遺構平面図	372	fig.722	杭列2断面〔写真〕	391
fig.675	10-南区全景〔写真〕	372	fig.723	玉津田中遺跡遠景〔写真〕	392
fig.676	S K07平面図・断面図	372	fig.724	調査地位置図	393
fig.677	10-南区S K07〔写真〕	372	fig.725	IV区第1遺構面平面図	393
fig.678	11区遺構面全景〔写真〕	373	fig.726	Ⅲ・Ⅳ区第2・3遺構面平面図	394
fig.679	11区遺構面平面図	373	fig.727	調査区全景〔写真〕	394
fig.680	12区遺構面全景〔写真〕	374	fig.728	S X02〔写真〕	395
fig.681	12区遺構面平面図	374	fig.729	S B03〔写真〕	395
fig.682	12区S E01〔写真〕	374	fig.730	S T01平面図・断面図	395
fig.683	13・14遠景〔写真〕	375	fig.731	S T01〔写真〕	395
fig.684	出土遺物実測図	375	fig.732	第3遺構面全景〔写真〕	396
fig.685	淡河木津遺跡遠景〔写真〕	376	fig.733	調査地位置図	397
fig.686	調査地位置図	377	fig.734	調査区設定図	397
fig.687	4トレンチ平面図	378	fig.735	1区遺構平面図	398
fig.688	4トレンチ1区全景〔写真〕	378	fig.736	1トレンチ平面図	398
fig.689	S P02〔写真〕	378	fig.737	調査地位置図	399
fig.690	5トレンチ平面図	379	fig.738	調査区平面図	400
fig.691	5トレンチA区全景〔写真〕	379	fig.739	北神地区試掘調査地域全体図	402
fig.692	5トレンチB区全景〔写真〕	379	fig.740	北神星和台試掘調査地点	402
fig.693	勝雄遺跡遠景〔写真〕	380	fig.741	八多地区試掘調査地点(1)	403
fig.694	調査地位置図	381	fig.742	八多地区試掘調査地点(2)	403
fig.695	調査区遠景〔写真〕	381	fig.743	北区淡河町試掘調査地域全体図	404
fig.696	I-D区全景〔写真〕	382	fig.744	野瀬地区試掘調査地点(1)	404
fig.697	I-D区平面図	382	fig.745	野瀬地区試掘調査地点(2)	405
fig.698	I-E区平面図	382	fig.746	西区試掘調査地域全体図	406
fig.699	I-E区全景〔写真〕	382	fig.747	青谷遺跡試掘調査地点	407
fig.700	F~L区平面図	383	fig.748	平野町向井・慶明地区試掘調査地点	408
fig.701	S B19平面図・断面図	383	fig.749	新方遺跡野手西方1次調査 土器溜まり断面土層転写	409
fig.702	F区周辺全景〔写真〕	383	fig.750	新方遺跡野手西方1次調査人骨切り取り	410
fig.703	I-N区全景〔写真〕	384	fig.751	新方遺跡野手西方1次調査人骨切り取り	411
fig.704	I-N区平面図	384	fig.752	新方遺跡野手西方1次調査人骨切り取り	411
fig.705	I-O・P区平面図	384	fig.753	新方遺跡野手西方1次調査人骨切り取り	411
fig.706	I-O・P区全景〔写真〕	384	fig.754	新方遺跡平松地区3次調査 鍛冶炉切り取り	412
fig.707	II-C区北部平面図	385	fig.755	長田神社境内遺跡青銅鏡X線透過像	412
fig.708	II-C区北部全景〔写真〕	385	fig.756	長田神社境内遺跡青銅鏡X線透過像 パソコンによる画像処理	412
fig.709	S B13〔写真〕	386			
fig.710	S B27〔写真〕	386			
fig.711	調査地位置図	387			
fig.712	A-N区遺構平面図	388			
fig.713	A-N区第2水田面〔写真〕	388			
fig.714	A-S区遺構面平面図	389			

I. 平成9年度 事業の概要

1. はじめに 平成9年度は阪神・淡路大震災から3年目を迎え、市街中心部の繁華街や大通りに面した地域はかなり復興したかに見える状況であった。しかし、平成9年4月当初、応急仮設住宅にはまだ24,174世帯、43,529人の市民の方々が生活をしており、大通りを1本奥に入れば、まだまだ空き地が目立つ状況であった。この様な状況下、一刻も早く元の市民生活を取り戻すべく、震災復興事業が当市の最優先の課題であった。埋蔵文化財調査は、この復興事業に支障をきたさないことが大前提であるため、平成9年度も復旧・復興事業に伴う調査が全事業の中心に位置づけられ、そのための体制を整えて取り組んだ。

震災復興関連の調査事業は、平成7年度に文化庁より出された「阪神・淡路大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する基本方針について（平成7年3月29日付け文化庁次長通知 庁保記第144号）」と、「阪神・淡路大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱い適用要領（平成7年4月28日付け兵庫県教育長通知 県教社文第191号）」に基づいた制度が、種々の問題を含みながらもほぼ軌道に乗り、復興事業との調整は順調に行われたものと思われる。

一方、通常事業に伴う調査も、北区の圃場整備事業に伴う調査を中心に、徐々にではあるが、増えつつある状況であった。

また復興事業に伴う調査が増え、身近で発掘調査が行われたことによって、埋蔵文化財に対する市民の関心も深まりつつあり、調査中の現地説明会も、広範囲の人々を対象とした従前の現地説明会の他に、地元の方々を対象に、その地区の埋もれた歴史を紹介するような地元説明会等を開催し、埋蔵文化財の普及啓発に努めてきた。

2. 普及啓発 [神戸市埋蔵文化財センター]

事業 平成3年度に開館した神戸市埋蔵文化財センターは、6年目を迎え、市内出土遺物の整理・保存処理・収蔵・公開をおこなう拠点施設として機能している。市内の出土遺物を年代順に展示し、神戸の歴史を概観することのできる常設展示室のほかに、収蔵庫と遺物整理室の一部を公開し、発掘された出土遺物の復元作業・収蔵状況を理解していただけるようにしている。また、年間数回の特別展示・企画展示をおこない、市民に埋蔵文化財の情報発信を行った。一方、『こどもたちの考古学講座』と『体験考古学講座』は、体験を通じて埋蔵文化財により親しんでもらう企画で、好評をばくしている。

特別展示 本年度は特別展示として文化庁・神戸市立博物館と共催で'97年度に全国で発掘された最新の調査成果を一堂に集めた、全国巡回展『発掘された日本列島'97』を神戸市立博物館を会場に開催した。また同時開催の地域展示として、『ひょうご復興の街から』と題して、3年間の震災復興関連発掘調査の調査成果の集大成をおこない、震災復興事業と埋蔵文化財発掘調査の関係を多くの方に知っていただいた。開催期間は平成9年11月2日から平成9年11月24日までで、期間中10,471人の入館者があった。期間中の11月9日には奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長工楽善通氏の講演会「近年発見の重要遺物から」と、11月23日には立命館大学教授和田晴吾氏の講演会「震災復興と埋蔵文化財」を神戸市立博物館講堂にておこなった。

企画展示 本年度の企画展示としては、平成9年7月26日から平成9年8月30日までの期間で、『遺跡を再現』と題して、遺跡から切り取って保存している遺構や、土層のはぎ取り、遺物の保存処理など近年の科学的な発掘調査技術の成果を展示し、会期中2,654人の入館者があった。期間中の7月27日には奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター調査部長沢田正昭氏による講演会「発掘現場から博物館へ」を神戸市埋蔵文化財センター研修室でおこなった。また7月26日と8月9日には学芸員による展示解説を実施した。

平成10年3月21日から平成10年5月31日までの間には、動物埴輪や動物の描かれた絵画土器などを展示した企画展『どうぶつてん』を実施し、期間中に11,997人が埋蔵文化財センターに入館した。

速報展示 平成9年2月22日から平成9年6月1日にかけて、西区の弥生時代の高地性集落である城ヶ谷遺跡の調査成果を紹介した速報展『城ヶ谷遺跡速報展』を開催し、期間中に13,671人が埋蔵文化財センターに入館した。

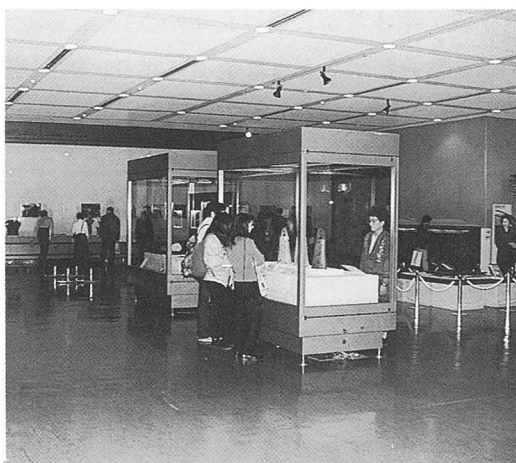


fig. 6 特別展『発掘された日本列島'97』展
展示風景



fig. 7 企画展『遺跡を再現』展
展示風景

館外展示 地域の身近な遺跡を紹介するため、埋蔵文化財センターの他にも地域の施設を利用して展示会を開催した。期間・場所等は、下表のとおりである。

展示会名称	期 間	場 所	見学者数
道場町郷土史展	H 9. 11 / 2 ~ 11 / 3	神戸市立農村環境改善センター	500人
淡河町遺跡展示会	H10. 1 / 31 ~ 2 / 8	神戸市立淡河地域福祉センター	500人

考古学講座 『こどもたちの考古学講座』は学校の休日である第2・第4土曜日の催しとして、体験を通じて先人の生活や技術を学び、埋蔵文化財により親しむ趣旨から、小学校4年生以上高校生までを対象としたものである。平成9年度は計7回開催した。また、先年度から始まった『女性のための考古学講座』は『体験考古学講座』と模様替えし、一般を対象とした体験講座を計2回開催した。

こどもたちの考古学講座

	開催日	講座名	内容	参加者数
第1回	4/26	石器をつくろう	滋賀県産高島石で、石包丁などの磨製石器をつくる。	81人
第2回	5/24	体験発掘 遺跡を掘る	発掘調査中の遺跡で、実際の発掘調査を体験する。	152人
第3回	7/26	勾玉をつくろう	印材の青田石や寿山石で勾玉をつくる。	128人
第4回	8/24	土器・埴輪をつくろう	乾燥すれば硬化する粘土で土器・埴輪をつくる。	183人
第5回	8/23	縄文時代の葉っぱを探そう	垂水日向遺跡出土の縄文時代の木葉を水洗選別し、フィルムに封入して、種類を調べる。	86人
第6回	11/8	古代人の生活体験	大歳山遺跡公園の復元住居で、火起こし・脱穀・石器や土器での調理などをおこなう。	67人
第7回	12/13	縄文クッキーをつくろう	ドングリ（シイの実）を粉にして、クッキーを焼く。	64人

体験考古学講座

	開催日	講座名	内容	参加者数
第1回	2/28	勾玉をつくる	印材の青田石や寿山石で勾玉をつくる。	31人
第2回	3/28	土器を焼く	実際に粘土から土器を成形し乾燥後、野焼きをする。	32人



fig. 8 こどもたちの考古学講座風景



fig. 9 体験考古学講座風景

〔文化財保護強調週間の催し〕

大歳山遺跡公園では、11月1日から7日までの期間、復元した竪穴住居の内部を公開するとともに、古代人の生活の一部を体験できるように、舞錐による火起こしや臼・杵による米の脱穀などをおこなった。また、火起こしが成功した参加者には、「古代人認定書」を配付した。7日間の参加者は、1,308人であった。

〔発掘調査現地説明会の開催と報道関係資料発表〕

調査期間中重要な発見があった場合、市役所内市政記者クラブにおいて発表をおこない、現地説明会を開催した。調査の都合上現地説明会が開催できない場合はプレス発表のみおこなった。また、今年度は地元の方々を対象とした地元説明会を開催した。

発掘調査 現地説明会

遺跡名	開催日	内 容	見学者
住吉宮町遺跡	H 9. 4 / 20	5世紀後半の古墳と入墨をした人物埴輪 (P. 55)	450人
新方遺跡	H 9. 4 / 29	弥生時代前期の縄文時代の特徴を持った人骨 (P. 301)	620人
湯山遺跡	H 9. 5 / 25	豊臣秀吉の作った湯山御殿の庭園跡 (P. 159)	300人
勝雄遺跡	H 9. 12 / 7	飛鳥時代の集落跡 (P. 381)	130人

発掘調査 地元説明会

遺跡名	開催日	内 容	見学者
御蔵遺跡	H10. 2 / 6	古墳時代～飛鳥時代の掘立柱建物群 (P. 185)	50人
兵庫松本遺跡	H10. 3 / 22	古墳時代前期の集落跡	100人

報道関係 資料発表

遺 跡 名	発表日	内 容	
新方遺跡	H 9. 6 / 24	弥生時代前期の石鏃の刺さった人骨 (P. 301)	
長田神社境内遺跡	H 9. 10 / 13	弥生時代終末期の小型仿製鏡 (P. 171)	
湯山遺跡	H 9. 10 / 15	豊臣秀吉の作った湯山御殿の石垣・郭 (P. 159)	

〔資料等の貸出〕

平成9年度に各機関等に貸し出した資料は、写真35件129点、遺物5件73点であった。

〔刊行物〕

平成9年度の刊行物は、以下の6点である。

- | | | |
|------------------------|-----------|-----------|
| (1) 平成7年度 神戸市埋蔵文化財年報 | 平成10年3月発行 | 頒価 2,800円 |
| (2) 住吉宮町遺跡(第17・第18次調査) | 平成10年1月発行 | 非売 |
| (3) 雲井遺跡(第8次) | 平成10年3月発行 | 非売 |
| (4) 神戸市東灘区本山遺跡(第22次) | 平成10年3月発行 | 非売 |
| (5) ひょうご復興の街から(展示図録) | 平成9年11月発行 | 頒価 400円 |
| (6) 神戸市埋蔵文化財分布図 | 平成9年4月発行 | 頒価 1,000円 |

3. 文化財保護 平成9年3月31日に、「現在及び将来の市民の文化的向上に資することを目的」に制定された、『神戸市文化財の保護及び文化財等を取り巻く文化環境の保全に関する条例』が平成9年7月15日に施行され、同条例の施行規則も平成9年7月15日に制定され、神戸市の文化財保護の制度が整った。

これに基づき、平成9年8月12日に第1回文化財保護審議会が開催され指定文化財・登録文化財・地域文化財の指定・登録・認定について諮問をおこない、平成9年10月1日に第2回文化財保護審議会において諮問に対する答申を受けた。そして、平成9年10月1日この答申に基づき49件の文化財指定、登録、認定を行った。そのうち、埋蔵文化財に係るものとして以下の3件が指定された。

神戸市指定史跡

伝豊太閤湯山御殿跡	北区有馬町字有馬	450㎡
狩口台きつね塚古墳 1基	垂水区狩口台7丁目	2,123㎡

神戸市指定有形文化財（考古資料）

狩口台きつね塚古墳出土品 145点

4. 調査事業 平成9年度も当市の発掘調査事業は、神戸市教育委員会と公共事業関連の調査の一部を財団法人神戸市スポーツ教育公社に委託して実施した。それらの調査は、平成7・8年度に引き続いて阪神・淡路大震災復興事業と震災に関係のない通常事業に起因する調査に区別される。全体の調査件数は113件で、総発掘調査面積（底地面積）は88,461㎡、複数遺構面を勘案した延べ調査面積は129,824㎡であった。平成8年度と比較すると調査件数はほぼ同数であるが、総調査面積は底地面積で83%、延べ調査面積で79%と約2割減少している。このことは、個人の復興が進み、小規模な開発が多くなったことに起因すると思われる。これらの調査に要した費用は約1,874,091千円である。

平成9年度の文化財保護法に基づく各届出・通知と試掘調査依頼の件数は次表のとおりである。

	保護法 57条-1	保護法 57条-2	保護法 57条-3	保護法 57条-5	保護法 57条-6	保護法 98条-2	開発行為事前審査 & 事前調査依頼	試掘 依頼
通常事業	2件	26件	14件	0件	0件	20件	—	42件
復興事業	2件	192件	12件	4件	1件	75件	—	192件
計	4件	218件	26件	4件	1件	95件	192件	234件

先年度と比較すると、文化財保護法57条の2及び57条の3に基づく届出・通知の件数は約30%減少している。このことは、個人住宅や店舗の再建が一段落したことを表していると考えられる。しかし、試掘調査依頼や発掘調査依頼の件数は、ほぼ同数ないしは若干増加している。

なお、文化財保護法57条の1による届出は、すべて民間発掘調査組織から出された開発

事前調査で、学術調査に伴うものはない。

復興事業に伴う調査

震災から3年目を迎えた復興事業に伴う調査は、先年度とほぼ同数の89件であった。このうち70%にあたる62件が個人および中小企業が事業者である国庫補助事業で、大企業および公共の事業者の経費負担による受託事業は27件である。調査原因となった事業別内訳は、民間共同住宅建設27件、個人住宅建設17件、公営住宅建設7件、店舗・社屋等の建て替え5件、市街地再開発・土地区画整理事業および宅地造成22件、公共施設再建1件、復興道路建設7件、その他3件となっている。これらの復興関連調査に要した費用は全体で1,673,924千円であった。このうち、490,000千円が国庫補助事業で、その内訳は、事前確認の試掘調査が43,454千円、個人・中小企業者の事業にかかる発掘調査が446,546千円である。

平成8年度に引き続き復興事業に迅速に対応するため、13府県から兵庫県教育委員会に派遣された専門職員と兵庫県教育委員会の職員合わせてのべ43名の埋蔵文化財専門職員に、本市の発掘調査計21件を支援いただいた。そのうち6件は当市の職員との共同調査の形をとった。また、土地区画整理事業では、県が直接受託した支援調査が4件あった。

なお、先述した復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する特例措置の期限が平成10年5月31日までであったのが、平成10年3月26日付け文化庁次長通知 庁保記第144号で、平成12年3月31日まで延長された。

5. 市内発掘

調査の概要

本年度の主な調査成果を、以下時代順にまとめる。

篠原遺跡では昭和59年度と平成2年度の調査で、縄文晩期の亀ヶ岡式土器や甕棺などが多数見つかった調査地の隣地で調査がおこなわれ、これまでの調査と同様の甕棺3基が見つかり、縄文晩期の墓制を考える良好な資料が得られた。

新方遺跡では弥生時代前期初頭の遺構から、縄文人の形質を残した人骨が3体見つかった。これらの人骨には多数の石鏃が刺さっており、弥生時代の当初から戦争があったことを物語るとともに、日本人の形質学上のルーツを考える上でも貴重な資料である。長田神社境内遺跡では庄内期の住居址から小型仿製鏡が出土しており、これに続く古墳時代の小型仿製鏡の製作を考える上で重要である。またこの住居址からは縄文時代の結髪土偶が出土していることが、翌年度の整理中に確認された。

住吉宮町遺跡では地中に埋もれた古墳が多数発見された。そのうち1基からは入れ墨をした人物埴輪が出土している。また同遺跡中存在していたとされる坊ヶ塚古墳は、これまで絵図面・地名・地積図などから、前方後円墳と予想されていたが、試掘調査によって後円部径約35mの前方後円墳ないしは帆立貝式古墳であることが判明した。

北区の勝雄遺跡では飛鳥時代の竪穴住居が多数見つかり、これまで明らかでなかった淡河地区の古代史の一端が判明した。土地区画整理事業で明らかとなった御蔵遺跡では飛鳥時代から奈良時代にかけての倉庫群が多数見つかり、その地名から官衙に関連する倉庫群であった可能性もある。

先年度に引き続いて調査のおこなわれた有馬の湯山遺跡では、豊臣秀吉の築いた湯山御殿の一部と考えられる湯殿跡とともに、庭園も見つかった。また現存する石垣も当時のものであることが判明した。

平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(1)

No	遺跡名	所在地	調査主体	調査担当者	掘削面積	調査期間	調査内容	調査原因
					延調査面積			
1	郡家遺跡城ノ前地区 第5次調査	東灘区御影町御 影字城ノ前1451 -4	神戸市教育委員会	岡山真知子 石崎 善久 丸杉俊一郎	271㎡	9.7.28～9.10.13	古墳時代の竪穴住居・掘立柱建物 弥生時代後期の竪穴住居	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
					1,084㎡			
2	郡家遺跡城ノ前地区 第6次調査	東灘区御影町御 影字城ノ前1442 -3	神戸市教育委員会	阿部 敬生	32㎡	9.7.28～9.8.25	弥生時代後期～中世の土坑・ピット・ 落ち込み 弥生土器・須恵器・土師器・玉製品	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
					128㎡			
3	郡家遺跡城ノ前地区 第37次調査	東灘区御影町御 影字城ノ前1486 -6	神戸市教育委員会	深谷 憲二 氏平 昭則 (県支援)	50㎡	9.8.20～9.9.19	平安時代前期の掘立柱建物 古墳時代後期の竪穴住居	個人医院建設 〔国庫補助事業〕
					50㎡			
4	郡家遺跡城ノ前地区 第38次調査	東灘区御影町御 影字城ノ前1427 -2	神戸市教育委員会	河野 喜映 福島 孝行 小栗 明彦	383㎡	9.9.24～9.12.16	古墳時代中期の流路 弥生時代後期の土坑・溝・柱穴	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
					1,532㎡			
5	郡家遺跡大蔵地区 第6次調査	東灘区御影町郡 家字大蔵10-4	神戸市教育委員会	関野 豊	80㎡	10.3.12～10.3.24	遺構は確認されず 旧河道	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
					80㎡			
6	岡本東遺跡第1次調査	東灘区岡本7丁 目31-2	神戸市教育委員会	中山 浩彦 丸杉俊一郎 (県支援)	193㎡	10.1.8～10.3.2	弥生時代～古墳時代前期の掘立柱建物・ 竪穴住居址、縄文時代後期の貯蔵穴 縁帯文土器	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
					579㎡			
7	森北町遺跡第8次調査	東灘区森北町4 丁目30-2	神戸市教育委員会	藤井 太郎	100㎡	9.10.30～9.11.19	古墳時代中期の流路 古墳時代前期の 流路 弥生時代後期の竪穴住居・土坑 溝・柱穴・流路	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
					200㎡			
8	本山遺跡第28次調査	東灘区本山北町 3丁目3-12	神戸市教育委員会	松林 宏典	95㎡	9.10.24～9.11.12	弥生時代の土坑・ピット	公民館再建 〔国庫補助事業〕
					95㎡			
9	住吉宮町遺跡第24次調査	東灘区住吉本町 1丁目7-32	神戸市教育委員会	安田 滋 西岡 誠司	450㎡	9.4.1～9.5.7	古墳時代中期の方墳4基 弥生時代末の土器棺墓 人物埴輪	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
					450㎡			
10	住吉宮町遺跡第25次調査	東灘区住吉宮町 3丁目14	神戸市教育委員会	内藤 俊哉	500㎡	9.4.7～9.8.8	中世の土坑墓 古墳時代の掘立柱建物 弥生時代末の竪穴住居・土器溜り	共同住宅建設
					1,500㎡			
11	住吉宮町遺跡第26次調査	東灘区住吉宮町 7丁目6-7	神戸市教育委員会	浅谷 誠吾	100㎡	9.4.9～9.5.8	奈良時代の掘立柱建物 古墳時代後期の竪穴住居	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
					300㎡			
12	住吉宮町遺跡第27次調査	東灘区住吉宮町 7丁目3-27	神戸市教育委員会	西岡 誠司 関野 豊	900㎡	9.4.16～9.5.30	古墳時代の土坑墓 弥生時代の竪穴住居	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
					3,600㎡			
13	住吉宮町遺跡第28次調査	東灘区住吉宮町 6丁目14-5	神戸市教育委員会	阿部 敬生	120㎡	9.9.9～9.9.17	中世の土坑・ピット	事務所付き共同住宅 建設 〔国庫補助事業〕
					120㎡			
14	住吉宮町遺跡第30次調査	東灘区住吉本町 1丁目20-7	神戸市教育委員会	内藤 俊哉	300㎡	10.2.16～10.3.31 H11継続	中世の石列・掘立柱建物・流路	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
					600㎡			
15	本庄町遺跡第6次調査	東灘区本庄町2 丁目181・182	神戸市教育委員会	小栗 明彦 藤井 保夫 (県支援)	450㎡	9.7.1～9.8.28	中世以降の井戸・土坑 古墳時代～中世の水田址・溝	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
					1,800㎡			
16	本庄町遺跡第7次調査	東灘区本庄町2 丁目180	神戸市教育委員会	富山 直人	800㎡	10.3.18～10.3.31 H11継続	弥生時代～中世の水田址	共同住宅建設
					800㎡			
17	東灘No.22地点第2次調査	東灘区本山北町 6丁目2-9	神戸市教育委員会	藤井 太郎	30㎡	9.4.14～9.4.15	弥生時代～中世にかけての遺物の流れ 込み	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
					30㎡			

平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(2)

No	遺跡名	所在地	調査主体	調査担当者	掘削面積	調査期間	調査内容	調査原因
					延調査面積			
18	篠原遺跡第16次調査	灘区篠原本町3丁目17-1、3	神戸市教育委員会	内藤 俊哉	160㎡ 480㎡	9.8.12～9.9.25	中世の溝・土坑 古墳時代の竪穴住居・溝 縄文土器（晩期）	事務所付き共同住宅 〔国庫補助事業按分〕
19	篠原遺跡第17次調査	灘区篠原中町2丁目7	神戸市教育委員会	佐伯 二郎 中村 大介	95㎡ 285㎡	10.3.3～10.3.31 H11継続	弥生時代後期の竪穴住居址 縄文時代晩期の土器棺	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
20	西求女塚古墳第9次調査	灘区都通2丁目1-12	神戸市教育委員会	西岡 誠司	80㎡ 80㎡	9.12.19～10.1.7	奈良～平安時代の土坑・溝・ピット 奈良時代以前の地震痕跡	工場付き専用住宅 〔国庫補助事業〕
21	西求女塚古墳第10次調査	灘区都通3丁目41・42	神戸市教育委員会	東 喜代秀	101㎡ 101㎡	10.3.11～10.3.23	鎌倉時代のピット数基	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
22	都賀遺跡第8次調査	灘区神前町3丁目442・444	神戸市教育委員会	東 喜代秀	55㎡ 55㎡	9.7.1～9.7.4	弥生時代～中世の遺物包含層 土石流	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
23	都賀遺跡第9次調査	灘区六甲町5丁目31-2	〔協〕神戸市スポーツ教育公社	川上 厚志	1,000㎡ 3,000㎡	9.12.2～10.3.31	近世の溝・耕作痕 弥生時代後期の溝	市営住宅建設
24	西郷古酒蔵群第2次調査	灘区新在家南町3丁目126-4	神戸市教育委員会	富山 直人	300㎡ 750㎡	10.1.12～10.3.18	近世～近代の酒蔵 酒造施設（釜屋・前蔵・大蔵・店舗・居住区・釜場・糟場）	倉庫建設
25	脇浜西遺跡（試掘）	中央区脇浜海岸通2丁目88	神戸市教育委員会	西岡 巧次	170㎡ 170㎡	9.6.16～9.6.23	室町時代の整地層・ピット 土師器	東部新都心再開発 〔国庫補助事業〕
26	脇浜西遺跡第1次調査	中央区脇浜海岸通2丁目88	神戸市教育委員会	西岡 巧次	540㎡ 540㎡	9.7.7～9.9.5	鎌倉時代後期の掘立柱建物・区画溝・土坑	東部新都心再開発
27	中山手遺跡第2次調査	中央区中山手4丁目11-16	神戸市教育委員会	木戸 雅寿 三輪 晃三 （県支援）	231㎡ 693㎡	10.1.12～10.2.23	近世の料亭の火災面 弥生時代末の集落址	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
28	雲井遺跡第9次調査	中央区旭通3丁目38-3	神戸市教育委員会	前田 佳久	150㎡ 750㎡	9.4.1～9.4.4	H8年度調査地撤収作業等	店舗付き住宅 〔国庫補助事業〕
29	雲井遺跡第10次調査	中央区旭通2丁目13	神戸市教育委員会	富山 直人	800㎡ 1,600㎡	9.4.1～9.5.26	古墳時代後期の竪穴住居・大型の柱掘方をもつ掘立柱建物	団地建設
30	日暮遺跡第15次調査	中央区八雲通1丁目4-3・5	神戸市教育委員会	口野 博史	346㎡ 1,088㎡	9.11.10～10.2.23	鎌倉時代後期の土坑・溝・ピット・井戸・畝状遺構 青磁器・陶器・火箸状金属製品	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
31	湊川遺跡第3次調査	兵庫区下沢通2丁目2-1	神戸市教育委員会	富山 直人 中村 大介	200㎡ 200㎡	10.12.15～10.2.20	中世以降の護岸石組み 中世のピット・土坑	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
32	大開遺跡第7次調査	兵庫区大開通3丁目1-25	神戸市教育委員会	鎌田 勉 友岡 信彦 （県支援）	220㎡ 220㎡	9.4.1～9.4.3	H8年度調査地撤収作業等	会社ビル建設 〔国庫補助事業〕
33	上沢遺跡第8次調査	兵庫区上沢通8丁目10-1	神戸市教育委員会	斎木 巖 三輪 晃三 （県支援）	340㎡ 1,020㎡	9.4.1～9.7.14	鎌倉時代の井戸、奈良～平安時代の掘立柱建物 弥生時代後期の土坑・溝 弥生時代前期の土坑・溝	道路建設 山手幹線拡幅
34	上沢遺跡第9-1次調査	長田区五番町1・2丁目	〔協〕神戸市スポーツ教育公社	池田 毅 井尻 格	750㎡ 1,500㎡	9.6.16～9.10.8	奈良～平安時代の掘立柱建物 古墳時代の竪穴住居・大壁造り建物 滑石製品・韓式土器・製塩土器	道路建設 山手幹線拡幅

平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(3)

No	遺 跡 名	所 在 地	調 査 主 体	調 査 担 当 者	掘 削 面 積	調 査 期 間	調 査 内 容	調 査 原 因
					延調査面積			
35	上沢遺跡第9-II次調査	長田区五番町1・2丁目	（財）神戸市スポーツ教育公社	池田 毅 井尻 格	650㎡ 1,300㎡	9.10.9～10.2.12	奈良～平安時代の掘立柱建物 古墳時代の竪穴住居・大壁造り建物 滑石製品・韓式土器・製塩土器	道路建設 山手幹線拡幅
36	上沢遺跡第10次調査	兵庫区上沢通8丁目10・11	神戸市教育委員会	富山 直人	400㎡ 800㎡	9.8.18～9.10.4	中世の土坑・溝 奈良時代の井戸 弥生時代末の溝 弥生時代前期の土坑・溝	共同住宅 〔国庫補助事業〕
37	上沢遺跡第11次調査	長田区六番町1丁目4-48	神戸市教育委員会	斎木 巖	60㎡ 120㎡	9.8.25～9.9.5	平安時代の溝	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
38	上沢遺跡第12次調査	兵庫区上沢通8丁目13-16・17	神戸市教育委員会	横田 明 家塚 英詞 （県支援）	37㎡ 74㎡	9.9.4～9.9.16	中世の柱穴	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
39	上沢遺跡第13次調査	兵庫区上沢通6丁目13-31	神戸市教育委員会	西岡 巧次	28㎡ 56㎡	9.9.8～9.9.18	古墳時代の掘立柱建物 弥生時代後期の落ち込み	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
40	上沢遺跡第14次調査	兵庫区上沢通8丁目13-23	神戸市教育委員会	斎木 巖	20㎡ 60㎡	9.9.24～9.10.9	奈良～平安時代のビット・土坑 弥生時代後期の土坑・ビット 弥生時代前期の溝	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
41	上沢遺跡第15次調査	長田区五番町1丁目6-14	神戸市教育委員会	横田 明 家塚 英詞 （県支援）	30㎡ 30㎡	9.10.1～9.10.2	上層のみ調査で遺構は確認されず 下層には流路確認	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
42	上沢遺跡第16次調査	兵庫区上沢通8丁目10-6	神戸市教育委員会	斎木 巖 奈良 康正 （県支援）	405㎡ 1,355㎡	9.11.18～10.3.31	古墳時代初頭の竪穴住居 弥生時代後期の竪穴住居 弥生時代後期の地震痕跡（地滑り）	道路建設 山手幹線拡幅
43	上沢遺跡第17次調査	兵庫区松本通8丁目4-5	神戸市教育委員会	松林 宏典	40㎡ 40㎡	9.12.11～9.12.18	古墳時代の流路 布留式土器～古墳時代後期の須恵器	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
44	上沢遺跡第18次調査	兵庫区上沢通8丁目13-15・16	神戸市教育委員会	阿部 敬生	50㎡ 50㎡	9.12.17～9.12.25	中世の土坑・溝・ビット・落ち込み 弥生土器 古墳時代の須恵器・土師器	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
45	兵庫松本遺跡第9次調査	兵庫区松本通2丁目5-1	神戸市教育委員会	松林 宏典	416㎡ 832㎡	10.1.13～10.3.31 H11継続	古墳時代前期の掘立柱建物・流路 弥生時代後期の竪穴住居・土坑・溝 弥生時代前期の流路	市営住宅建設
46	日下部遺跡 -1 （試掘）	北区道場町日下部・八多町中	神戸市教育委員会	久保 弘幸 （県支援）	80㎡ 80㎡	9.4.7～9.4.9	古墳時代・室町時代の遺構を確認	土地区画整理 〔国庫補助事業〕
46	中遺跡 -2 （試掘）	北区八多町中	神戸市教育委員会	久保 弘幸 （県支援）	77㎡ 77㎡	9.7.10～9.7.16	古墳時代・鎌倉～室町時代の遺構を確認	土地区画整理 〔国庫補助事業〕
47	星和・八多 （試掘）	北区有野町有野字福谷北4156	神戸市教育委員会	阿部 敬生	210㎡ 210㎡	9.7.3～9.7.24	遺構は確認されず	宅地造成 〔国庫補助事業〕
48	湯山遺跡（湯山御殿跡） 第1次調査	北区有馬町字有馬1642	神戸市教育委員会	須藤 宏	450㎡ 1,270㎡	9.4.1～9.10.3	安土桃山時代に豊田秀吉が作らせた湯山御殿の一部 湯殿関係の遺構・庭園	寺院庫裏再建 〔国庫補助事業〕
49	湯山遺跡第2次調査	北区有馬町字有馬1030	神戸市教育委員会	浅谷 誠吾	80㎡ 180㎡	9.12.3～10.1.8	近世初頭の石垣・造成面	個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
50	長田神社境内遺跡 第10次調査	長田区六番町8丁目3	神戸市教育委員会	藤井 太郎 丸杉俊一郎 （県支援）	1,100㎡ 1,100㎡	9.6.16～9.9.16	近世の噴砂 中世の掘立柱建物 弥生時代後期の竪穴住居・掘立柱建物 小型仿製鏡	市場再建 〔国庫補助事業〕

平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(4)

No	遺 跡 名	所 在 地	調 査 主 体	調 査 担 当 者	掘 削 面 積	調 査 期 間	調 査 内 容	調 査 原 因
					延調査面積			
52	長田神社境内遺跡 第11次調査	長田区長田町3 丁目1-1	神戸市教育委員会	佐伯 二郎	30㎡ 60㎡	10.2.19～10.3.6	近世の石組み遺構 古墳時代の須恵器・土師器	防火水槽設置 〔国庫補助事業〕
52	長田南遺跡第2次調査	長田区五番町8 丁目	神戸市教育委員会	池田 毅	600㎡ 600㎡	10.3.4～10.3.31 H11継続	中世の掘立柱建物 弥生時代中～後期の竪穴住居 突帯文土器	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
53	神楽遺跡第10次調査	長田区川西通3 丁目53-2	神戸市教育委員会	松林 宏典	18㎡ 18㎡	10.1.6～10.1.6	流れ込み堆積による遺物少量	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
54	御蔵遺跡第2次調査	長田区御蔵通5 丁目97	神戸市教育委員会	関野 豊	710㎡ 2,130㎡	9.12.15～10.2.13	奈良時代の掘立柱建物・井戸・土坑 古墳時代の土坑・溝 弥生土器	市営住宅建設
55	御蔵遺跡第3次調査	長田区御蔵通5 丁目	（財）神戸市スポーツ 教育公社	山口 英正	350㎡ 700㎡	10.1.8～10.2.27	古墳時代後期～平安時代の掘立柱建物	市営住宅建設
56 -1	松野遺跡第5-II次調査	長田区日吉町2 丁目	神戸市教育委員会	口野 博史	468㎡ 468㎡	9.4.4～9.5.19	掘立柱建物・竪穴住居 井戸・ピット・土坑・溝 土師器・須恵器・砥石・白玉	市街地再開発事業
56 -2	松野遺跡第6-I次調査	長田区若松町7 丁目	神戸市教育委員会	口野 博史	765㎡ 765㎡	9.5.6～9.6.26	掘立柱建物・竪穴住居 井戸・ピット・土坑・溝 土師器・須恵器・砥石・白玉	市街地再開発事業
57	三番町跡第8次調査	長田区三番町3 丁目・四番町4 丁目	（財）神戸市スポーツ 教育公社	東 喜代秀 井尻 格	845㎡ 1,325㎡	9.11.5～10.2.3	中世の水田畦畔・溝・井戸・ピット 古墳時代の溝・土坑・ピット 中世の獣骨	道路建設
58 -1	二葉町遺跡 第5-I次調査	長田区腕塚町6 丁目	神戸市教育委員会	口野 博史	255㎡ 255㎡	9.6.18～9.7.25	掘立柱建物・土坑・溝・ピット・井戸 状遺構	市街地再開発事業
58 -2	二葉町遺跡 第5-II次調査	長田区腕塚町6 丁目	神戸市教育委員会	口野 博史	100㎡ 100㎡	9.8.27～9.9.10	鎌倉時代の掘立柱建物・土坑・溝・ ピット・井戸状遺構 土師器・須恵器・青磁器・白磁器	市街地再開発事業
59	二葉町遺跡第6次調査	長田区久保町5 丁目	神戸市教育委員会	口野 博史	300㎡ 300㎡	9.8.5～9.9.17	鎌倉時代後期の溝・井戸・土坑・ ピット 土師器・須恵器・青磁器・白磁器	市街地再開発事業
58 -3	二葉町遺跡第7次調査	長田区二葉町6 丁目	神戸市教育委員会	口野 博史 石島 三和	700㎡ 700㎡	10.2.23～10.3.28	鎌倉時代の掘立柱建物・井戸 土師器・須恵器・青磁器・白磁器・ 瓦器・縄文土器・曲物	市街地再開発事業
60	長田本庄町遺跡 第1次調査	長田区本庄町7 丁目4	神戸市教育委員会	岡田 章一 久保 弘幸 （県支援）	437㎡ 437㎡	10.2.23～10.3.18	中世の柱穴 古墳時代の溝・池状遺構	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
61	御船遺跡第2次調査	長田区大道通2 丁目・御船通2 丁目	（財）神戸市スポーツ 教育公社	池田 毅	600㎡ 1,200㎡	9.4.8～9.6.11	古代～中世の掘立柱建物・井戸 弥生時代後期の水田址	市営住宅建設
62	御船遺跡第3次調査	長田区川西通3 丁目57-1	神戸市教育委員会	富山 直人	300㎡ 300㎡	9.5.27～9.6.5	中世の須恵器・土師器	教会建設 〔国庫補助事業〕
63	戎町遺跡第25次調査	須磨区大田町3 丁目4-17	神戸市教育委員会	西岡 巧次	38㎡ 38㎡	9.6.4～9.6.11	弥生時代後期の河道 弥生時代中期の溝	店舗兼個人住宅建設 〔国庫補助事業〕
64	戎町遺跡第26次調査	須磨区大田町4 丁目2	神戸市教育委員会	富山 直人	200㎡ 400㎡	9.7.11～9.8.5	中世のピット・ 弥生時代中期の河道・竪穴住居 土師器・弥生土器・石斧・人骨	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕

平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(5)

No.	遺跡名	所在地	調査主体	調査担当者	掘削面積	調査期間	調査内容	調査原因
					延調査面積			
65	千歳遺跡第1次調査	須磨区千歳町3丁目3	神戸市教育委員会	山口 英正	180㎡ 360㎡	9.7.29～9.8.29	平安時代～鎌倉時代の柱穴 弥生時代中期の土器棺	市営住宅建設
66	千歳遺跡第2次調査	須磨区千歳町3丁目3	神戸市スポーツ教育公社	山口 英正	400㎡ 650㎡	9.12.3～10.1.13	弥生時代後期の河道 弥生時代中期の柱穴	土地区画整理
67	千歳遺跡第3次調査	須磨区千歳町4丁目1-4	神戸市教育委員会	関野 豊 高瀬 一嘉 深江 英憲	625㎡ 625㎡	10.2.17～10.3.31 H11継続	古墳時代後期の溝 弥生時代末の竪穴住居 弥生時代後期の溝 弥生土器・須恵器・土師器・石包丁	店舗付き共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
68	権現町遺跡第2次調査	須磨区大手町3丁目1-57	神戸市教育委員会	斎木 巖 家塚 英詞 (県支援)	200㎡ 200㎡	9.7.15～9.8.11	平安時代末の井戸・土坑 弥生時代の溝 平安時代末の軒丸瓦	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
69	大田町遺跡第9次調査	須磨区戎町5丁目18	神戸市教育委員会	藤井 太郎	230㎡ 460㎡	9.5.21～9.6.13	奈良時代の溝・土坑 須恵器・土師器・銅製品	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
70	大田町遺跡第10次調査	須磨区大池町5丁目	神戸市スポーツ教育公社	西岡 誠司	220㎡ 682㎡	10.2.16～10.3.31	弥生時代後期～古墳時代前期の土坑・溝 弥生時代中期～後期の土坑・溝 弥生時代前期の水田跡・溝	土地区画整理
71	須磨天神町遺跡第1次調査	須磨区天神町3丁目4・4丁目4	神戸市スポーツ教育公社	松林 宏典 井尻 格	2,090㎡ 2,090㎡	9.5.12～10.3.26	近世の土坑・井戸・ピット・耕作痕 鎌倉時代～室町時代の土坑・溝・井戸・ピット	道路建設
72	垂水日向遺跡第16次調査	垂水区日向1丁目	神戸市スポーツ教育公社	谷 正俊 平田 朋子	2,060㎡ 8,215㎡	9.4.7～9.10.27	縄文時代後期の洪水砂層と大量の流木 縄文時代早期の人の足跡	市街地再開発事業
73	垂水日向遺跡天ノ下地区	垂水区天ノ下町2・3・6丁目	神戸市スポーツ教育公社	西岡 誠司	1,316㎡ 1,316㎡	9.10.21～10.2.10	鎌倉時代の井戸、平安時代の土坑 古墳時代の土坑・自然流路 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	市街地再開発事業
74	垂水日向遺跡天ノ下地区	垂水区天ノ下町53	神戸市教育委員会	木戸 雅寿 横田 明 (県支援)	110㎡ 110㎡	9.11.28～9.12.17	古墳時代の土坑・自然流路	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
75	二ツ屋遺跡第6次調査	西区玉津町二ツ屋513他	神戸市教育委員会	河野 喜映 深谷 憲二 小栗 明彦 岸本 一宏	508㎡ 508㎡	9.4.23～9.6.10	中世の溝・ピット 弥生時代～古墳時代の溝・土坑	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
76	日輪寺遺跡第4次調査	西区玉津町二ツ屋字西山692他	神戸市教育委員会	深谷 憲二 氏平 昭則 (県支援)	1,820㎡ 1,820㎡	9.9.26～10.2.27	中世の掘立柱建物・土坑・集石 弥生～古墳時代の竪穴住居 鳥形土製品	共同住宅建設 〔国庫補助事業〕
77	出合遺跡第36次調査	西区玉津町出合字中ノ田463・464	神戸市教育委員会	西岡 巧次	230㎡ 690㎡	9.4.8～9.6.2	室町時代以降の水田畦畔 鎌倉時代の掘立柱建物・溝・土坑 鎌倉時代以前の自然流路	宅地造成 〔国庫補助事業〕
78	出合遺跡第38次調査	西区玉津町中野1丁目9-1・2	神戸市教育委員会	佐伯 次郎	210㎡ 210㎡	10.1.26～10.2.18	古墳時代の土坑・溝	宅地造成 〔国庫補助事業〕
79	今津遺跡第8次調査	西区玉津町字高津橋字岡ノ下270	神戸市教育委員会	川上 厚志	267㎡ 267㎡	9.7.23～9.8.21	古墳時代の水田畦畔 土師器・須恵器・木製品	宅地造成 〔国庫補助事業〕
80	今津遺跡第9次調査	西区玉津町字今津字岡ノ下654-1	神戸市教育委員会	川上 厚志	420㎡ 420㎡	9.8.11～9.8.29	水田土壌・地震痕跡 銭貨『治平元宝』	宅地造成 〔国庫補助事業〕
81	新方遺跡野手西方地区第1次調査	西区玉津町西河原字丁目野手他	神戸市教育委員会	山口 英正 浅谷 誠吾 半澤 幹雄	1,600㎡ 2,600㎡	9.4.1～9.7.25	弥生時代前期の埋葬施設 中期の方形周溝墓 古墳時代中期の竪穴住居 弥生時代の人骨	土地区画整理 〔国庫補助事業〕

平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（復興事業に伴う調査）(6)

No	遺跡名	所在地	調査主体	調査担当者	掘削面積	調査期間	調査内容	調査原因
					延調査面積			
82	新方遺跡野手西方地区 第2次調査	西区玉津町西河原・新方	神戸市教育委員会	山口 英正 東 喜代秀	540㎡ 1,620㎡	9.9.5～9.11.28	弥生時代前期・中期の土坑・環濠・ 掘立柱建物 獣骨	土地区画整理 (国庫補助事業)
83	新方遺跡東方地区 第6次調査	西区玉津町新方 東方206	神戸市教育委員会	富山 直人	200㎡ 200㎡	9.11.10～9.12.5	中世のピット、弥生時代の土坑	共同住宅建設 (国庫補助事業)
84	新方遺跡平松地区 第3次調査	西区伊川谷町潤 和字平松	(財)神戸市スポーツ 教育公社	西岡 誠司 藤井 太郎 石島 三和	1,720㎡ 5,800㎡	9.6.2～10.3.31	江戸時代以降の地震痕跡 中世の掘立柱建物・土坑、平安時代の 鍛冶工房跡 弥生時代後期の溝	道路建設
85	白水瓢塚古墳第3次調査	西区伊川谷町潤 和字シンド山	神戸市教育委員会	須藤 宏 家塚 英詞	2,500㎡ 2,500㎡	9.11.19～10.3.16	古墳時代前期の白水瓢塚古墳周辺の墳 輪棺 古墳時代後期の方墳	宅地造成 (国庫補助事業)
86	頭高山遺跡第7次調査	西区学園西町4 丁目	(財)神戸市スポーツ 教育公社	東 喜代秀 石島 三和	15,000㎡ 15,000㎡	9.4.1～9.6.30	弥生時代中期の竪穴住居 段状遺構 中世の埋葬施設	学園都市造成
87	城ヶ谷遺跡第3次調査	西区榎谷町昔野 字城ヶ谷	(財)神戸市スポーツ 教育公社	山本 雅和 石島 三和 中谷 正	18,000㎡ 18,000㎡	9.4.7～10.1.30	奈良時代前半の蔵骨器 古墳時代の濠 弥生時代の竪穴住居・段状遺構・濠	ニュータウン造成
88	城ヶ谷遺跡 (試掘)	西区榎谷町昔野 字城ヶ谷	神戸市教育委員会	川上 厚志 中谷 正	1,526㎡ 1,526㎡	9.9.17～9.11.18	弥生時代の竪穴住居	ニュータウン造成 (国庫補助事業)
89	丸塚遺跡 (試掘)	西区玉津町丸塚 11他	神戸市教育委員会	河野 喜映 岸本 一宏	163㎡ 163㎡	9.8.20～9.9.2	中世の溝	区画整理 (国庫補助事業)
90	兵庫津遺跡第14次調査	兵庫区兵庫町1 丁目～東柳原1 丁目	兵庫県教育委員会	岡田・渋谷 鈴木・三輪 横田	3,600㎡ ㎡	9.4.14～9.8.6	中世～近世にかけての町屋	共同溝建設
90	御船遺跡	長田区大通通3 丁目	兵庫県教育委員会	平田 博幸 丹家 昌博 高瀬 一嘉	726㎡ ㎡	9.12.25～10.3.14	中世の集落	団地建設
90	中遺跡	北区八多町中	兵庫県教育委員会	久保 弘幸 藤井 整	1,385㎡ ㎡	9.8.18～9.11.29	中世の掘立柱建物 古墳時代後期の古墳3基 近世の鋳型・鞆・鉄滓	土地区画整理
92	日下部遺跡・中遺跡	北区八多町中・ 道場町日下部	兵庫県教育委員会	岡田 章一 久保 弘幸	2,189㎡ ㎡	9.10.16～10.2.17	古墳時代～中世の集落跡	土地区画整理
93	丸塚遺跡	西区玉津町丸塚 81・82他	兵庫県教育委員会	河野 喜映 岸本 一宏	864㎡ ㎡	9.6.23～9.9.2	庄内期の水田跡 中世の集落	土地区画整理
94	垂水日向遺跡天ノ下地区	垂水区天ノ下町	妙見山麓遺跡調査 会	神崎 勝	43㎡ ㎡	9.7.28～9.9.1	中世の柱穴 古墳時代の溝	市街地再開発事業
97	垂水日向遺跡天ノ下地区	垂水区天ノ下町	妙見山麓遺跡調査 会	神崎 勝	674㎡ ㎡	9.10.20～9.12.27	中世の溝・土坑 古墳時代の溝および土坑状ピット	市街地再開発事業

平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（通常事業に伴う調査）(1)

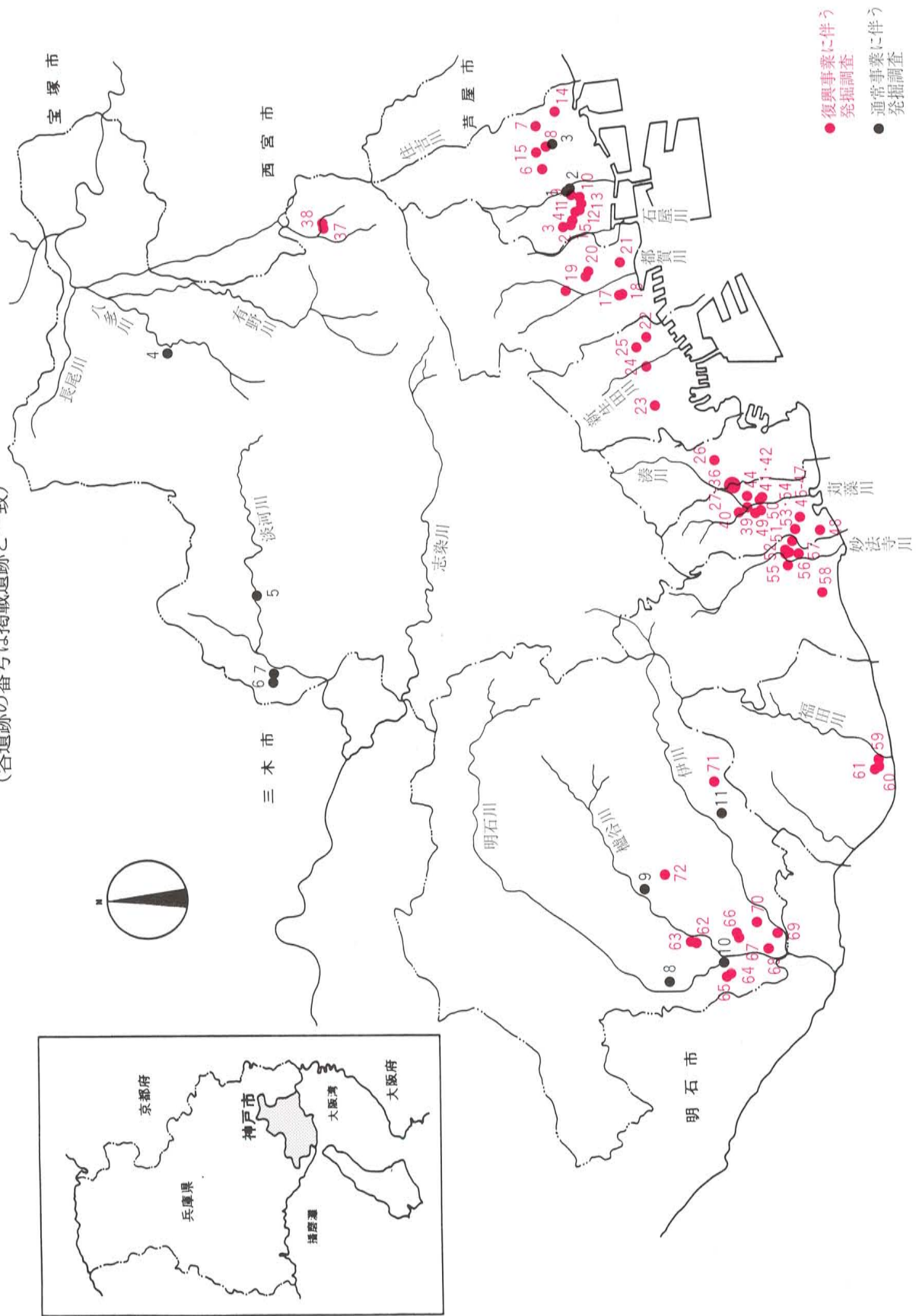
No	遺 跡 名	所 在 地	調 査 主 体	調査担当者	掘 削 面 積	調 査 期 間	調 査 内 容	調 査 原 因
					延調査面積			
1	坊ヶ塚古墳 (試掘)	東灘区住吉本町 1丁目454-1	神戸市教育委員会	菅本 宏明	360㎡ 360㎡	9.5.26～9.6.23	葺石・周濠等 古墳存在の確認	立体駐車場建設
2	本山遺跡第27次調査	東灘区本山南町 8丁目6-26	神戸市教育委員会	藤井 太郎	170㎡ 170㎡	9.4.24～9.5.16	弥生時代の落ち込み 江戸時代の噴砂 弥生土器・サヌカイト片	社屋建設
3	住吉宮町遺跡第29次調査	東灘区住吉本町 1丁目1	神戸市教育委員会	菅本 宏明 平田 朋子	765㎡ 1,691㎡	9.11.18～10.3.31	弥生時代中期の溝 弥生時代末の溝 古墳時代後期の方墳6基 古代～中世の掘立柱建物	スポーツ施設等建設
4	上津遺跡 (試掘)	北区長尾町上津	神戸市教育委員会	阿部 敬生 浅谷 誠吾	40㎡ 40㎡	9.12.8～10.1.27	中世の土坑・ピット等	下水管敷設
5 -1	上津遺跡	北区長尾町上津	㈲神戸市スポーツ 教育公社	東 喜代秀	40㎡ 40㎡	10.2.13～10.3.4	攪乱のため遺構確認できず	下水管敷設
-2	上小名田遺跡第19次調査	北区八多町上小 名田	㈲神戸市スポーツ 教育公社	阿部 敬生	500㎡ 500㎡	10.2.13～10.3.31	平安時代の土坑・ピット・溝等	下水管敷設
6	上小名田遺跡第20次調査	北区八多町上小 名田字エンホウ 1	神戸市教育委員会	浅谷 誠吾	110㎡ 220㎡	9.11.5～9.12.2	平安時代末～鎌倉時代の掘立柱建物・ 水溜め遺構	個人住宅建設 (国庫補助事業)
7	茶臼山城跡 (試掘)	北区長尾町上津	㈲神戸市スポーツ 教育公社	阿部 敬生	32㎡ 32㎡	9.10.27～9.11.25	堀・ピット、土師器・釘等の鉄製品	保存整備
8 -1	淡河木津遺跡第1次調査	北区淡河町木津	神戸市教育委員会	川上 厚志	900㎡ 900㎡	9.5.7～9.6.13	近世の溝 土師器・須恵器・陶磁器	圃場整備 (国庫補助事業)
-2	淡河木津遺跡第2次調査	北区淡河町木津	神戸市教育委員会	内藤 俊哉 中村 大介	3,730㎡ 3,905㎡	9.8.5～10.1.22	中世の掘立柱建物・土坑墓・園地 近世の鍛冶炉・溜井戸 土師器・須恵器・刀子・火打石	圃場整備 (国庫補助事業)
-3	淡河萩原城遺跡 第6次調査	北区淡河町萩原	神戸市教育委員会	中村 大介	150㎡ 220㎡	9.12.15～10.1.19	中世の旧河道	圃場整備 (国庫補助事業)
10 -1	勝雄遺跡第2次調査	北区淡河町勝雄 宮上の原194	神戸市教育委員会	阿部 敬生	540㎡ 700㎡	9.4.8～9.6.30	奈良時代～中世の掘立柱建物・土坑・ 溝	圃場整備 (国庫補助事業)
-2	勝雄遺跡第3次調査	北区淡河町勝雄 宮の浦	神戸市教育委員会	西岡 巧次 関野 豊	2,200㎡ 2,200㎡	9.9.25～10.3.4	弥生時代後期の竪穴住居 飛鳥時代の 竪穴住居・掘立柱建物 奈良時代～中世の掘立柱建物	圃場整備 (国庫補助事業)
11	野瀬遺跡 (試掘)	北区淡河町野瀬	神戸市教育委員会	内藤 俊哉 井尻 格	854㎡ 854㎡	9.4.9～10.1.20	中世の遺構・遺物を確認	圃場整備 (国庫補助事業)
12	舞子浜遺跡 (試掘)	垂水区東舞子町	神戸市教育委員会	西岡 誠司 山本 雅和 安田 滋	53㎡ 53㎡	10.1.13～10.3.12	文化財は確認されず	公園整備
13	繁田遺跡	西区平野町繁田	㈲神戸市スポーツ 教育公社	西岡 誠司	32㎡ 32㎡	9.12.10～9.12.15	遺構は確認されず 中世の遺物出土	道路建設
14	大畑遺跡	西区平野町大畑	㈲神戸市スポーツ 教育公社	浅谷 誠吾	200㎡ 200㎡	10.2.17～10.3.9	古墳時代前期の溝 中世の溝・流路	下水管敷設

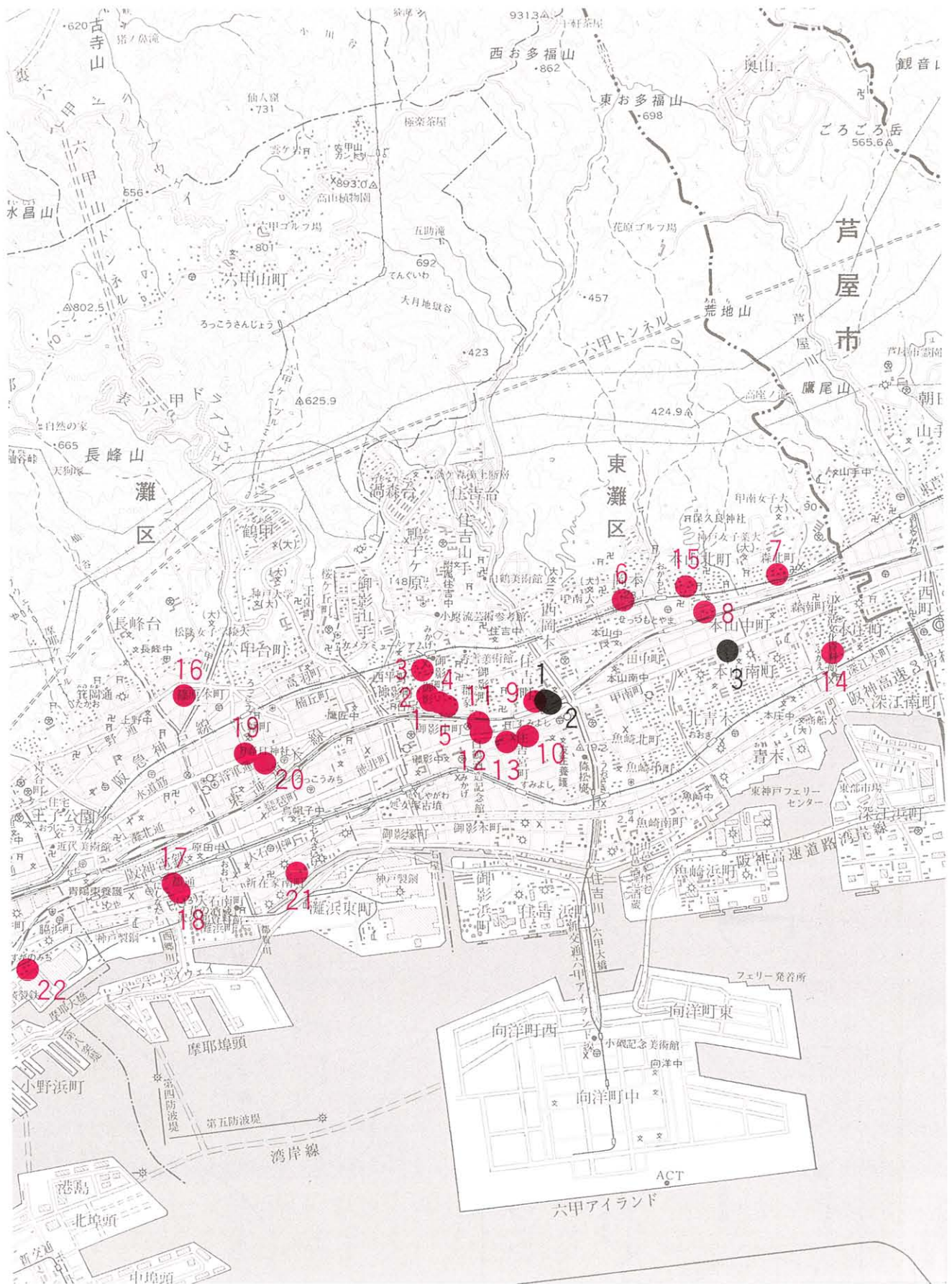
平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表（通常事業に伴う調査）(2)

No	遺 跡 名	所 在 地	調 査 主 体	調査担当者	掘 削 面 積	調 査 期 間	調 査 内 容	調 査 原 因
					延調査面積			
15	玉津・田中遺跡平野地区 第13次調査	西区平野町柴崎	(財)神戸市スポーツ 教育公社	谷 正俊 中谷 正	1,550㎡ 2,757㎡	9.11.17～10.3.24	弥生時代前期～後期の水田跡 平安時代～鎌倉時代の水路 弥生土器 古墳～鎌倉時代の須恵器	道路建設
16	向井・慶明 (試掘)	西区平野町向井・ 慶明	神戸市教育委員会	大平 茂 眞野 修	126㎡ 126㎡	9.10.29～9.11.5	古墳の周溝上の溝 中世の遺構・遺物 を確認	圃場整備 (国庫補助事業)
17	栃木遺跡第13次調査	西区樋谷町菅野 字東下	神戸市教育委員会	中村 大介	950㎡ 1,720㎡	9.4.10～9.7.23	弥生時代の堅穴住居・周溝墓・溝・ 土坑・ピット・自然流路 平安時代の掘立柱建物	圃場整備 (国庫補助事業)
18	栃木遺跡 (試掘)	西区樋谷町菅野 字谷谷	神戸市教育委員会	中村 大介	8㎡ 8㎡	9.7.22～9.7.22	遺構は確認されず	個人住宅
19	出合遺跡第37次調査	西区玉津町出合 屋敷114-1	神戸市教育委員会	浅谷 誠吾	200㎡ 200㎡	9.7.29～9.8.22	古墳時代の溝・水路	ガソリンスタンド 建設
20	青谷遺跡 (試掘)	西区玉津町水谷 字芹合地	神戸市教育委員会	中村 大介	54㎡ 54㎡	10.2.23～10.2.28	弥生土器数点	玉津健康福祉ゾーン 建設 (国庫補助事業)
21	長谷遺跡	西区樋谷町長谷	(財)神戸市スポーツ 教育公社	井尻 格	240㎡ 240㎡	9.5.16～9.6.10	古墳時代の溝 中世の溝	下水管敷設
22	樋谷中学校遺跡 (試掘)	西区樋谷町池谷	神戸市教育委員会	阿部 敬生	130㎡ 130㎡	10.1.13～10.2.12	遺構は確認されず	下水管敷設
23	長坂遺跡	西区伊川谷町長 坂字垣内	(財)神戸市スポーツ 教育公社	東 喜代秀 浅谷 誠吾	800㎡ 2,400㎡	9.8.25～9.10.9	中世の土坑・溝・ピット・耕作痕・ 自然流路	道路建設
24	木津遺跡	西区押部谷町木 津	神戸市教育委員会	川上 厚志	427㎡ 427㎡	9.6.16～9.7.7	時期不明の土坑・ピット・落ち込み	圃場整備 (国庫補助事業)
25	木津遺跡 (試掘)	西区押部谷町木 津	神戸市教育委員会	山本 雅和	20㎡ 20㎡	10.3.16～10.3.16	文化財は確認されず	圃場整備 (国庫補助事業)
26	楠・荒田町遺跡	中央区楠町7丁 目	兵庫県教育委員会	中川 涉 岡 昌秀	525㎡ ㎡	10.2.9～10.3.19	平安時代の集落	病棟建設
27	二郎宮ノ前遺跡	北区有野町二郎	兵庫県教育委員会	西口・篠宮 井本・野村 鈴木	1,588㎡ ㎡	9.10.31～10.2.7	古墳時代後期～近世の集落	鉄道施設建設
28	舞子浜遺跡	垂水区東舞子字 舞子ヶ浜	兵庫県教育委員会	篠宮 正 野村 展右	320㎡ ㎡	9.5.19～9.5.26	古墳時代の埴輪棺	公園整備
29	神出遺跡	西区神出北字芝 垣内53-1他	兵庫県教育委員会	別府 洋二 高木 芳史	1,070㎡ ㎡	10.1.14～10.3.19	平安時代の窯跡	道路建設
30	東畑遺跡	北区淡河町東畑	阪神文化財調査会	岩崎 直也	3,555㎡ ㎡	9.9.24～10.3.31	鎌倉時代～近世の屋敷跡	圃場整備
31	南浦遺跡	北区淡河町北畑	阪神文化財調査会	岩崎 直也	1,050㎡ ㎡	9.5.26～9.9.16	平安時代～近世の屋敷跡	圃場整備

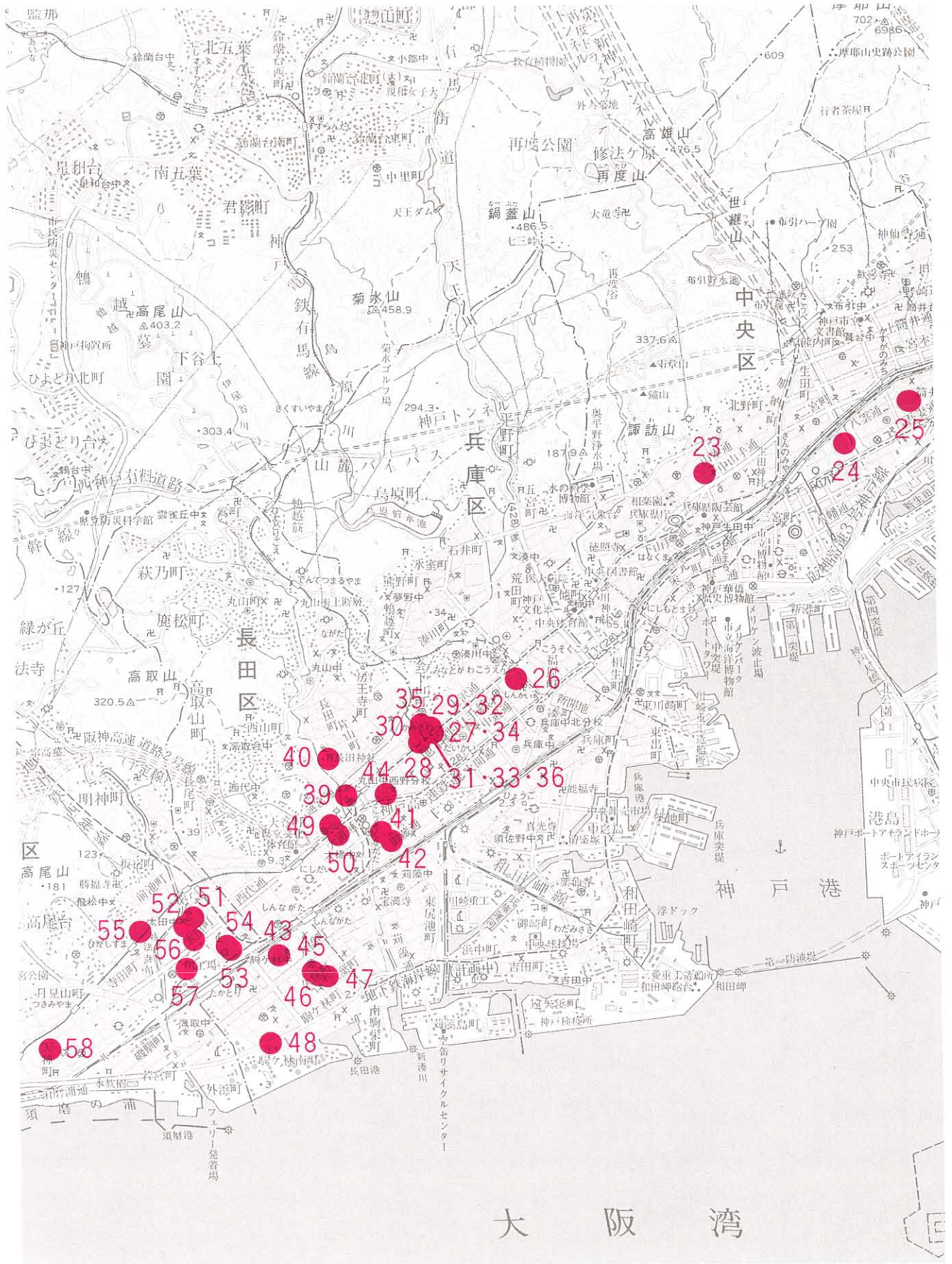
平成9年度 神戸市埋蔵文化財調査位置図

(各遺跡の番号は掲載遺跡と一致)

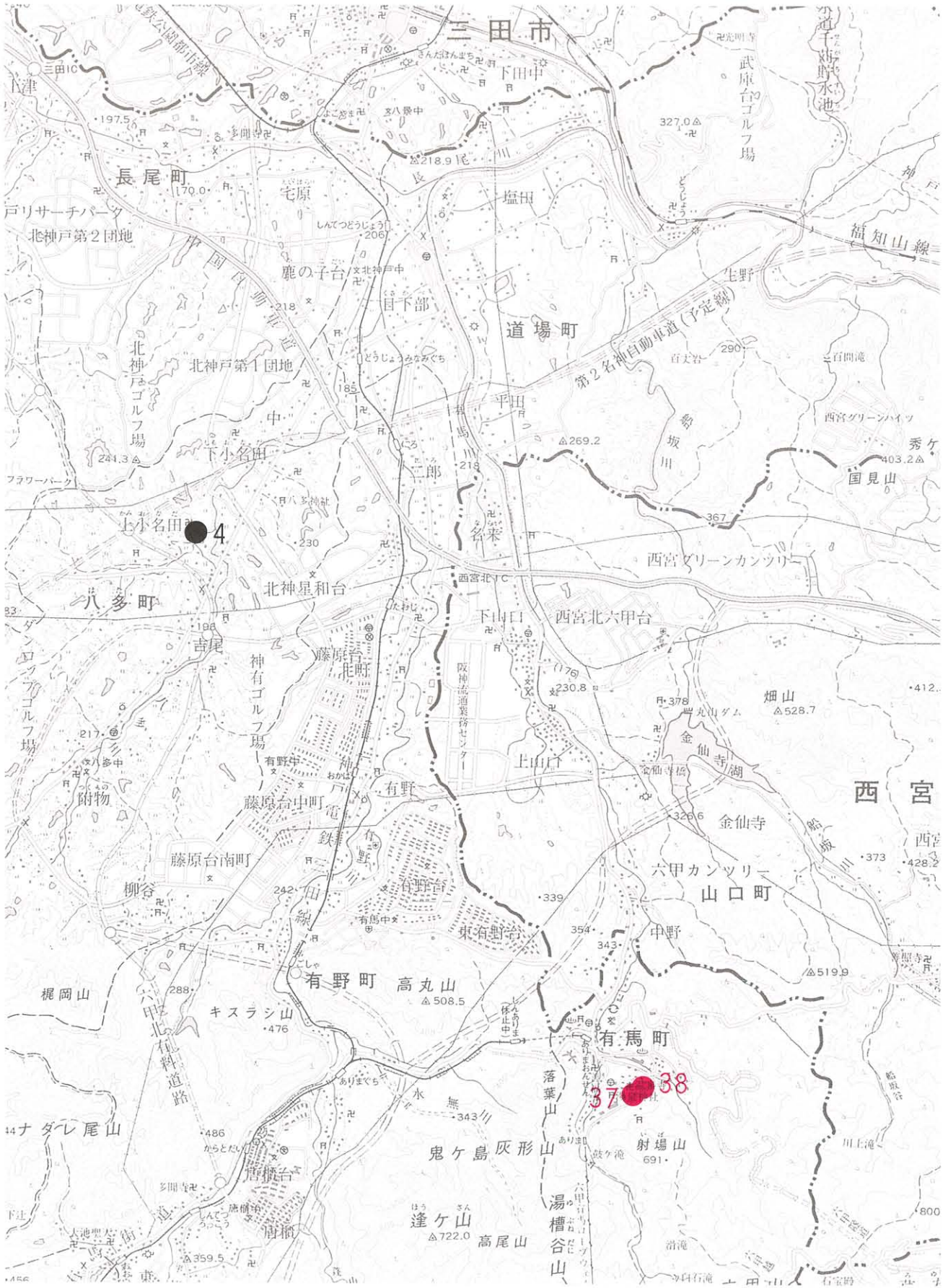




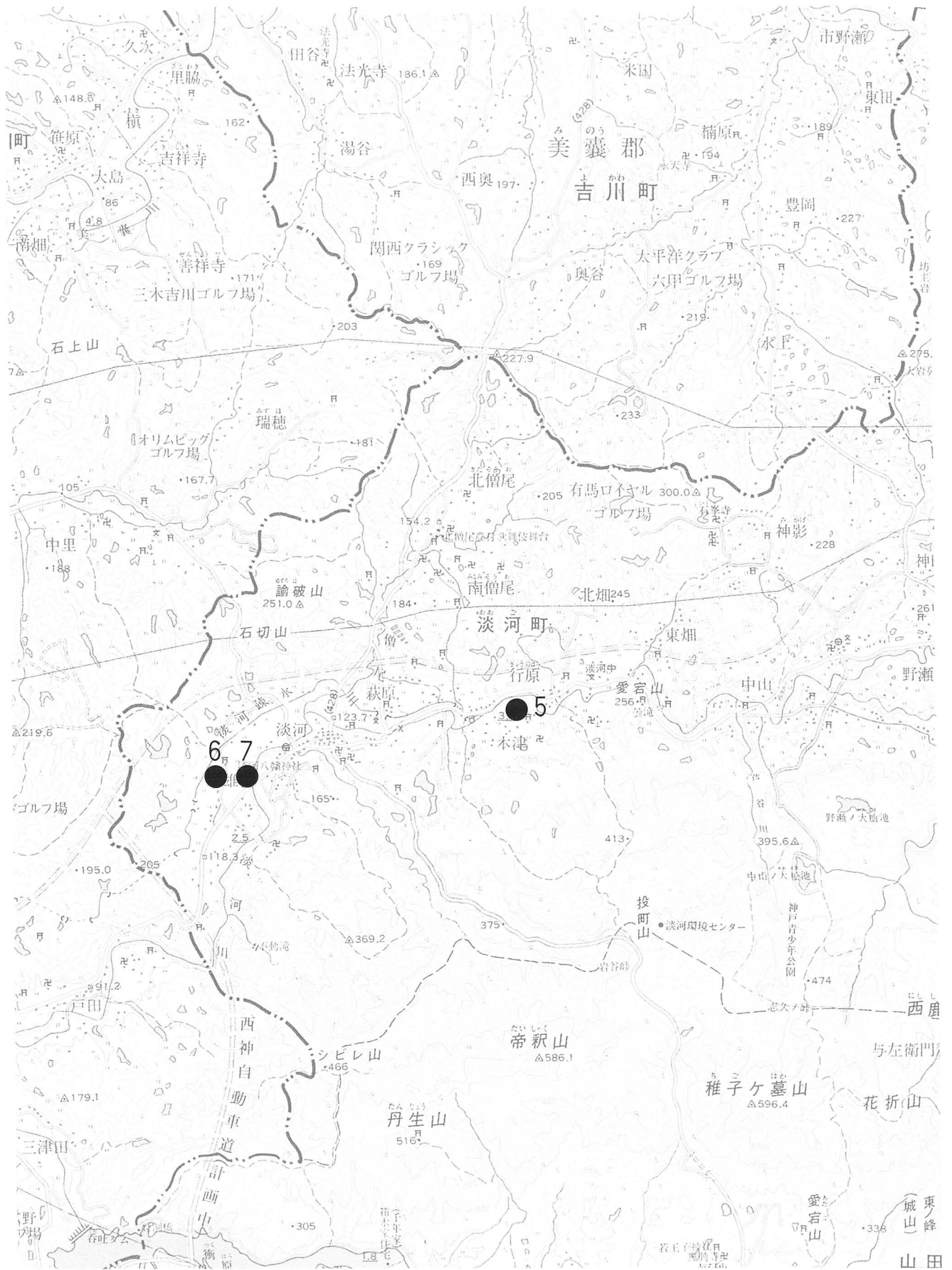
調査地点位置図 1



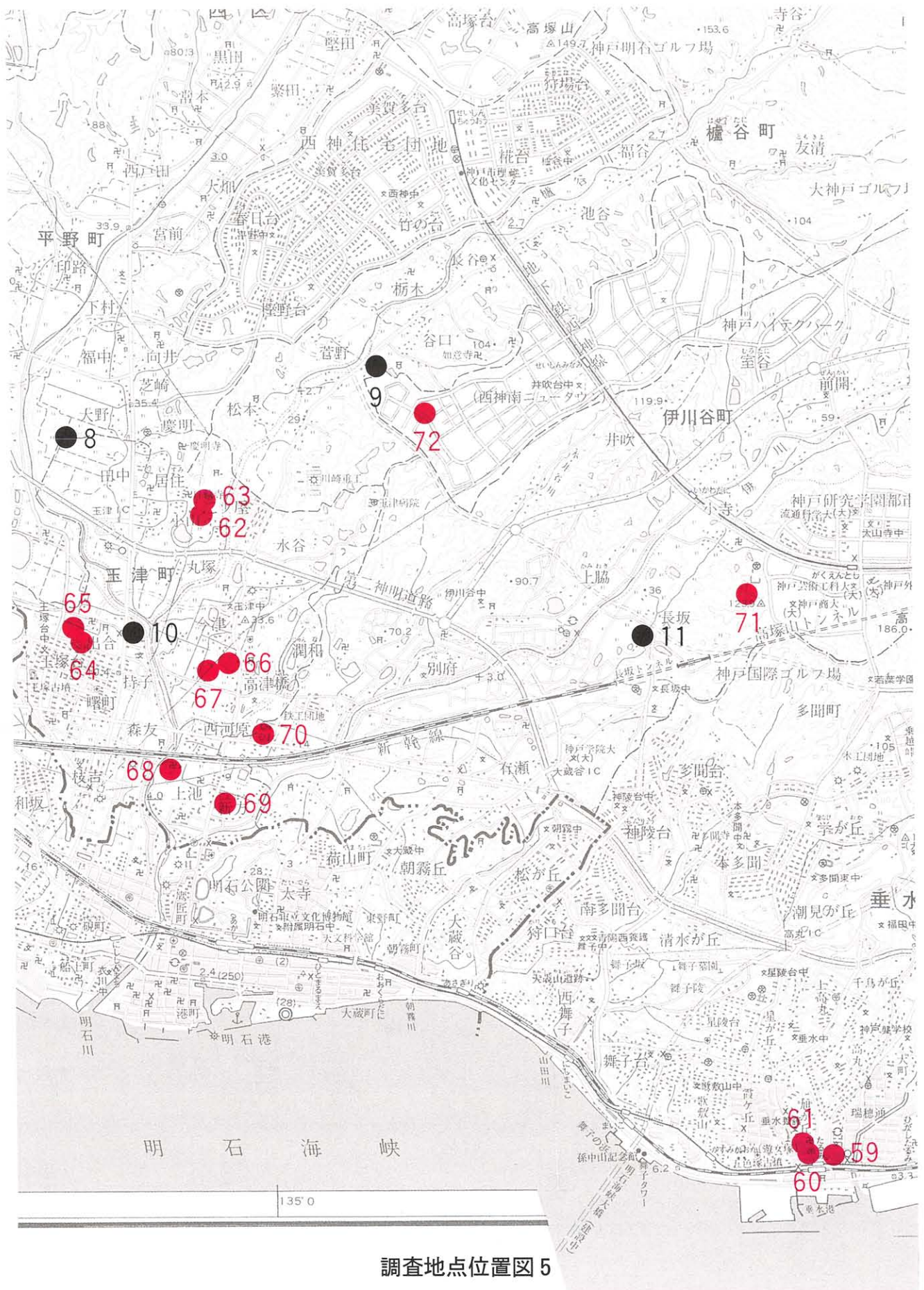
調査地点位置図 2



調査地点位置図3



調査地点位置図 4



II. 平成9年度の復興事業に伴う発掘調査

1. 郡家遺跡 城ノ前地区 第35次調査

1. はじめに 周知の埋蔵文化財包蔵地である郡家遺跡内において共同住宅建設に先立ち試掘調査を実施したところ、遺物包含層が確認され、工事に先行して全面調査を実施することとなった。



fig. 10
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要 今回の調査地では弥生時代後期から近世にかけての遺構面を計5面確認した。

第1遺構面 近世の耕作土および、矢板による方形区画 (SA01)、石垣による護岸の施された溝 (SX01)、瓦を敷設した施設 (SX02) を検出した。これらはいずれも、近代の農地に関する施設であると考えられる。また、耕作土除去段階で多数の噴砂を確認した。慶長の大地震によって生じたものと判断される。

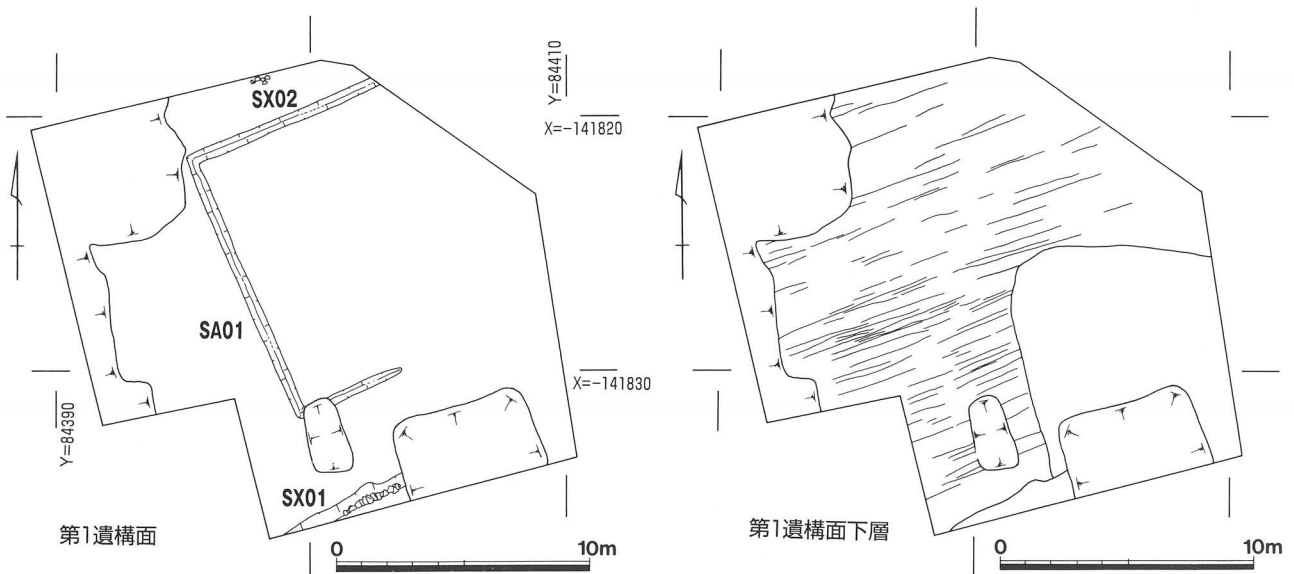


fig. 11 第1遺構面・下層検出噴砂平面図

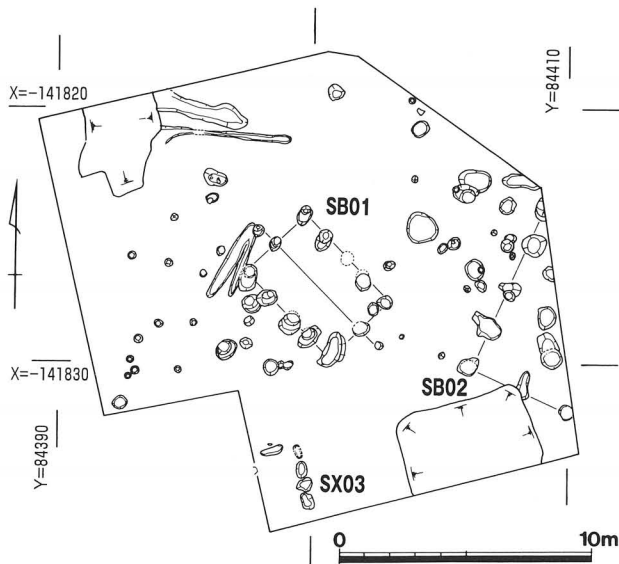


fig. 12 第2遺構面平面図

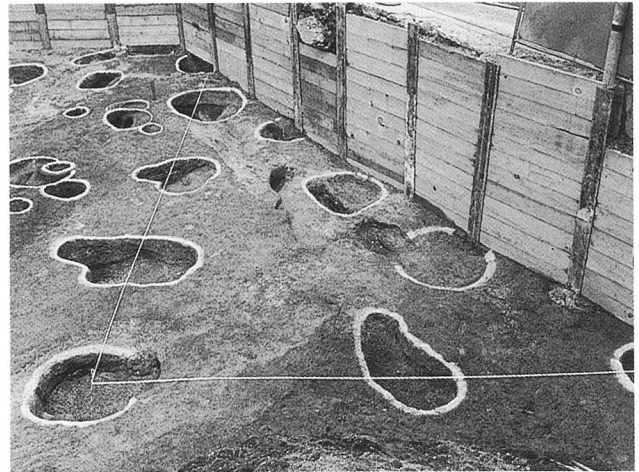


fig. 13 S B02

第2遺構面 TK43型式併行期の掘立柱建物2棟(SB01・02)および石組遺構(SX03)を検出した。SB01は独立棟持柱を有する2間×4間の建物である。束柱は確認できなかったが、遺構面がかなり傾斜していることから高床の建物であったと考える。床面積は16㎡を測る。SB02は2間以上×4間以上の大型掘立柱建物である。層位的にみてSB01に後出する建物と考えられる。支柱穴内から土師質蛸壺がまとめて出土している。SX03はSB01の南側で検出された。石材の大部分は失われていたが「コ」字状に石を配した遺構と考えられる。石組内から多くの須恵器・土師器が据えられた状態で検出された。祭祀関連の遺構と考える。

第3遺構面 TK10型式併行期の竪穴式住居7棟(SH01~07)・TK73~TK23型式併行期に機能していた自然河道1条を検出した。竪穴式住居は調査区西側で5棟が切り合った状態で検出された。SH05→SH04→SH03→SH02→SH01の順に築造されたものとする。出土遺物に大きな型式差が認められないことから短期間の内に建て替えが行われたものと判断される。また、そのうち2棟の竪穴式住居(SH01・SH04)から作りつけのカマドを検出した。

SH06・07は小型の竪穴式住居である。明確な支柱穴は検出されなかった。

NR01は、調査地南部を北東から南西へ向け流れていたと判断される自然流路である。埋土内からは多くの遺物が出土したが、その大部分は一括投棄されたものと考えられる。最下層からはTK73型式以前に併行すると思われる須恵器に共伴して布留式甕が出土した。これらの須恵器

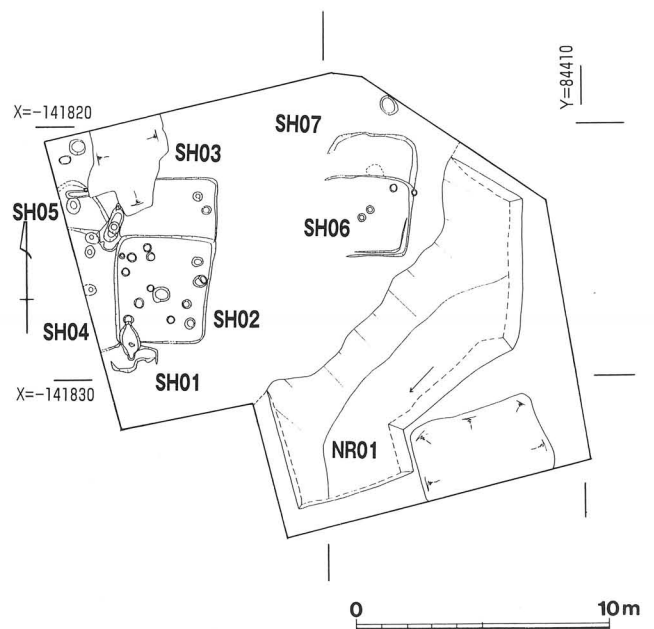


fig. 14 第3遺構面平面図

は神戸市域でも最古型式に属するものである。中層からはTK208型式併行期の須恵器とともに土師器甕（布留式甕を含む）・甗・韓式土器甗・蛸壺・製塩土器・鉄製品・獣骨などが出土した。該期の土器編年の基準資料になるものと考えられる。

第4遺構面 庄内併行期の竪穴式住居1棟（SH08）・土坑状遺構1（SK11）・土坑1基（SK103）を検出した。SK11は下層の竪穴式住居が一定程度埋没し窪地として地表面から確認できる段階で礫・土器を投棄したものと考えられる。多数の土師器とともに鉄製品が出土している。

SH08は、大部分が調査区外のため全容は不明であるが方形・ないしは多角形と考えられる。ベッド状遺構をもつ。

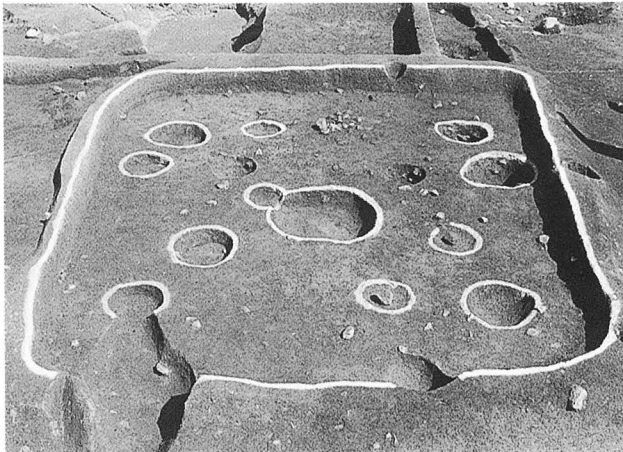


fig. 15 SH02



fig. 17 第4遺構面



fig. 16 第3遺構面

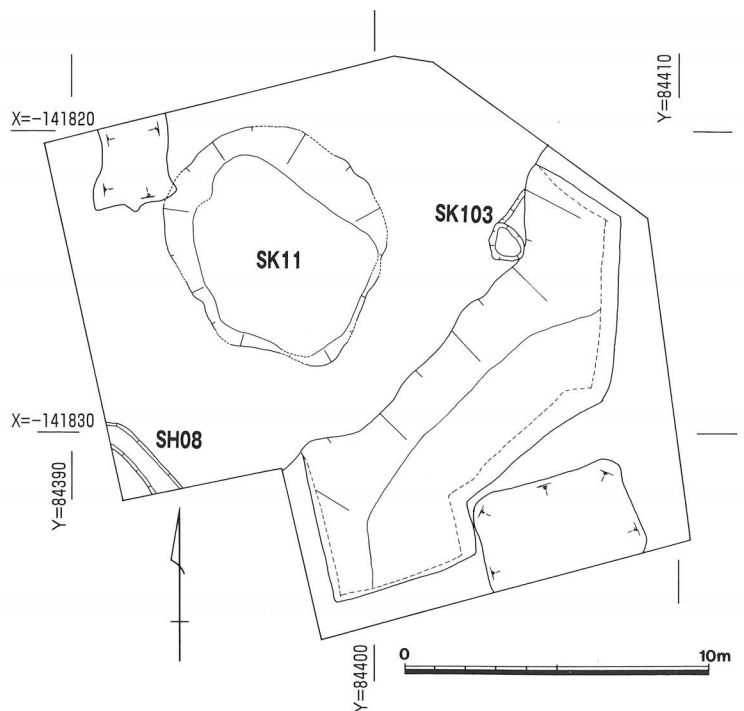


fig. 18 第4遺構面平面図

第5遺構面 弥生時代後期後半の竪穴式住居1棟（SH09）を検出した。SH09は直径約10mを測る大型の円形もしくは多角形住居である。支柱穴は6本を数え、中央土坑を有する。完周すると思われる周壁溝が巡る。住居内からは竜と思われる絵画をもつ長頸壺が出土した。

3. ま と め 限定された調査範囲ではあったが多数の遺構を検出し、多くの成果を得ることができた。過去の調査成果からみて、今回の調査地点は弥生時代後期および古墳時代後期の集落の中心部分に該当するものと考えられる。特に弥生後期の絵画土器を伴う大型住居や、古墳時代後期の棟持柱を持つ掘立柱建物など該期の集落構造を考える上で貴重な資料を提示できたといえよう。

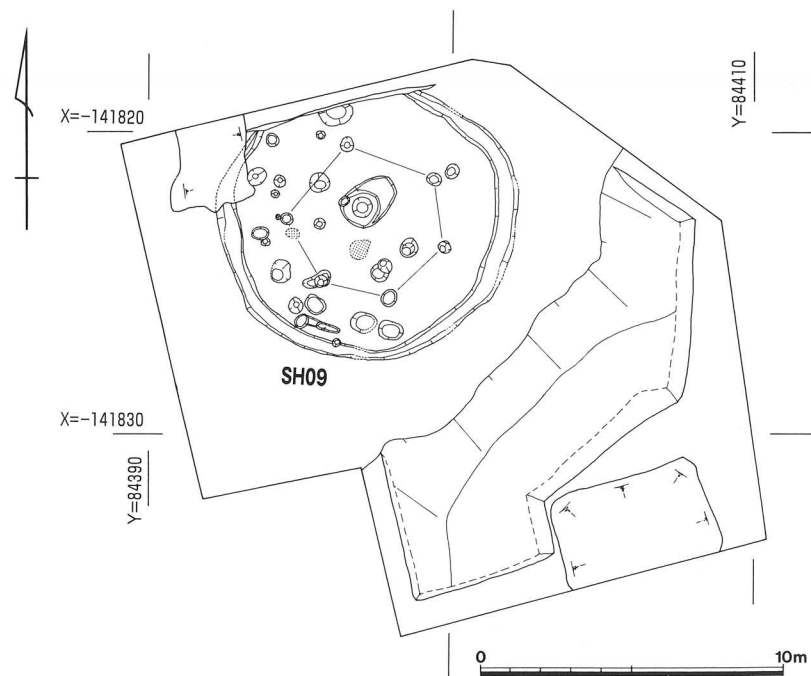


fig. 19
第5遺構面平面図

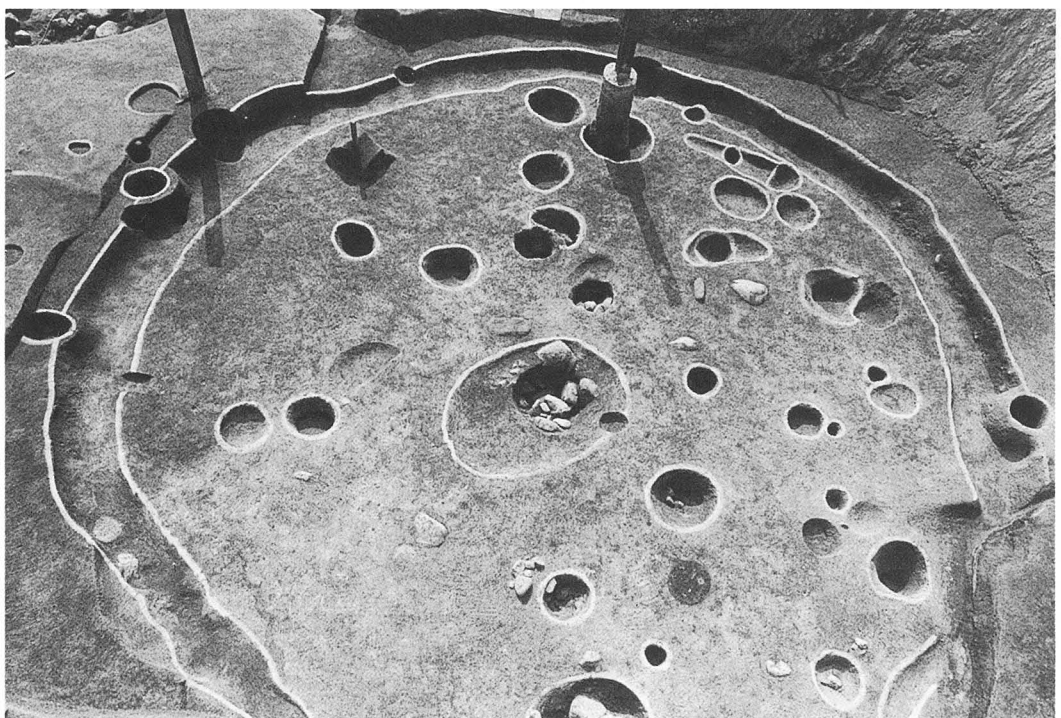


fig. 20 SH09

2. 郡家遺跡 城ノ前地区 第36次調査

1. はじめに 郡家遺跡は、弥生時代～中世にいたる複合遺跡として周知されており、特に奈良時代に大蔵地区などで検出された掘立柱建物は菟原郡衙跡と推定されている。

城ノ前地区の調査もこれまでに35次にわたって実施されている。今回の調査地の北側隣接地で昭和62年度に実施した第24次調査では、弥生時代後期の集石墓、古墳時代後期の煙道をもつ竪穴住居址、鎌倉時代の掘立柱建物などが検出されている。



fig. 21
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要 今回の調査では4面の遺構面を確認した。以下、主な遺構について述べる。
- 第1遺構面** 灰(茶)色砂質シルト層上面で確認した遺構面で、ピット3基、土坑状の落ち込み1基を検出した。中世の遺構面と考えられるが、遺構内より出土した土器が細片のため、詳細な時期については不明である。
- 第2遺構面** 淡(茶)灰色細砂層上面で検出した遺構面で、ピット11基、落ち込み1ヶ所を検出した。平安時代～中世の遺構面と考えられる。
- S P04** 径26cm、深さ28cmを測り、柱抜き取り後に土師器の皿を投棄している。平安時代末のものと考えられる。
- 第3遺構面** 黒灰色シルト～細砂層(弥生時代の遺物包含層)上面で確認した遺構面で、ピット3基、溝状の落ち込み2ヶ所、落ち込み1ヶ所を検出した。古墳時代後期の遺構面で、中央部西寄りの部分では遺構面上面で多量の土器を検出した。また、第3遺構面検出中に水晶製と考えられる算盤玉1点が出土した。
- S D01** 東部が2又に分かれる溝状の落ち込みで、西部は削平されており、検出されなかった。最大幅1m、最深部の深さ7cmを測り、弥生後期の土器、古墳時代後期の須恵器・土師器が出土している。

S D02 S D01の南側で並行するような形で検出した溝状の落ち込みで、幅 60~90cm、長さ 2.2 m以上、最深部の深さ 11cmを測る。弥生後期の土器、古墳時代後期の須恵器・土師器が多量に出土した。

S X03 調査区南西隅で検出した落ち込みで、弥生後期の土器、古墳時代後期の須恵器・土師器が多量に出土した。

第4遺構面 灰色~茶灰色細砂~中砂層上面で確認した遺構面で、ピット10基、土坑1基、落ち込み2ヶ所を検出した。

S X04 幅 62cm、長さ 70cm、深さ 11cmを測る平面形が3角形に近い形状の土坑で、弥生時代後期の土器が出土した。

なお第4遺構面を検出した後、調査区の西・南壁際の断ち割りを行ったが埋蔵文化財は確認されず、調査を終了した。

3. ま と め 今回の調査では、調査面積の制約などにより北側隣接地で実施した第24次調査で検出されたような、竪穴住居址や掘立柱建物などの遺構は検出されなかったが、4面の遺構面を確認し、第24次調査で確認した各時期の居住域が当調査地にも拡がっていることが確認できた。また、水晶製と考えられる算盤玉については、第34次調査において竪穴住居址より水晶の碎片が出土していたが、今回完形品が出土したことにより、近隣で玉製品の製作・加工が行われた可能性も考えられるようになったことは大きな成果である。

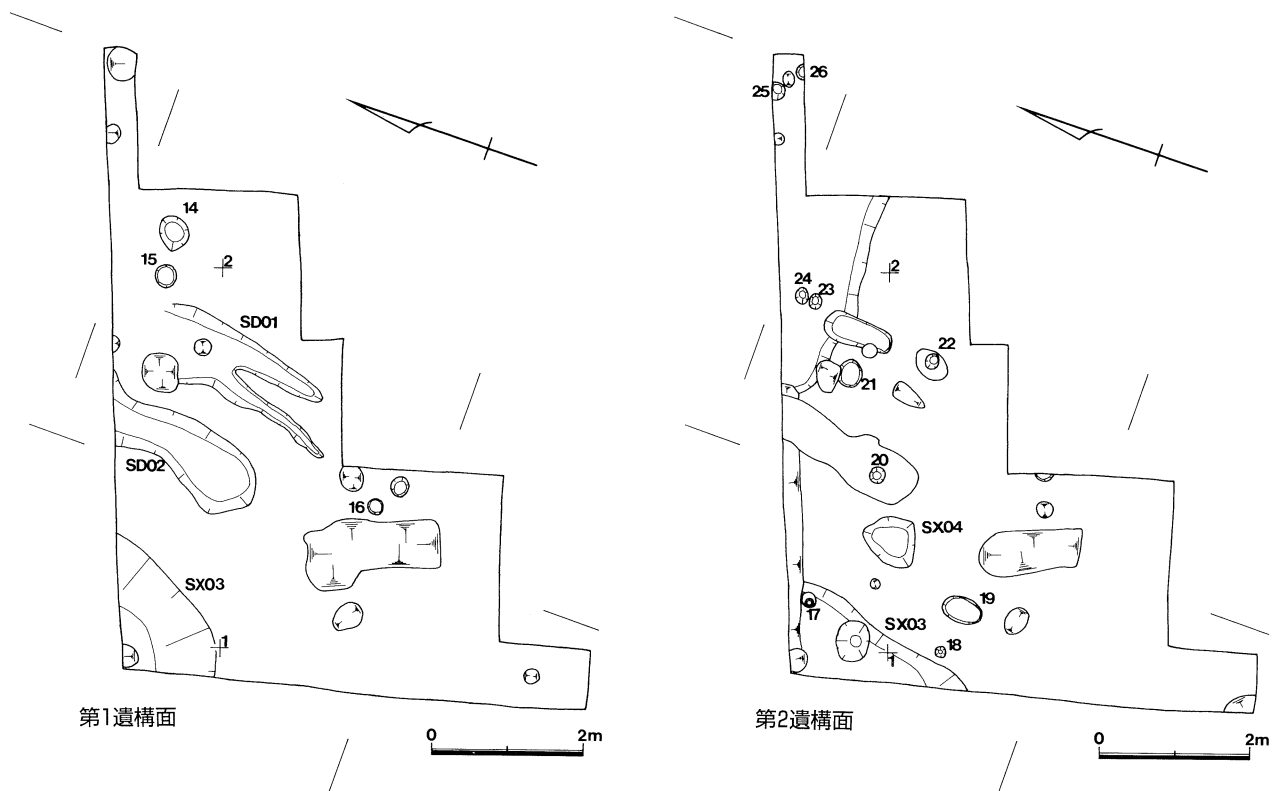


fig. 22 調査区平面図

3. 郡家遺跡 城ノ前地区 第37次調査

1. はじめに

今回の調査は阪神・淡路大震災の災害復興事業に係る個人医院建設計画に先立って実施されたものである。当該地は住吉川扇状地の最西部、広範囲に広がる郡家遺跡の北西部に位置し、埋蔵文化財分布地の範囲内にあたることから、調査に先立ち神戸市教育委員会が平成9年7月に確認調査を実施した。試掘の結果、遺構は検出されなかったものの、試掘坑から遺物と遺物を包含する層が検出され、古墳時代のものと推定される土師器と須恵器が出土し、その結果を受けて神戸市教育委員会が、同遺跡の広がりやその性格を確認する調査が必要と判断し全面調査を行うこととなった。

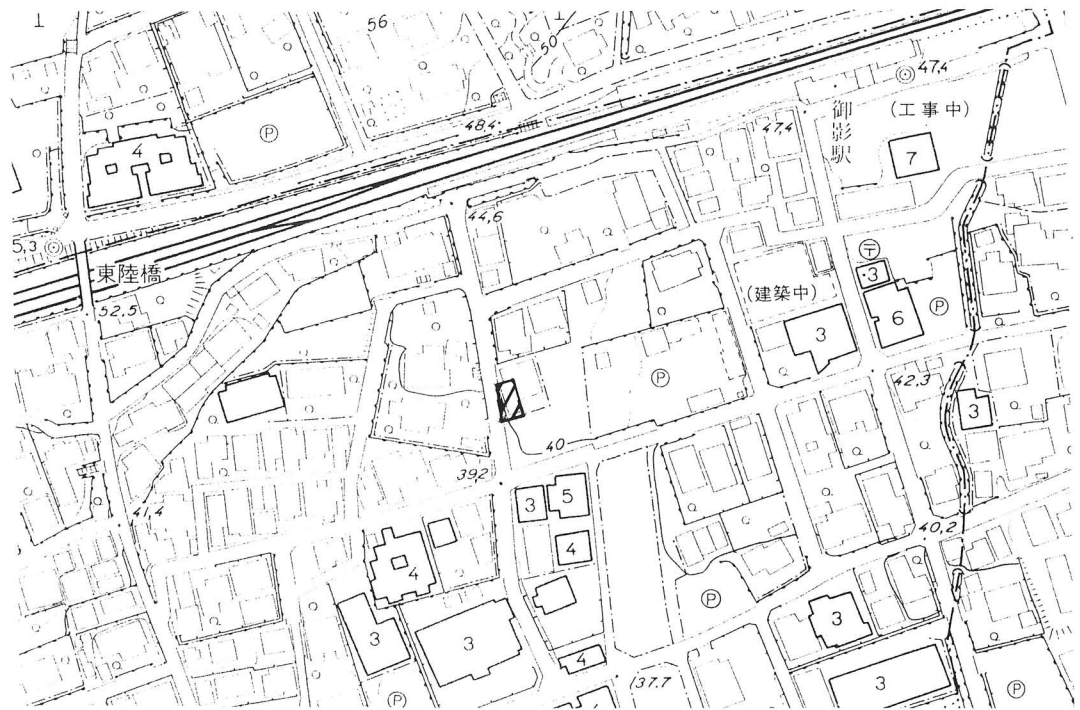


fig. 23
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要

調査は新築建物建設予定範囲に調査区を設定し、建築物相当部分にあたる東西6m、南北10mの工事によって破損を受ける部分を掘削の対象とした。

基本的層序

緩傾斜地に位置する当該地は、大正時代まで洋館風の住宅が建っており、現地表面はほぼ水平を保っているものの当時の建物跡から現地表面には凡そ50~60cmの盛土がされ、今回の調査で検出した遺構は、盛土最下層に相当するところから検出されており、調査区の北部から南東部にかけては攪乱によって層序が残存せず、僅かではあるが調査区東壁中央部と南壁西側の一部に観察することができた。

調査区断面図に示した層序では緩傾斜地の状況を層序に明確に観察することはできないが、両壁から見る層序の残存部分と竪穴住居跡の掘り込みを見ると、当時の地形は扇状地の比較的平坦な部分に相当していたのではないかと推測する。東壁・南壁両断面では6層の土層堆積が確認された。

I層は近代の耕作土であり人為的に堆積したもので、以下は全て自然堆積と考えられる。

II a層は土壌化している部分、II b層は非土壌化している部分であるが明確な土地利用

との関係は把握できなかった。Ⅲ層は古墳時代の遺物を包含する層で調査区の中央部から北側では確認されておらず削平が顕著で、S K01及びS B01はこのⅢ層を掘り込んで構築されたものと考えられる。

遺構と遺物

今回の調査で確認した遺構面は2面あるが、削平がすすみ時期の異なる遺構がほぼ同一面で検出された。遺構面として考えられるのは中世の遺物を包含する層の下層直上と古墳時代の遺物を包含する層の下層直上と考える。

遺構の検出状況は、狭隘な地形が推測される扇状地状の複雑な地形にもかかわらず調査区の北部と南部の一部に近代の攪乱による削平が見られるものの遺存状態は比較的良好で、何れの遺構も土石流で堆積した褐色砂質土と考えられる地山を掘り窪めた状態で検出された。

主な遺構のうち、古墳時代後半のものと考えられる竪穴住居跡1軒、明確な時期は特定はできないものの平安時代前期と考えられる掘立柱建物跡1軒、時期の特定に繋がる出土

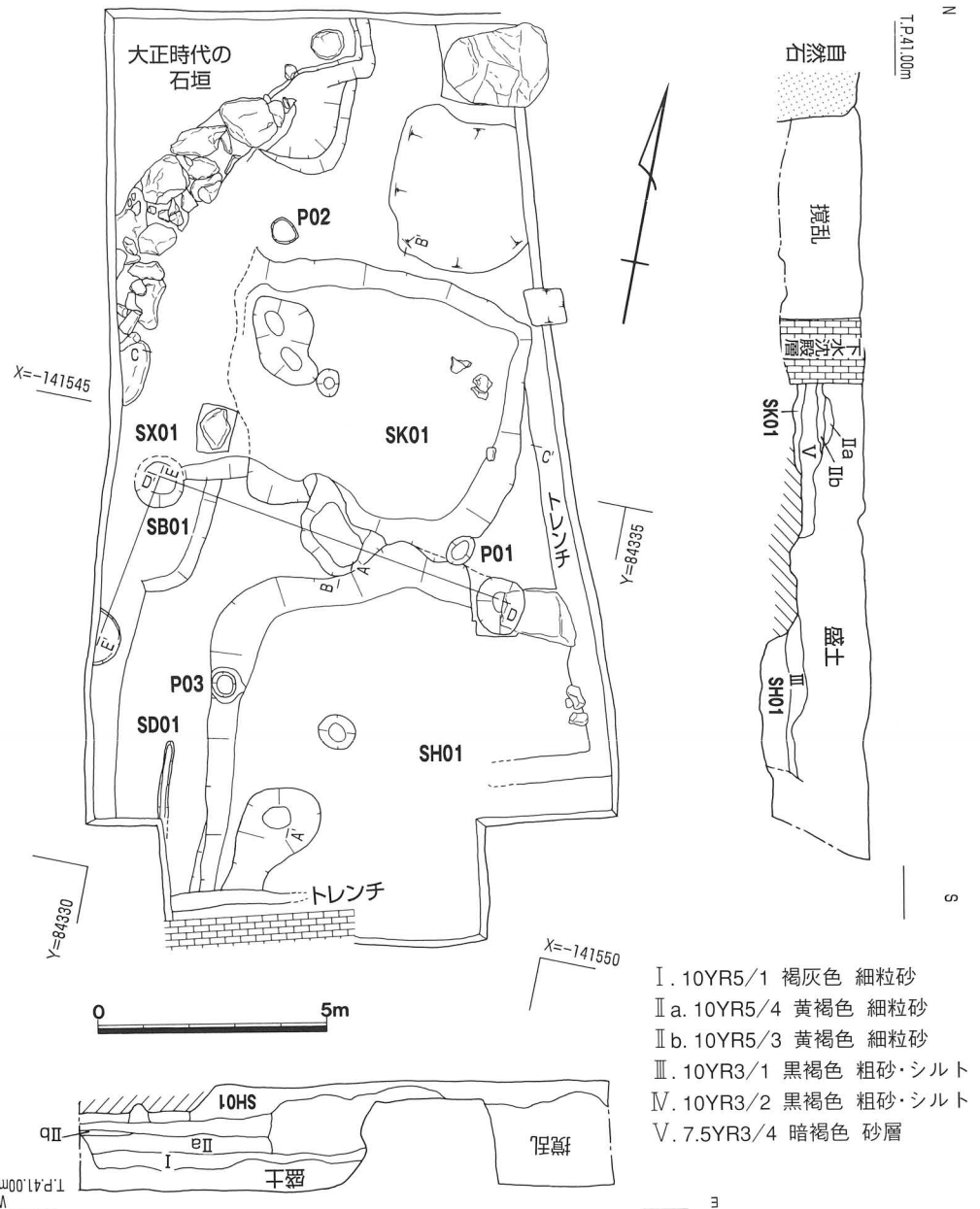


fig. 24
調査区平面図・断面図

遺物が殆ど出土していないものの埋土中から12世紀前半のものと考えられる壺型合子の蓋が出土している土坑1基が検出された。その他の遺構としては5世紀後半の礎が出土している柱穴1基を含み3基の柱穴、掘り込みの浅い溝状遺構と遺物を伴わない性格不明の落ち込み状の遺構が検出されている。ここでは主要な遺構と遺物について、年代順に報告していくことにする。

S H01 調査区南側で検出した隅丸方形を呈する竪穴住居跡で、実測値は東西径約4.5m、南北径約4.5mを計る。床面と考えられる部分は粗砂を含む暗灰黄色及び褐灰色土で踏み締まって硬化している状況は観察されず、やや凹凸の起伏が見られる。その他、遺構に伴う柱穴等の付設は観察されなかった。また、埋土の堆積状況が中層で大きく南北に分割される様子から時期を前後して人為的に埋め戻していったとも考えられる。この遺構の東隅には0.8m程の自然礫と考えられる巨石が見られ、遺構はこの巨石を跨ぐように構築されている。この住居跡からは古墳時代の遺物と考えられる土師器や須恵器が出土、器形は甕、坏蓋であるが、製塩土器片も出土している。

図中2～8はS H01出土のもので、2～5は土師器、6～8は須恵器である。このうち2・6は床面から、その他は埋土中から出土しているものである。2～4は甕の体部から口縁部にかけてのものである。2は口径13.2cm、口縁端面に凹線を持つ。3は口径17.2cmで、外面に赤色顔料の塗布が見られる。口縁内外面はハケメ状工具ナデで調整が施されている。4は口径18.3cmを計る。5は製塩土器で底部は欠損して残存しない。6は甕の体部から頸部にかけてのもので外面のタタキメをナデ消している。胎土は精良であり、焼成も良好で断面が赤灰色を呈している。

7、8は坏蓋である。7はほぼ完形で、口径11.6cm、器高は4.9cmを計る。8は口径11.3cmである。7、8は須恵器は陶邑編年のTK47に近い時期のものと考えられる。

S B01 調査区の中央付近から南側寄りに位置する。S H01とS K01の間で3基の柱穴と調査区の西側境に接して1基の計4基検出されているものの、棟軸の方向、梁行と桁行及びその規模については1間×2間以上、柱穴間の心々距離の平均値は約1.7mである。柱穴の掘り込みは掘形の径に対して検出面からの深さが浅いものがあるところから、遺構面の削平も考えられる。

図中10、11はS B01からの出土遺物である。10は明赤褐色の色調で、底部に「茂」の墨書が見られ、播磨から西方で多く出土しているタイプである。口径14.1cm、器高3.1cm、

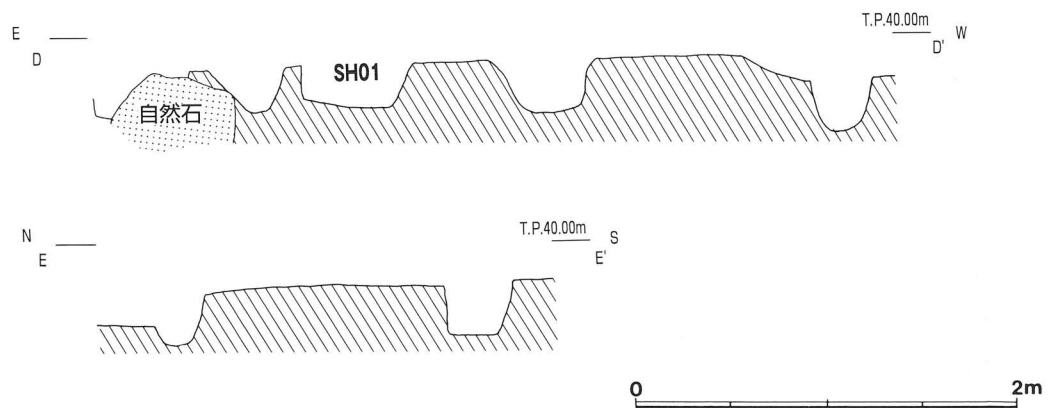


fig. 25
S B01断面図

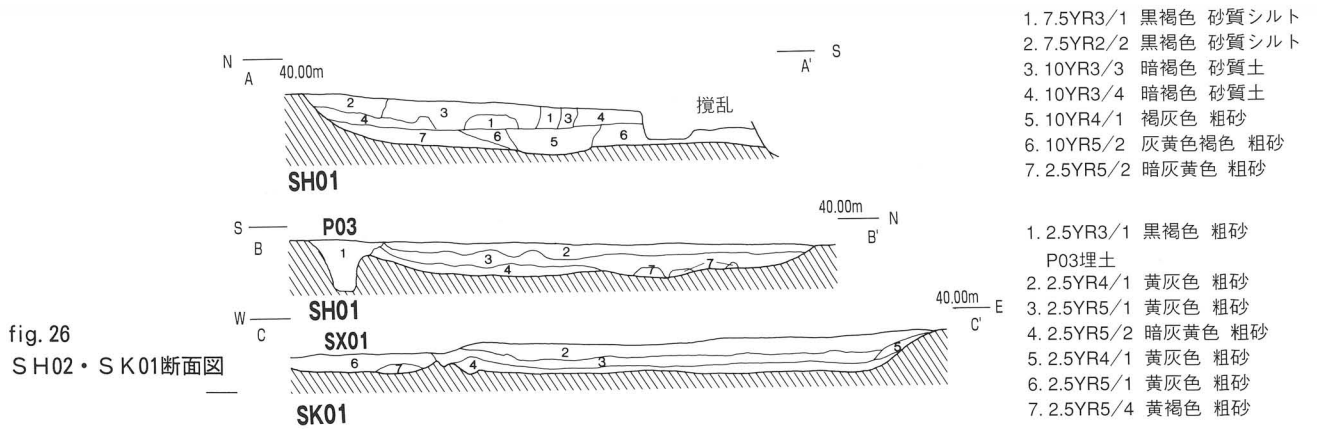


fig. 26
SH02・SK01断面図

底径 9.8cmを計り、全体的に精緻な作りである。11は口径 14.0cm、器高 3.1cmを計る。10に比べ胎土に砂粒が多く含み、外面に指頭押圧を残すなど作りが粗い。10は 8世紀末から 9世紀頃のものと考えられる。それぞれの遺物の出土状況は、10が柱穴の上面で、11は底面から出土している。なお、11は土器から時期の特定が出来ないが10とほぼ同一時期ではないかと考えられる。

SK01 調査区の中央付近で検出した長方形を呈している土坑で、残存状況の良好な 2 辺のコーナーはほぼ直角に屈折している。遺構の西側は攪乱と SX01 によると思われる削平がすすみ検出状況は良好でない。実測地は東西径約 3.3m、南北径約 2.7mを計る。遺構に伴う柱穴等の付設は観察されなかった。遺構の径所を考えると住居跡の可能性も考えられる。

図中12から15はSK01からの出土遺物である。12から14は何れも土師皿の小片である。15は陶器の蓋で、上面のみ灰釉が掛かる。底部は糸切りである。時期は12世紀前半のものと考えられる。

SD01 調査区の南西部で検出した。調査区境で検出しているため遺構全容の把握はできなかった。溝はほぼ南北方向を指している。検出した遺構の実測地は長さ 1.0mで幅は最大で 20cmを計る。深さは 20cmと比較的浅く、遺物は出土していない。

SX01 調査区の西部で検出している。遺物の大部分は近代の攪乱によって削平されているため全体を検出するに至っていない。遺構の一部はSK01と切り合い関係にあり、SK01の西壁を切っているものと考えられるが、遺構の性格は不明である。遺物は出土していない。

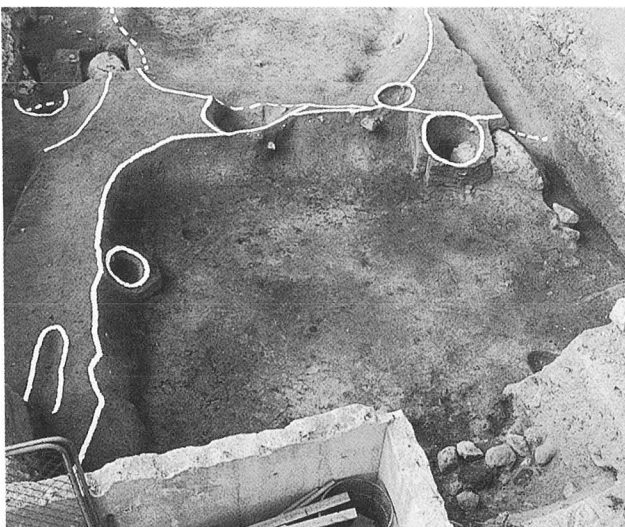


fig. 27 SH01

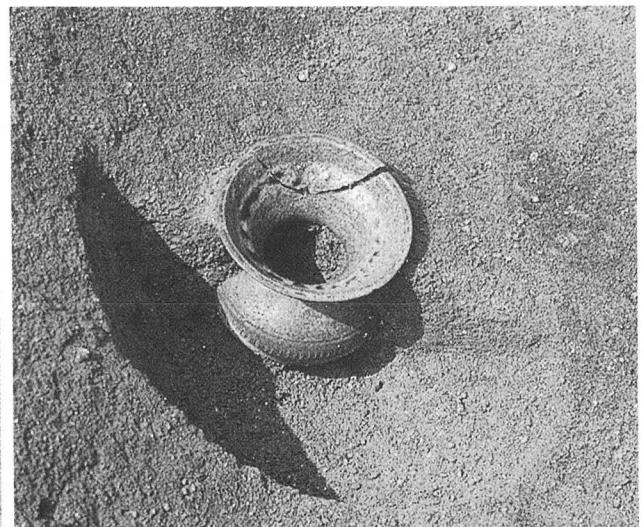
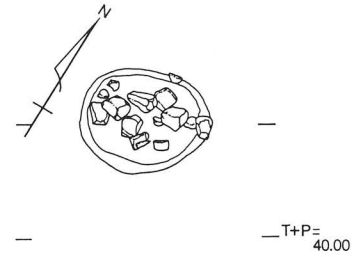
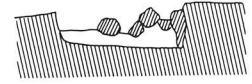


fig. 28 P03

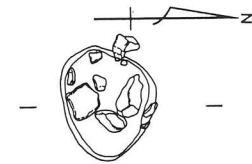
P01 S K01の南コーナーの上部から掘り込んで検出された。平面は長径は35cm、短径は約27cmの不整楕円形である。深さは10cm程と浅く、底部は比較的平坦である。埋土上層には小礫が集石状に見られるが意図的に集積されたものなのか、また、遺構の性格は把握できない。遺物は出土していない。



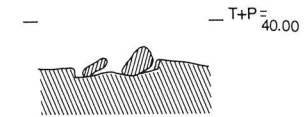
P02 S K01の北西部で検出された。平面は長径30cm、短径は25cmの不整楕円形である。深さは3～5cmと浅く、底部にはやや凹凸が見られる。P01同様に集石状の小・中礫がみられるものの、性格は不明である。遺物は出土していない。



P03 S H01の西壁立ち上がりの中央部分に位置する。S H01との間に切り合い関係があるものと考えられる。遺構の検出状況からP03が掘り込まれたものと思われるが、出土遺物の須恵器の編年で考えると時期的に大きな差が見られないことからS H01に伴う施設の遺構と考えられなくもない。平面は長径35cm、短径約27cmの不整楕円形である。



図中9はP03から出土した遺物である。完形に近い状態で、底部からはほぼ正位に近い状態で出土している。口径10.9cm、器高10.8cmである。口縁内面と底面に近い自然釉が付着する。頸部には櫛描波状紋と外面底部にはヘラ書き記号と考えられる線刻が見られる。時期は陶邑編年のTK23の様相を残しているもののTK47に近い時期のものと考えられる。



その他、遺構外遺物では、図中1の遺物が包含層から出土している。中世の土鍋と考えられ、口径は23.4cmを計る。

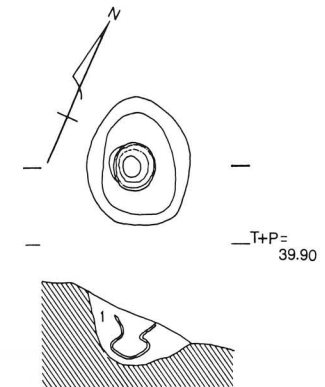


fig. 29 P01～03平面図・断面図

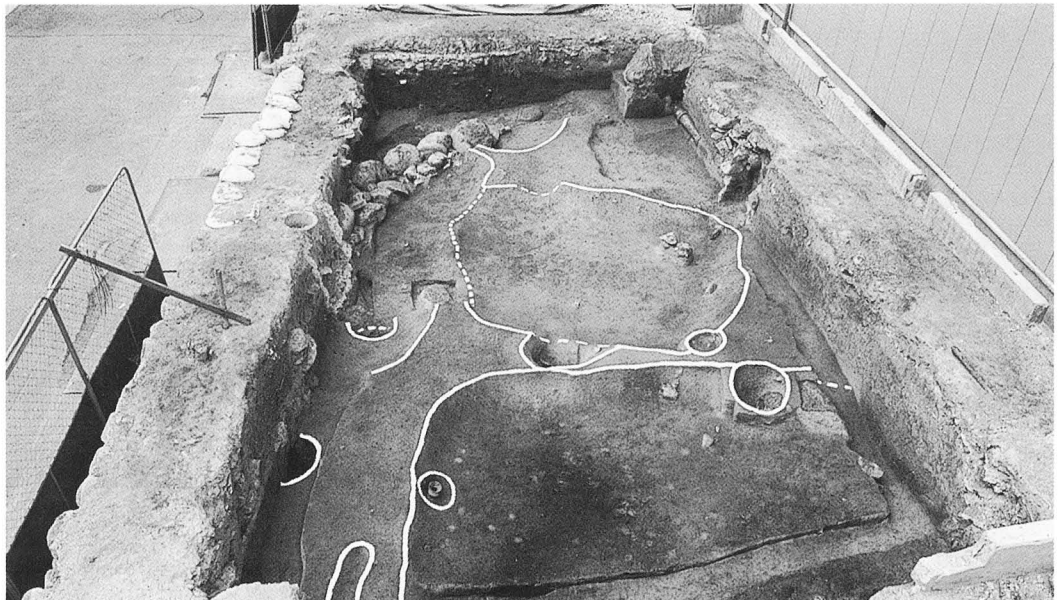


fig. 30 調査区全景

口縁端部は水平方向に強くつまみ出され、口縁部から体部にかけては「く」の字に強く外傾する。色調ににぶい黄橙色を呈し、体部外面には平行のタタキと煤付着の痕跡が見られる。時期は13世紀頃のものと考えられる。

3. ま と め 今回の城ノ前37次調査について、その意義を以下のようにとらえた。郡家遺跡の広がり
はこれまで何回となく行われてきた発掘調査の結果を総合すると東西1.0km、南北1.2kmに
及び、また、弥生・古墳時代を経て歴史時代に至る長期に及ぶ複合遺跡であることが知ら
れていた。

しかし、郡家遺跡の中でも標高39mの高い地点での試掘調査や全面調査の実績が少な
かったにもかかわらず、これまでの調査結果に相応する遺構や遺物が検出・出土したことは
遺跡範囲を改めて確認する資料を提供できたものとする。また、この小範囲の調査域
の中で限られた遺構と遺物ではあるにせよ、長期に及ぶ生活の営みが把握できたことは、
今後の調査に於いて扇状地地形における集落形成と立地を考える意味においても貴重な成
果が得られたものとする。

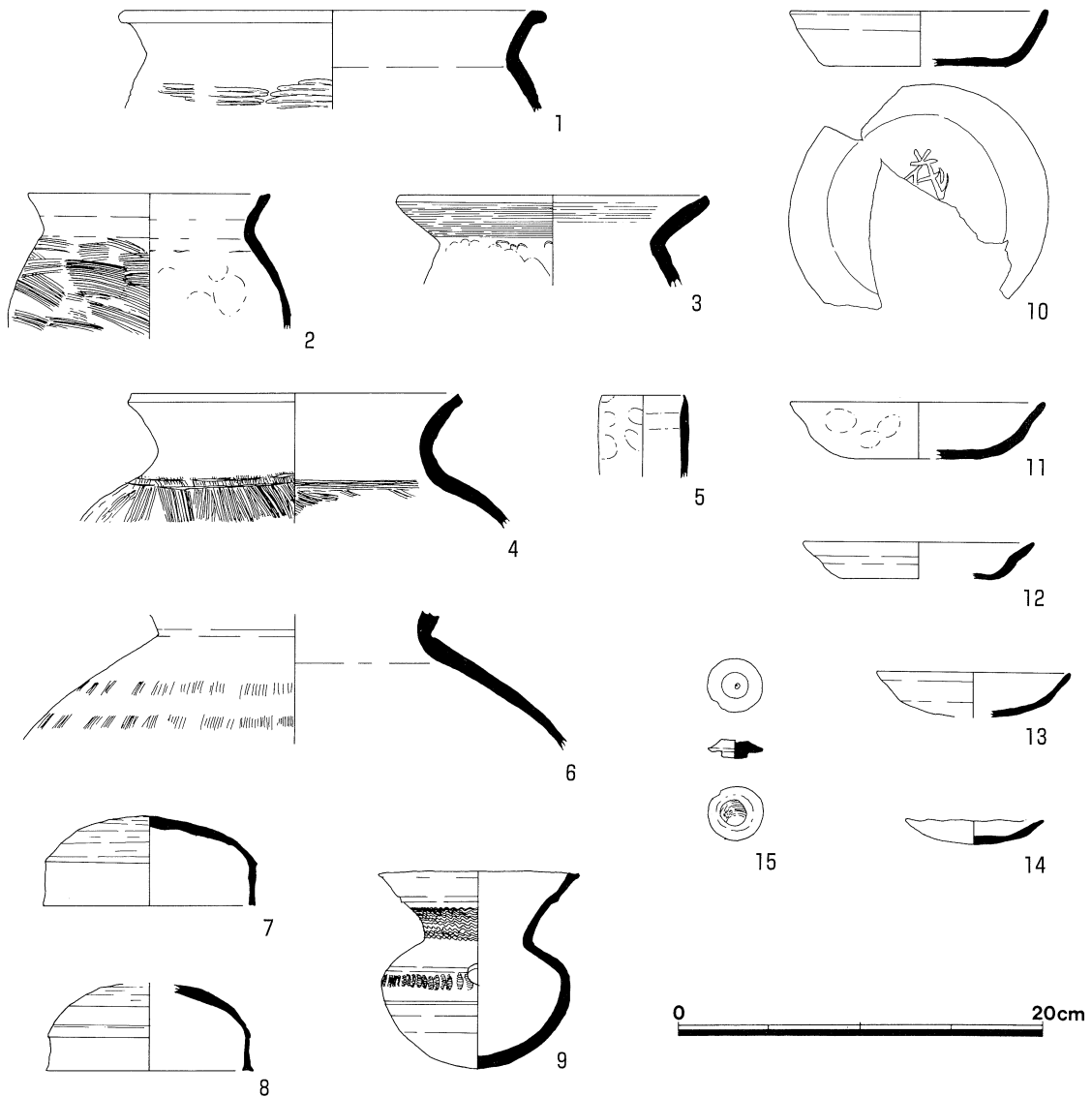


fig. 31 出土遺物実測図

ぐんげ しろのまえ
4. 郡家遺跡 城ノ前地区 第38次調査

1. はじめに 周知の埋蔵文化財包蔵地である郡家遺跡（神戸市東灘区No.5）内における共同住宅建設に先立ち試掘調査を実施した。その結果遺物包含層が確認され、発掘調査を実施した。



fig. 32
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要 調査地は1980年代に行われた区画整理により、最大2.2mにも及ぶ盛り土がなされていて、この下部に近・現代の旧地表面を確認した。この面から下は現代の耕作土・床土及び床土の下の整地土、近世の耕作土・床土と続いていた。その直下に古代末の遺構確認面がある。この面は明褐色細砂層の上面であり、この層には古代前半の須恵器が含まれている。この下層には灰黄褐色粗砂混じり細砂層があり、さらに黒褐色細砂質極細砂層が存在する。この黒褐色層には弥生時代後期の土器が多く含まれ、上面が奈良時代の遺構検出面と推定される。この下層に褐色細砂層があり、その上面が弥生時代後期の遺構検出面となる。遺構は4面から検出された。

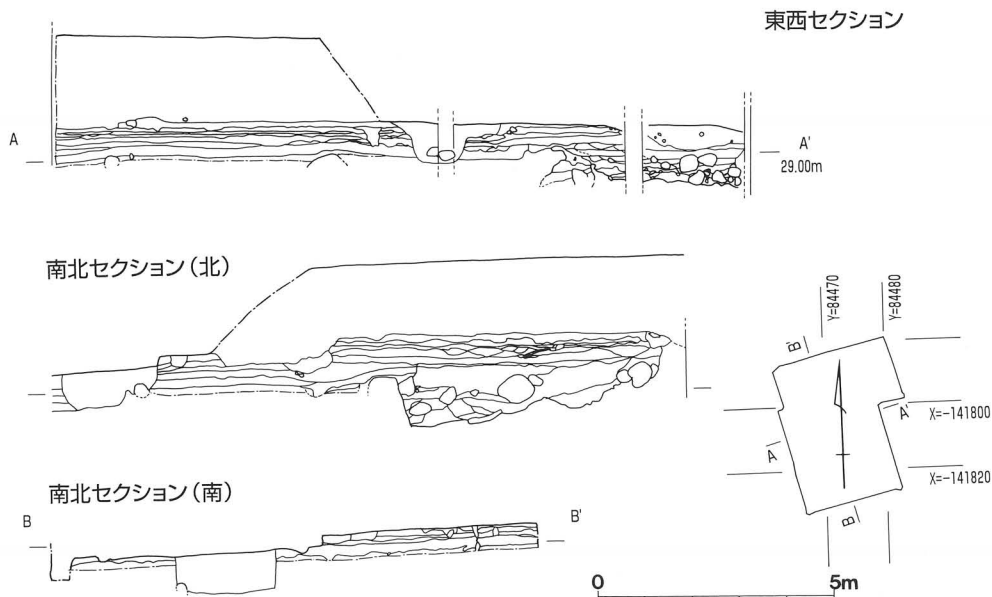


fig. 33
調査区土層断面図

近世遺構面 最上部の近世の遺構検出面（0面）は調査区の北半に広がっていた可能性があるが、調査では北西部だけで確認できた。鋤溝3条・溝1条・不定形土坑1基・焼土坑1基が検出された。溝は東西方向に延び、用水路と思われる。規模は幅103cm、深さ27cm。溝の東寄りの壁は垂直に立っていて、この部分には板などで護岸をしていた可能性が考えられる。溝の埋土からは灯明皿・瓦などが出土している。なお、この東西溝はその後も現在まで利用されていた。鋤溝は東西方向を向き、幅の広いもので45cm、狭いもので16cm、深さは2～3cmである。またこの鋤溝を切っている焼土坑が検出された。規模は直径30cm・深さ6cmで、円形である。壁は火を受けて赤変しており、炭・灰が詰まっていた。ここからは遺物は出土していない。

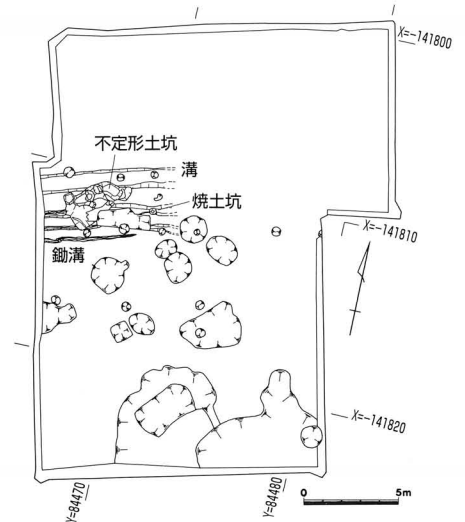


fig. 34 第0遺構面平面図

第1遺構面 1面から2面にかけて中世の鋤溝5条・溝1条・石材採掘穴1基・大石埋設遺構1基・地震痕跡1群が検出された。

溝の埋土は砂を主体とし川原石が多く混入していて東北東から西北西に向かっているのので、東の天神川方向からの水の流れを想定できる。鋤溝はかつて耕地があったことを示し、巨礫の埋設穴は耕地の整備が行われたのを推定させる。

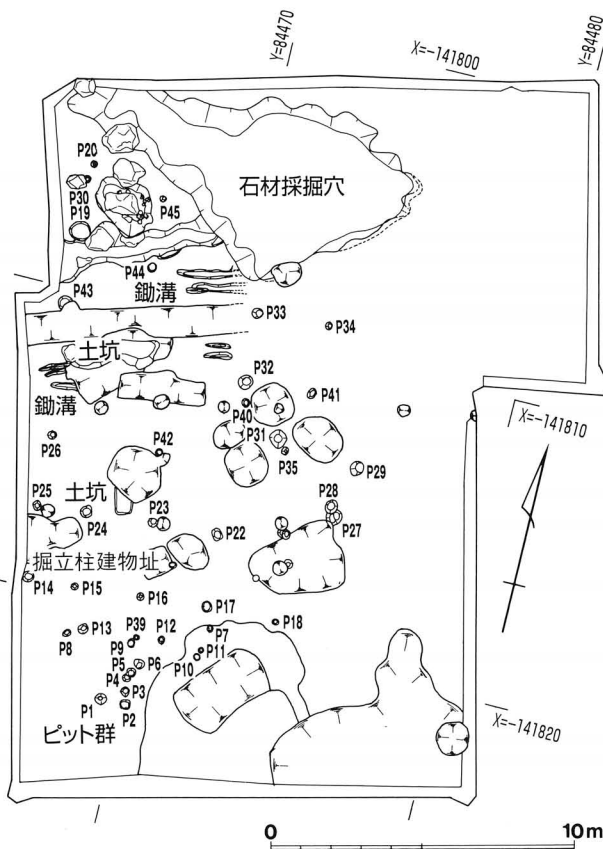


fig. 35 第1遺構面平面図

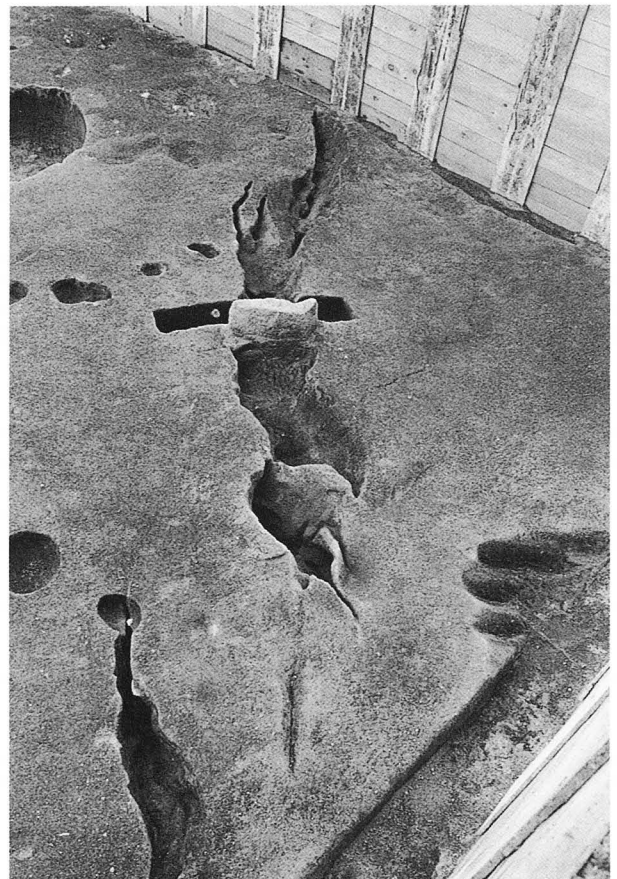


fig. 36 地震痕跡

石材採掘穴は検出した長さ約9m・幅約5m・深さ約1mである。北側を除く各壁は中位が下部や上部より深く抉り込まれていた。

穴の内部には花崗岩の巨礫が十点近く残されていた。埋土にはブロック状の地山が多く含まれ、人為的に短期間に埋め戻されていた状況を示していた。花崗岩の剥片が多く含まれ、最上部にはまとまって廃棄され



fig. 37 石材採掘穴

た剥片と礫が集中している部分が確認された。穴の時期は埋土の上部から14世紀初頭の青磁の破片が出土しているので鎌倉時代末から室町時代前半と考えられる。青磁以外の出土遺物は大部分が弥生土器で、1点だけ黒色土器が含まれていた。矢穴が残る石はなかったが、榎原考古学研究所の北垣氏によれば、矢を用いなくて「げんのう」で石材を割る技術もあるので、この石取り穴の脇で掘り出した石材を調整し、剥片類を穴に廃棄した可能性が考えられる。御影における石材採取・加工産業の歴史は記録の上では天正十七（1589）年までしか遡れないが、それよりも200年以上前からすでに石材加工が古くから行われていたことが明らかとなったといえる。

地震痕跡は慶長地震によるスランプ性地滑りの跡で、地割れ・隆起・凹地・滑り面・下層の大石の存在が総合的に把握できた。通産省地質調査所の寒川氏によれば理論上は予想されていた現象が教科書通りに確認できた初めての例とのことである。

スランプ性地滑りとは、地震によって起こされる地滑りの一種である。傾斜した土地に地震による液状化現象が起きた場合、地表下の細砂層が液状化しその上部の土層が滑りだす。滑りだした土層中の大きな石が滑る土層直下の滑らない土層中の大石に引っ掛かり上層が均一に滑らないで、地表に凹地・盛り上がり・ひび割れが一体になった変化としてみられる地滑りをいう。下層の大石によって土層が均一に滑らないので、多く滑った部分は凹地となり細かいひび割れ入り、土層が下部の大石で止められた場合にはその場所で土が隆起しの上部により大きな亀裂が生ずる。

第2 遺構面

2面からは掘立柱建物址・土坑・ピット列・ピット群・河道跡が検出された。

掘立柱建物址は1～2棟にままと考えられる。柱穴の直径は20～40cmの円形で、直径12～15cmの柱痕跡が確認された。埋土からは10世紀後半から11世紀前半代の「て」の字口縁の土師皿・黒色土器などが出土し、掘立柱建物も同時期と考えられる。

河道跡は天神川の旧流路で、六甲土石流研究会の佐藤氏のご教示によれば3回の土石流が流れ下った痕跡が認められるとのことであった。河道は調査区の中程で不自然に西に屈曲しており、人為的な掘削の可能性も推測される。埋没する過程でまとまった量の土師器・須恵器が流入したり投棄され、その中には円面硯・長頸壺・短頸壺などがみられた。これは本遺跡が「菟原郡衙」と密接な関連性があったのを暗示している。河道跡から出土した主要な遺物は飛鳥時代から奈良時代前半のものである。

第3遺構面 弥生時代後半期の遺構検出面では、掘立柱建物・土坑・土器溜まり・ピット群が見つかった。調査区の北西部は一辺1m以上もある花崗岩が集中し、東端部は奈良時代の河道によって流出していた。掘立柱建物址は柱穴が3本検出されただけで、残りの柱穴は西側の調査区外に展開していたと考えられる。検出された柱穴の上部はいずれも慶長地震によって南西側に60~120cmずれていた。掘立柱建物の時期は柱穴内からの出土土器と確認面の層位から弥生時代後期と考えられる。

この他、遺物包含層からは弥生土器や石鏃などが出土している。

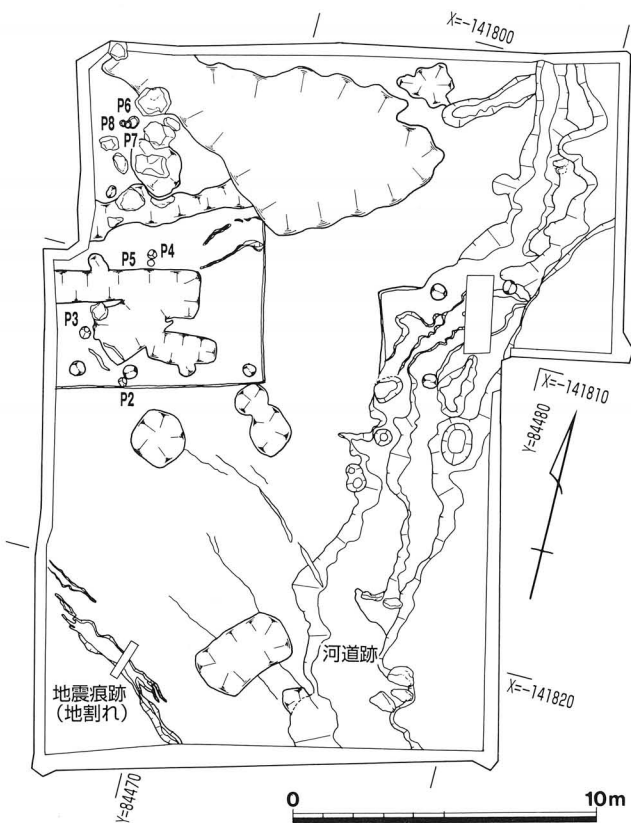


fig. 38 第2遺構面平面図



fig. 39 第2遺構面全景



fig. 40 第3遺構面全景

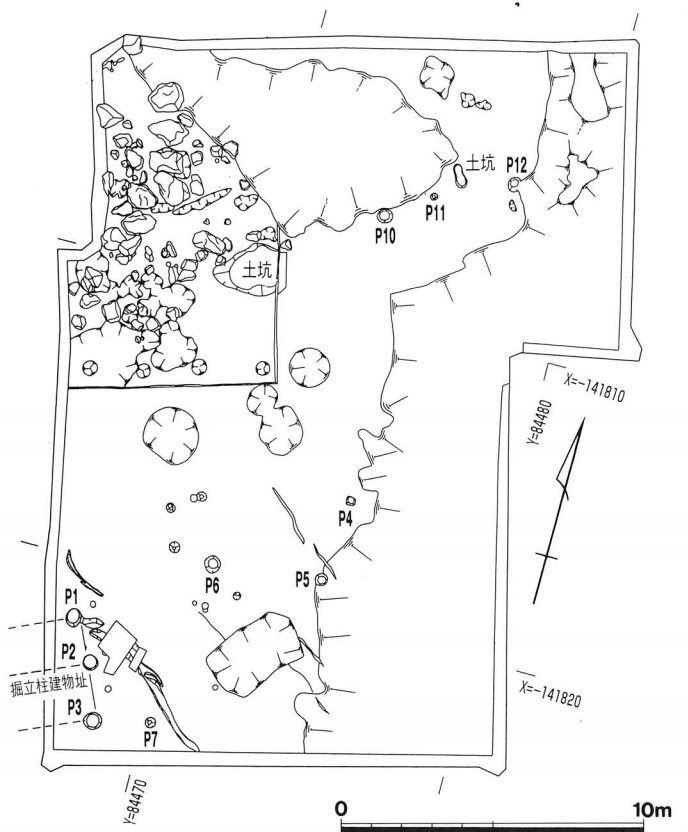


fig. 41 第3遺構面平面図

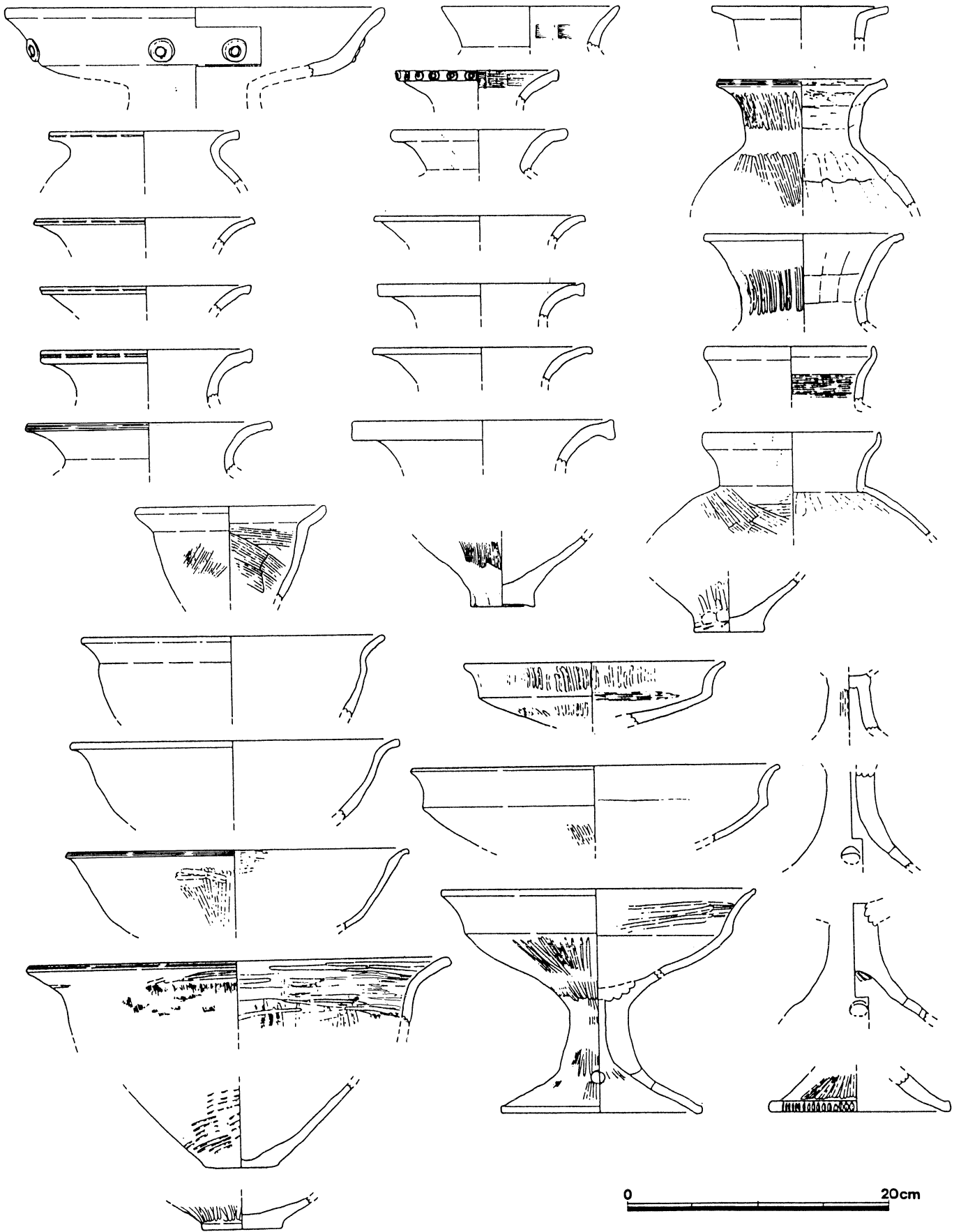


fig. 42 弥生時代後期出土遺物実測図(1)

3. ま と め 今回の調査では弥生時代後期、飛鳥時代～奈良時代前半、平安時代後期、中世、近世の各地代の遺構・遺物が検出された。

近世では用水路と水田の鋤溝が見つかり、調査地は耕地となっていた。

中世では耕作に伴う鋤溝や耕地の造成による大石の埋設穴などの他に石材の採掘穴が検出された。今回の調査によって中世前半の御影における石材採取・加工産業の歴史を考えるのに不可欠な資料が得られた。

また、慶長大地震による「スランプ性地滑り」の跡が検出され、それにより弥生時代後期の掘立柱建物の柱穴の上部がずれていたのが確認された。

平安時代後期には掘立柱建物や土坑があり宅地として利用されていた。また、京都で当時使用されていた「て」の字口縁の土師器皿が出土した。

飛鳥時代から奈良時代にかけては東側に河道があり、埋土から大形の土器片が多く出土した。硯が含まれていて本遺跡が古代の「菟原郡衙」と深い関連があったことを示している。

弥生時代後期には調査区の南西端に掘立柱建物があり、遺物包含層がほぼ全面に広がっていた。調査区は集落内倉庫群の一角であったとみられる。

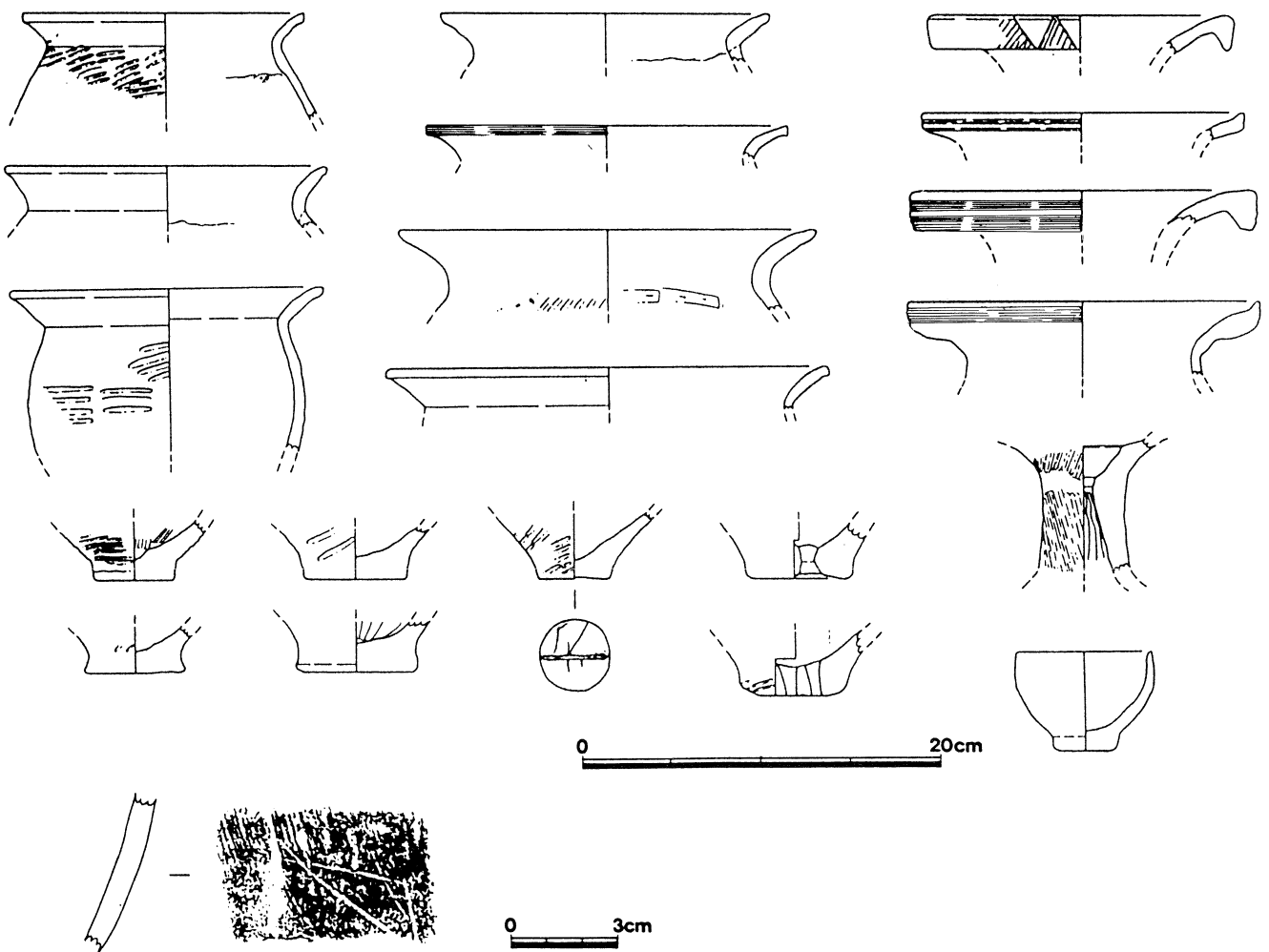


fig. 43 弥生時代後期出土遺物実測図(2)

5. 郡家遺跡 大蔵地区 第6次調査

1. はじめに

郡家遺跡は住吉川と石屋川が形成した複合扇状地上に立地する遺跡である。昭和54年に今回の調査地点から北東約100mの地点で、奈良時代に遡る掘立柱建物を検出したことによって菟原郡衙との関係で広く知られるようになった。現在まで都市計画道路山手幹線・弓場線や、民間のマンション、個人住宅の建設に伴う事前の発掘調査などで、弥生時代から中世までにわたる、東西500m、南北1,000mの規模の大規模な複合遺跡であることが明らかとなった。



fig. 44
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要

今回個人住宅2軒分の新築計画が出されたため、埋蔵文化財が影響を受ける範囲に関し、発掘調査を実施することとなった。現地は北から南への緩傾斜地であるため、北側と南側の住宅の工事影響深度には若干の標高差がある。

層序

層序は上から順に現代の造成土・表土、耕作土、旧耕作土が3層、旧床土と続き、旧河道の堆積層となる。調査区の北東隅で、旧河道の上層堆積層である黄褐色礫混じり砂質土の下で、試掘調査で確認された遺物包含層である暗茶褐色粘質土を検出したが、その面積は約1㎡で、その部分以外は総て旧河道の堆積層であった。

遺物包含層

工事影響深度は検出した遺物包含層の上面から約10cmの深さまでであったため、遺物包含層の厚さは確認できなかった。しかしピンボールによる刺突の感触によると、層厚は約20cmであると推定される。遺物は6世紀前半頃の須恵器片・土師器片が出土した。ま

たサヌカイトの剥片も出土している。

旧河道

堆積層の途中で工事影響深度に達したため、旧河道の深さは不明である。周辺の調査成果と微地形の状況を考慮すると、調査地点の西側を流れる天神川の旧河道と判断できる。遺物は10世紀後半頃の須恵器片が出土した。また6世紀後半頃の須恵器片・土師器片、サヌカイト剥片も出土している。

3. ま と め

住吉川と石屋川の複合扇状地上に立地する郡家遺跡であるが、微視的に見ればいくつもの小河川が扇状地上を開析している。調査地点周辺もその事例を示し、北から南への緩傾斜地であると同時に西側を流れる天神川へ向かって傾斜している。現代の造成土が約80cmと厚いことは、西側へ傾斜する土地を平坦にするための行為であることを物語る。

今回の調査では遺構は確認できなかったが、出土した遺物から判断して6世紀頃・10世紀後半頃の遺構が近隣に存在することが推定できる。またサヌカイト剥片の出土は弥生時代の生活痕跡も近隣に存在することを意味していよう。

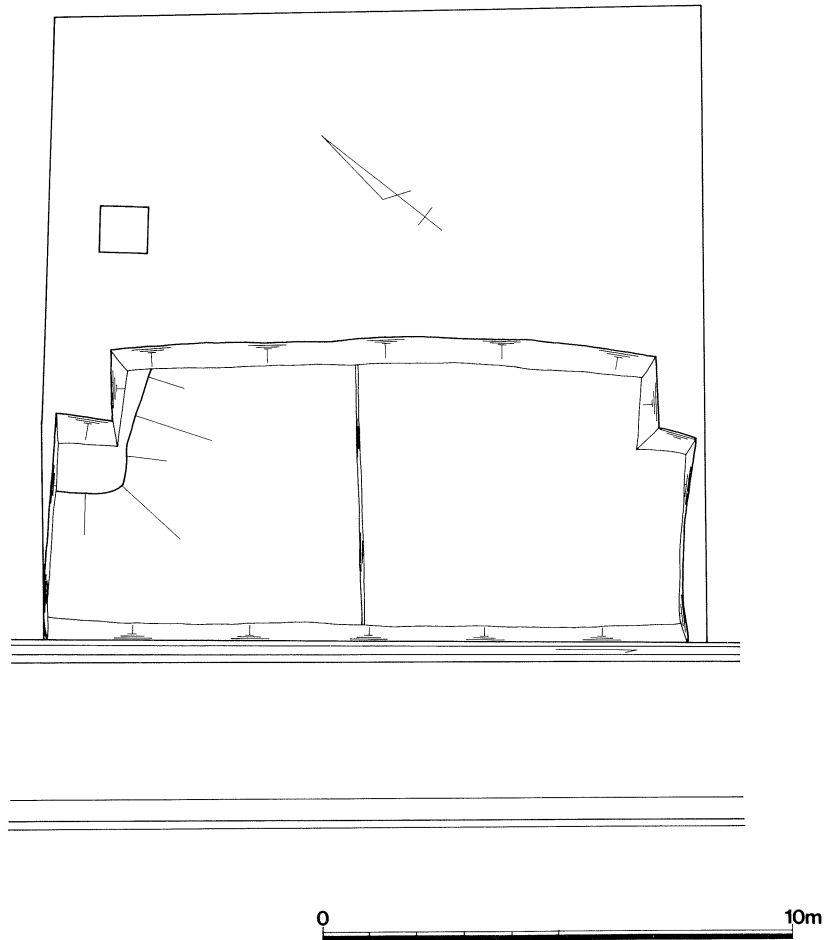


fig. 45 調査区平面図

6. 岡本東遺跡 第1次調査

1. はじめに

遺跡は、阪急岡本駅と甲南大学のほぼ中間に位置し、遺跡の東を流れる天上川の扇状地上に立地し、標高は約31mであった。本遺跡のすぐ西には、住吉川によって形成された扇状地が広がっている。前述した扇状地の間には浅い谷があり、小河川が断続的に流れていたようである。今回の調査でも谷に沿った部分から、弥生時代～古墳時代にかけての流路が検出されている。本遺跡は隣接地において数次の確認調査が行われていたが、今回の調査が第1次の全面調査となる。



fig. 46
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要

層序は、現代の盛土の直下に昭和20年代の洪水砂が約10～20cmの厚さで堆積していた。その洪水砂に覆われる様な状態で石垣を伴う近代の水田面が検出され、耕土の下が中世の第1遺構面であった。今回の調査では、中世、弥生(中期・後期)、縄文の3面の遺構面を検出した。

第1遺構面

第1遺構面では、南北に並走する5条の溝を検出した。それぞれの溝の検出された長さは12.40～19.35m、幅0.43～0.84mで、ほぼ同間隔で検出された。埋土は、直径1～2mmの炭化物粒子・礫を少量含む褐色砂質土で、しまりは弱かった。遺物は、須恵器、土師器片が少量出土した。検出状況から、この溝は中世の畑作の畝跡であると考えられる。

第2遺構面

第2遺構面では、弥生時代の住居跡2軒、自

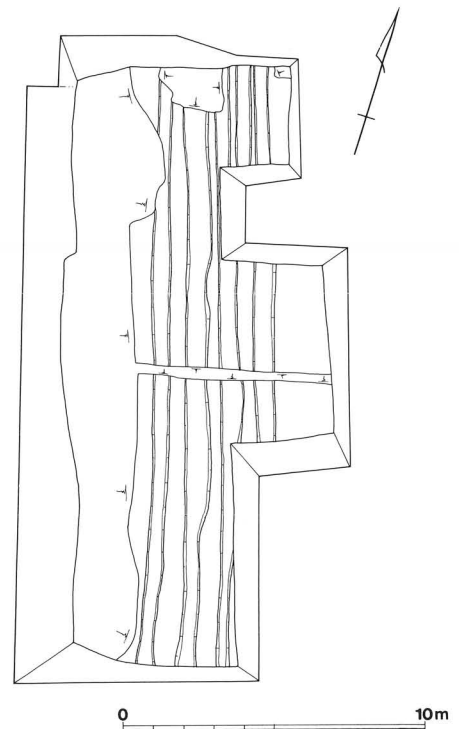


fig. 47 第1遺構面平面図

然流路3条、土坑1基、時期不明の土坑1基、ピット26基を検出した。また、第2遺構面上層では平安時代と思われる掘立柱建物1棟、柱痕が残るピット1基を検出した。

SH201 弥生時代の竪穴住居SH201は南側調査区の南部で検出され、西側は第1遺構面で検出された石垣により大きく破壊され、北側はSR201により切られていた。

平面プランは直径約7.4mの円形で、検出面から床面までの深さ4~8cm、床面の標高30.9mである。埋土は基本的に暗灰黒色ないしは黒茶褐色砂質土が堆積し土器の細片をやや多く含む。屋内施設としては中央土坑・土坑・周壁溝・柱穴を備えていた。

中央土坑は二段掘りで床面中央付近で検出された。上段は長軸94cm・短軸75cmの長方形で床面からの深さ10cm、下段は直径56cmの円形で床面から底部まで深さ45cmであった。埋土の上層は土器細片・径2~3cmの礫をやや含むが、下層は炭化物が多く認められる。焼土化は観察されなかった。中央土坑の周囲には上端幅6~23cm、下端幅22~37cmで床面からの高さ6cmの炉堤が巡る。炉堤は全周せず西側は途切れる。

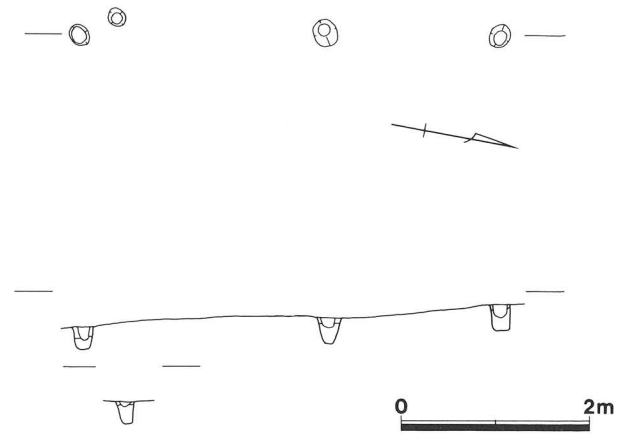


fig. 48 第2遺構面上面平面図・断面図

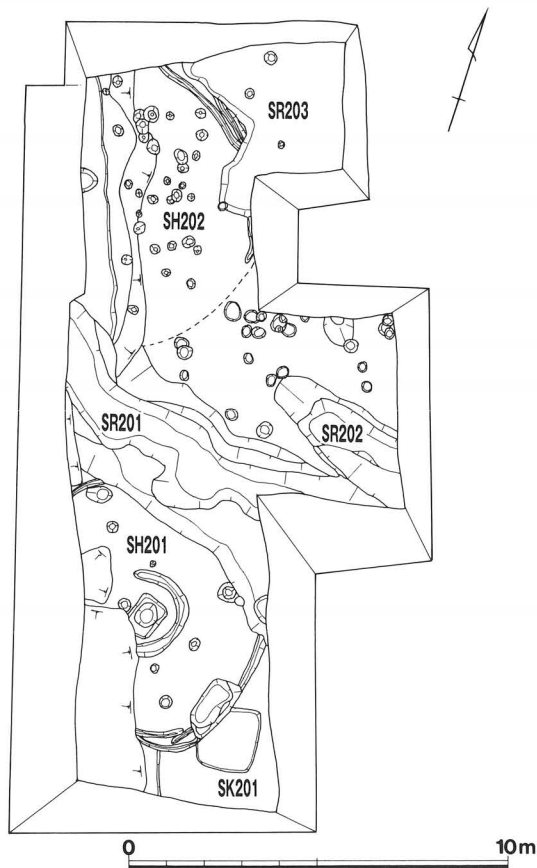


fig. 49 第2遺構面平面図



fig. 50 北部第2遺構面全景



fig. 51 南部第2遺構面全景

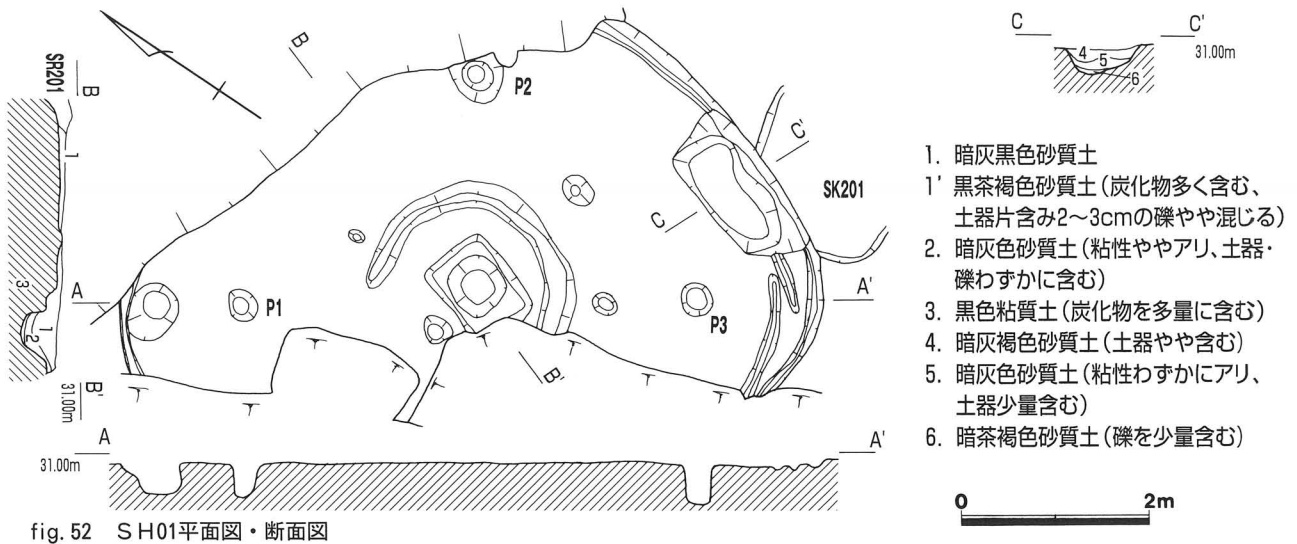


fig. 52 SH01平面図・断面図

住居址東側で長軸 1.75m・短軸 0.8m で床面からの深さ 29cm の長方形を呈する土坑を検出した。土坑は周壁溝と接続しており、埋土より高杯の細片が出土している。

周壁溝は部分的に検出されたがほぼ全周していたものと推定される。周壁溝の幅は、約 20cm、床面からの深さ 6cm 前後である。住居址南側で断続的に周壁溝が巡る部分がある。柱穴は 8 箇所検出され支柱穴となると思われる



fig. 53 SH01

3 箇所の柱穴を確認したが、1 箇所は調査区外、もしくは攪乱により破壊された可能性もある。支柱穴はいずれも柱痕は確認されなかった。支柱穴となる柱穴の床面からの深さは P1 で 32cm、P2 は 48cm、P3 が 39cm である。柱穴間の距離は P1 ~ P2 間が 3.45m・P2 ~ P3 間が 3.35m である。

出土遺物は未整理であるため詳細は不明であるが、ほとんどが細片で接合できる資料は限定される。住居址内の土坑下部より畿内第 V 様式前半期の高杯の杯部が出土している。

SH202 北側調査区のほぼ中央で検出された。西側は近代の水田面と SR201 に、東側は SR203 によって壊されており、遺存状態は良好ではなかった。また、北側の壁面は明瞭に確認できなかったため、掘り過ぎてしまった。

平面形態は円形になると思われ、直径は推定で 7.5m であった。検出面から床面までの深さは、0.10m で、床面の標高は約 31.4m であった。埋土は炭、炭化材を大量に含む黒褐色砂質土からなる 1 層であり、自然堆積であった。埋土に大量の炭を含み、床面には柱材が焼け残ったと思われる炭化材が検出されたことから、本住居址は焼失住居であると考えられる。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦であった。周壁溝は二重に巡り、検出状況から

全周はせずに部分的に巡っていたものと思われる。内側の壁周溝は、幅0.10~0.20m、深さ0.04~0.05mで、外側の周壁溝は幅0.17~0.21m、深さ0.05~0.07mであった。

中央土坑は、住居跡のほぼ中央部分で検出され、近代の耕作により大きく削平されているために、掘り込みが僅かに残るだけであった。規模は、南北0.68m、東西(0.42)m、深さ0.09~0.12mで、平面形態は円形であった。しかし、床面が遺存していたとすると深さは約0.50mであったと思われる。埋土は黒色灰層で、



fig. 54 SH02

ピットは計32基が検出された。P1では柱痕が残存しており、支柱穴であると考えられる。他のピットには、柱痕は確認できなかった。ピットは数も多く、重複が激しいために住居跡の支柱穴を明確にすることはできなかった。壁溝が二重に巡ることや、ピットの本数から、2~3回の建て替えが行われたものと考えられる。

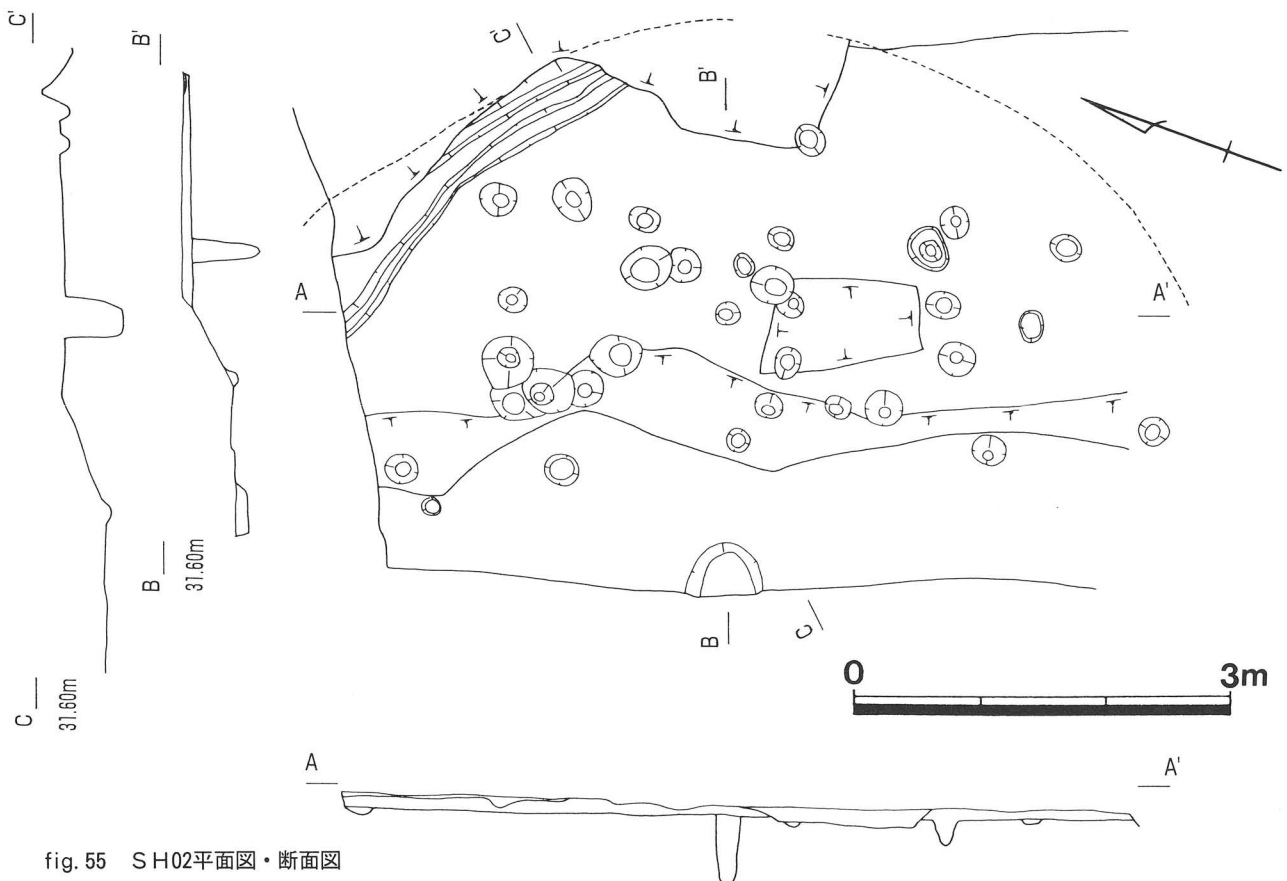


fig. 55 SH02平面図・断面図

遺物は、最上層から上下端に刃部をもつ磨製石斧が、埋土からは磨製石剣片と石鏃が数点出土した。また、土器は床面直上からほぼ完形と思われる甕2点が出土したが、遺物の整理が未着手であるため詳細は不明である。本住居跡の時期は、出土遺物から畿内第IV様式後半と考えられる。

S R 201 南側調査区のほぼ中央で自然流路であるS R 201を検出した。西側は第1遺構面で検出された石垣・耕作により大きく破壊され、東側は調査区外へと延び、北側は一部S R 202に切られている。当遺構自体は竪穴住居S H 201の北側から東側を切っている。

調査区内で検出された長さは約10mである。検出面における流路の幅は一定していないが、東方向へ向かうほど広がる傾向にあり3.2m～4.2mである。流路は流れによりその肩部を削られたものとみられ、幅の狭い箇所では段状に傾斜しており、特に北側の傾斜角度は急である。幅の広い部分での流路の横断面は逆台形を呈する。南側調査区北部の検出面からの深さは最も深い地点で約1.0mである。

埋土は16層からなるが全て自然堆積であり、最上層は黒褐色砂質土・上層は灰褐色を基調とした粗砂・下層は上層のものに径3～7cm前後の礫をやや含む・最下層は5～15cmの礫を密に含む層に大別される。出土遺物の大半は最上層より出土しているが、上層以下でも少量の出土がみられた。

出土遺物は詳細な検討を行っていないため時期を特定するには到らないが、最上層より5世紀中期後葉前後の須恵器・坏身と長胴化しつつある土師器・甕が出土しており、この時期には完全に埋没したと思われる。

S R 202 南側調査区東側で北西から南東へ向かう自然流路であるS R 202を検出した。西側では流路の先端部分になると思われる部分が確認されており、東側は調査区外へと伸びる。当遺構は南側でS R 201の北側肩部を一部切っている。

調査区内で検出された長さは約3.7mで、最大幅は約1.8mとなる。流路の横断面は中央部が1段深い皿状を呈しており、南側調査区北部の検出面からの深さは最も深い地点で



fig. 56 S R 201



fig. 57 S R 202

46cmである。

埋土は9層からなるが、上層は粗砂・下層は砂礫を主体とする層が堆積しているが全て自然堆積である。一部土器を含む砂質土の堆積がみられるがS R201からの可能性もある。

出土遺物は未整理であるが現状では、調査区東壁際で須恵器・甕や土師器・甕等が出土しているが時期の詳細な決定は今後検討を要する。

S R203 北側調査区の北端で検出された。西側はS H202を壊しており、東側の肩部は調査区外に延びており検出できなかった。

調査区内で検出された長さは約4.40mで、深さは0.21~0.40mであった。流路の横断面はほぼ平坦であるが、北から南へと僅かに傾斜が認められる。この傾斜は地形にも沿っていることから、川の流れは北西から南東方向に向かっていたと考えられる。

埋土は、上層が淡黒褐色砂質土、茶褐色砂質土、黒褐色砂質土、下層が黒灰色粗砂、黒褐色粗砂、黒灰色砂礫層などからなる自然堆積であった。また、流路埋没の過程で掘削された遺構が僅かではあるが壁面の土層断面で確認された。

出土遺物は、第IV様式~第V様式の弥生土器が主体を占め、5世紀前半代の須恵器が少量含まれる。弥生土器は磨滅したものが多く認められ、多くの土器片は上流からの流れ込みや住居址からの混入であると思われる。時期の上限は、当遺構がS H202を壊しており、また第IV様式の遺物が出土していることから、住居跡とはそれほど時間的差が無いと考えられる。また、埋没時期は須恵器の出土から5世紀前半代をそれほど大きくは下らないであろう。

柱穴群 南側調査区の北部で多くの柱穴を検出している。検出は全て地山面で行っており、北側調査区の第2・3遺構面を同一遺構面として調査を行っているため、出土遺物が未整理な現段階では各柱穴の帰属時期の決定は急務の課題であるが、各柱穴に配置・規則性は観察されず現状では建物跡に復原することはできなかった。

第3遺構面 第3遺構面では、縄文時代前期の土坑1基と時期不明の土坑7基を検出した。

S K301 ~307 北側調査区の北部で集中して7基の土坑が検出された。平面形態は6基が円形、1基が長方形であった。これらの土坑は、遺物がほとんど出土していないため詳細な時期は不明である。しかし、弥生時代の遺構面より下面で検出されたこと、埋土が弥生時代の遺構とは異なることなどから縄文時代の遺構である可能性が高い。

S K308 北側調査区と南側調査区の境界で検出された。他の遺構との切り合いは認められない。

形状はやや楕円形を呈するがほぼ円形で東西方向で1.0m・南北方向で1.1m、土坑底部では長軸を南北方向にもち0.92mである。壁面の傾斜角度は急で、一部オーバーハングしている

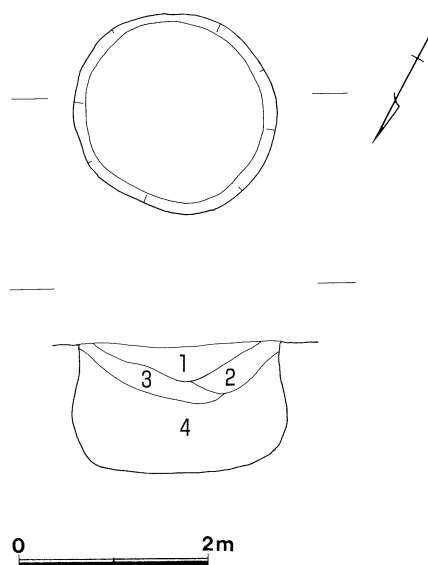


fig. 58 S K308平面図・断面図

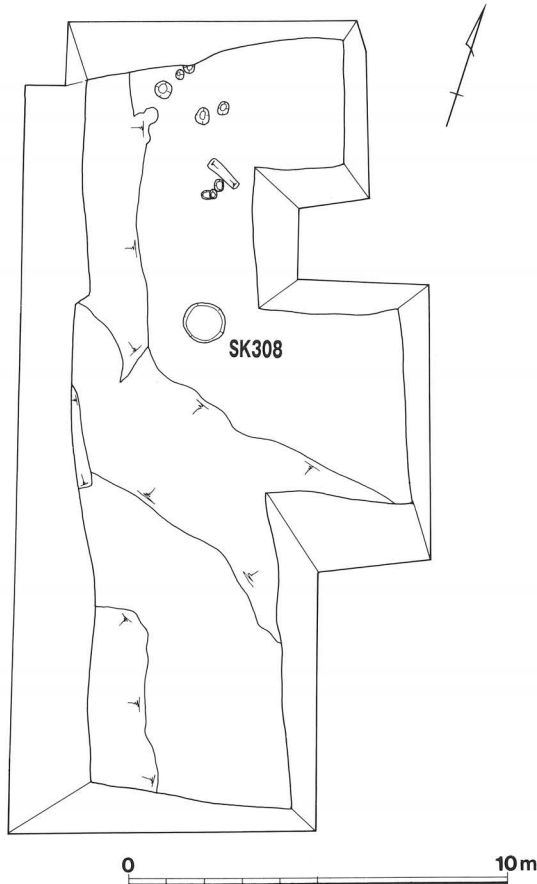


fig. 59 第3遺構面平面図



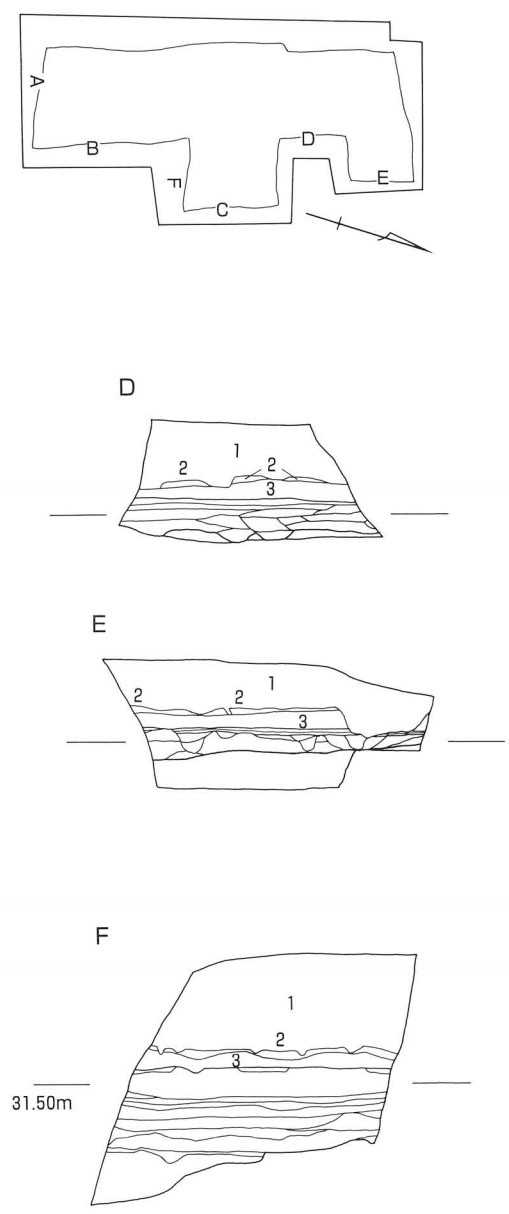
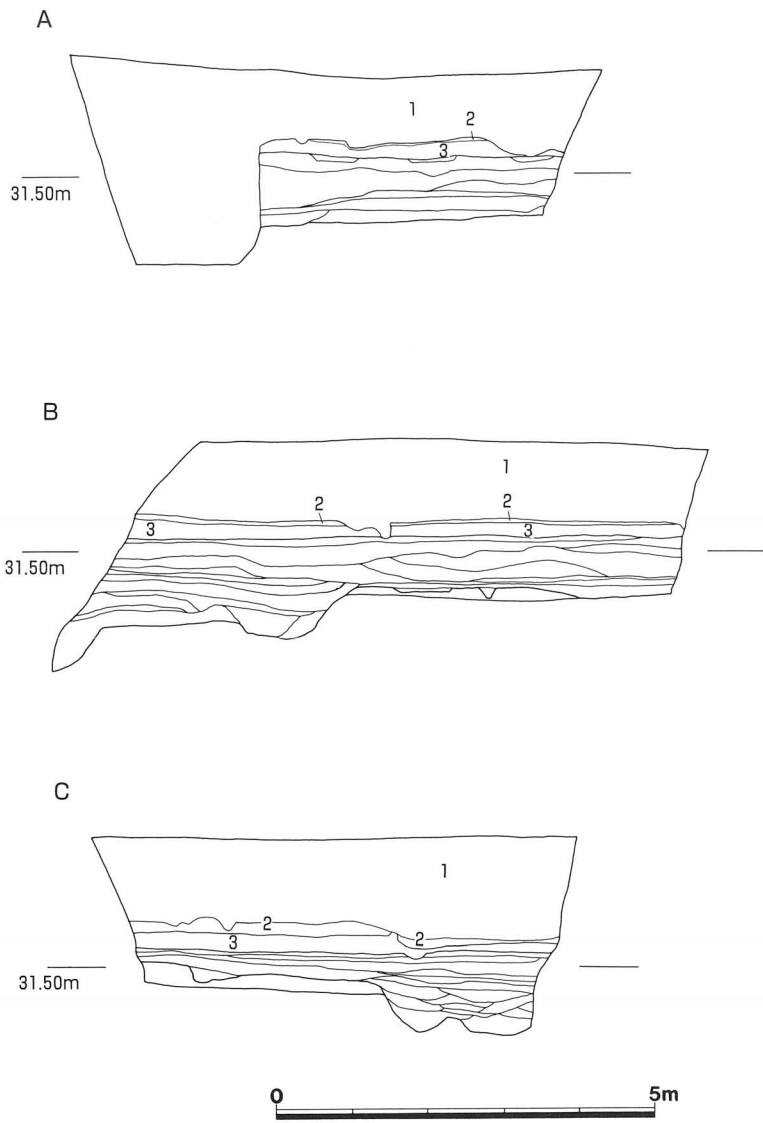
fig. 60 第3遺構面全景

部分も認められ、したがって底部は平坦面が広い。検出面はやや掘り過ぎの感もあるが、深さは69cmである。埋土は4層にわたって堆積している。上層より灰茶褐色砂質土・灰黒色砂質土・暗灰黒色砂質土・黒灰色粘質土の順に堆積しており、最下層は径2～3cmの礫を多量に含み、出土土器の大半はこの層より出土している。遺物は北白川上層式の深鉢が出土しており、縄文時代後期前葉頃に比定される。

3. ま と め 今回の調査は、当初は東灘No.16地点遺跡という名称で遺跡の内容が従来不明瞭であったが、小面積の調査であったにもかかわらず予想外の成果を上げることができた。

弥生時代中期・後期の住居址2軒の検出と磨製石斧・石剣等の良好な遺物が出土したことは、周辺の弥生遺跡の状況との関係から本遺跡と同様の立地を呈する岡本北遺跡において弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居・掘立柱建物等の遺構が検出され集落は後期には確実に営まれていたことが判明しており、今回の調査結果からは集落の一端を解明したにすぎないが住吉川左岸の上位から中位に移行する扇状地傾斜面に中期後葉には集落の形成が既に開始された成果を得たことで、同じ扇状地先端部中央付近に立地する本山遺跡をはじめとする各弥生集落との関連を考える上で貴重な資料を提示したことと思われる。

また、縄文時代後期前葉の貯蔵穴と思われる土坑と北白川上層段階の縁帯文土器が出土したことも重要である。六甲山南麓の近隣の縄文遺跡では岡本北遺跡で早期の山形押型文土器、西岡本遺跡では早期の高山寺式段階に属する竪穴住居址2軒が検出されている。本遺跡と類似する資料として本庄町遺跡で貯蔵穴6基とこれより北白川上層式段階に属する土器が出土しており、この地域の縄文遺跡の動向を検討する上で注目される資料である。



- 1. 現代の盛土
- 2. 昭和20年代の洪水砂
- 3. 現代の耕土

fig. 62 調査区壁面

fig. 61 調査区断面図

7. 森北町遺跡 第17次調査

1. はじめに

森北町遺跡は東灘区森北町一帯に広がる集落遺跡で、六甲山系の標高約30m付近の丘陵裾部に立地する縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。特に弥生時代から古墳時代にかけての遺物に注目すべきものがあり、弥生時代終末期～古墳時代初頭の住居址を覆う包含層から前漢鏡片（破鏡?）、弥生時代後期の住居址から銅鏃が出土している他、古墳時代の遺構からは韓式系土器や初期須恵器が出土している。また、この時期には住居址をはじめとする遺構が数多く構築されており、対外交流をも含めた地域交流の拠点となる大規模な集落が存在したと推定される。

今回の調査は震災復興にかかる個人住宅建設に伴う発掘調査である。調査地は平成元年に実施された第8次調査調査地の南に隣接する部分で、弥生時代後期～奈良時代にわたる4面の遺構面が検出されており、これらの遺構に続く部分の検出が期待された。

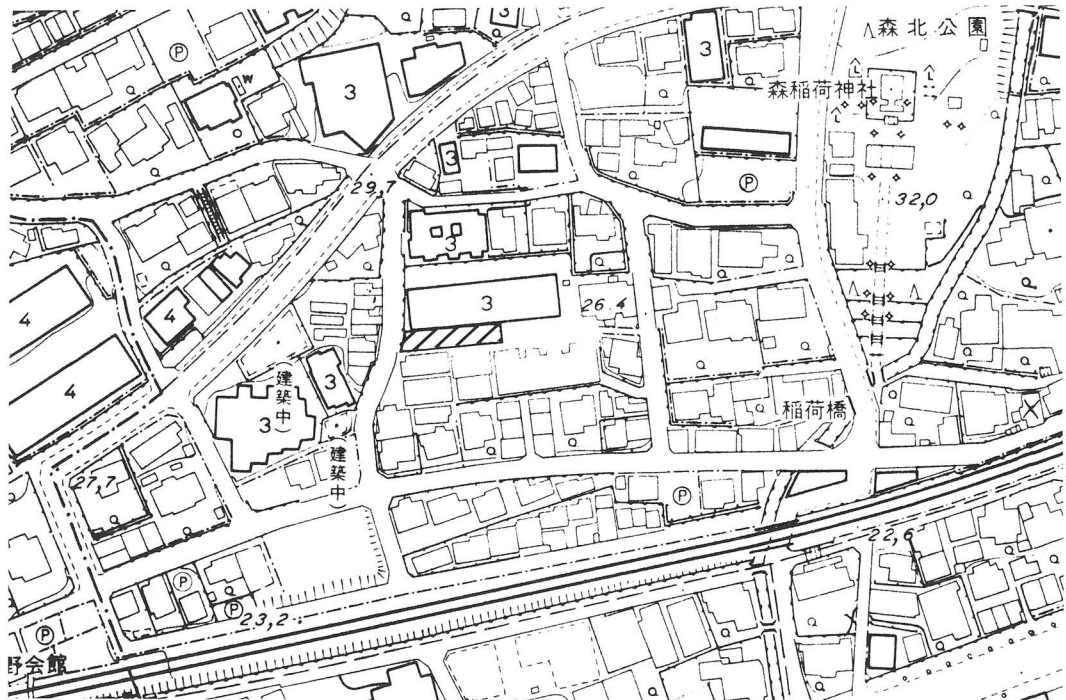


fig. 63
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要

調査区内は盛土を10cmほど除去すると第8次調査の第2・3遺構面で検出された流路の埋土となり、先の調査の第1遺構面に相当する面は存在しない。また調査区の西¼の部分は近世以降の洪水、あるいは流路による削平を受けており、第2・3遺構面の一部が既に失われている。

今回は工事影響深度が現地表から平均して50cmまでの深さであるため、一部では遺構を完掘できず、遺構の規模や時期の確定などにおいて不明な部分が残った。

今回の調査地は、前回の調査地に比べ地盤が低く、先の調査での遺構検出面が既に失われている部分が多い。従って下層流路埋土内で検出される上層流路は当初判別が困難で、断面観察により判断した遺構もある。遺構面としては今回2面が確認された。ここでは先の第8次調査の検出面に対応させながら記述を行うこととする。

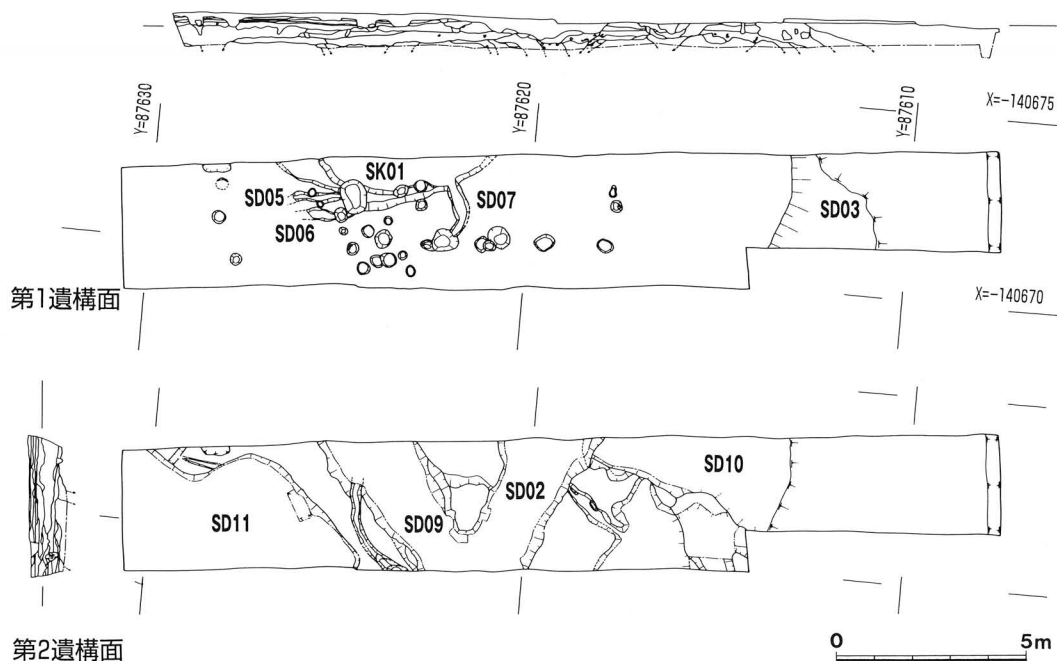


fig. 64
第1・2遺構面
平面図・断面図

第2遺構面 SD01は断面観察の結果判明した。本来は盛土直下（T. P. 24.60m）で検出された遺構である。第8次調査にて5世紀代の遺物が多量に出土した流路12に相当する。先の調査での検出幅は最大4m、深さは1.3mであったが、今回は幅約1.7m、深さは約40cmである。古墳時代の土師器が出土したが、土器の出土量は前回と比較して非常に少ない。

第3遺構面 今回検出された第1遺構面（T. P. 24.50m）で、流路1本、住居址状の落ち込み1基、土坑1基、溝4条、柱穴約30基が検出された。

SD03 調査区内での検出幅は約5m、深さは約40cmである。西肩は後世の削平により失われており、規模は不明である。第8次調査の流路2に相当し、南に流れるようである。今回も西肩は確認されておらず、また掘削深度が及ばないため西側の底部の状況についても不明である。東肩から下がった部分で土師器の甕などが出土している。時期は古墳時代前期である。

流路堆積 第8次調査で検出された流路11にあたる。調査区全体が遺構内に含まれるため、東、西両肩とも確認されていない。前回の調査からは少なくとも幅14m以上の規模をもつ流路であることが判明している。最大深が80cmと比較的浅かったため、緩やかな谷状地形に洪水砂が堆積した可能性が考えられており、そのように仮定すれば、今回の調査で確認された最下層の黒色粘質土が谷の埋土、その上層に堆積する灰褐色粗砂礫層が洪水による堆積に相当すると思われる。



以上が第3面に相当する検出遺構であ **fig. 65 SK01**

るが、流路堆積を除去した段階で住居址状の落ち込み1基、土坑1基、溝4条、柱穴約30基が検出された。これらは第8次調査第4遺構面で検出された流路の埋没後に構築された遺構で、時期的に第4面と同時期、またはやや新しい時期の遺構であると考えられる。

S B02 調査区南で検出されたが、大半は調査区外にあるため全体の規模は不明である。ここでの検出長は東西約4m、南北約2.5mで、深さは約20cmである。遺物は少量の弥生土器が出土している程度である。東肩が明確に立ち上がらずに緩やかに落ち込んでいるため、住居址でない可能性がある。

S K01 長径約90cm、短径約70cmの楕円形の土坑で、深さは約15cmである。出土遺物量は多く、全体に細片になってはいるが、ある程度個体が判別できるものが多い。特に下層の遺物の出土状況からは土坑内で破碎した可能性も考えられる。時期は古墳時代初頭である。

S D04 幅約30cm、深さは約10cmであるが、北壁際の一部で約50cmと深くなる。後述するS D09の流れの一部と考えられる。灰褐色粗砂混じりの礫層で一時に埋まったようである。

S D08 幅約20cm、深さ約10cmの溝である。遺物は出土していない。後述のS D11から派生するものと考えられる。

柱列 径約40~60cmの掘形円形の柱穴が5基検出された。深さは浅いものは20cm、深いもので約40cmを測り、4間分の検出長は約6.3mである。今回の調査区内ではこれに対応する柱列は確認されず、また先の調査においても対応する遺構は検出されていない。柵列とするには柱穴掘形の規模が大きいことから掘立柱建物と考えられ、北側の攪乱部分で既に失われている可能性が高い。遺物がほとんどなく、詳細な時期は不明である。

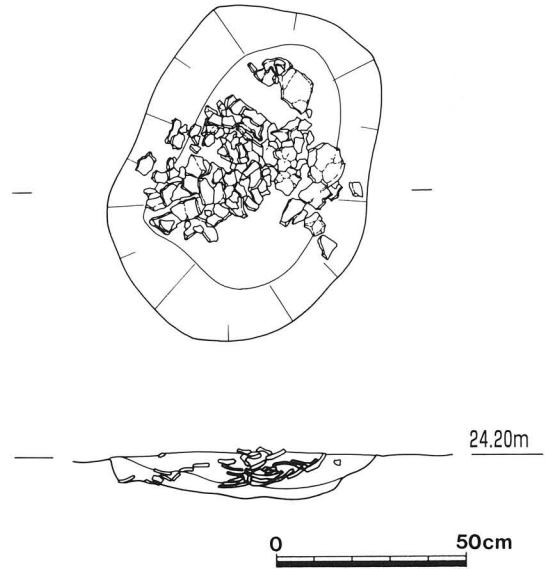


fig. 66 SK01平面図・断面図



fig. 67 SD11内遺物出土状況



fig. 68 SD11内遺物出土状況

第4遺構面 今回検出された第2遺構面（T.P. 24.00m～24.40m）で、地山面及び直上層から切り込む流路4本が確認された。

SD02 南に流れる流路で、検出された幅は約1.8m、工事影響深度により検出できた深さは約30cmである。先の調査で幅2.6m以上の規模をもつことが確認されている。壺など弥生時代後期の土器が出土している。第8次調査の流路14に相当する。

SD09 幅約2.2mの流路で南南東に流れる。検出できた深さは約30cmである。北壁断面では明確な切り合いが確認されておらず、また出土遺物にも時期差が認められないことからSD02同様、流路14に相当するものと思われる。

SD10 南東に流れる溝で、調査区内では最大幅約3mが検出された。弥生時代後期の高坏などが出土した。第8次調査の流路4もしくは流路5と考えられる。

SD11 南東に流れる溝で、最大検出幅は約5mである。第8次調査の流路13に相当する。調査区内北側で西へ、南側で東へ僅かに屈曲する。検出できた深さは最大約30cmである。西肩部ともう1ヶ所で遺物の集中する部分が確認された。いずれも弥生時代後期の甕が数個、正立した状態で出土した。浅い窪みに破棄されたものと考えられる。

3. ま と め 今回の調査では、第8次調査で検出された遺構の南側に続く部分が確認され、特に流路の方向、流れの分岐などが確認できた。調査面積が限られていたにも関わらず、多量の遺物が出土したが、その大半はやはり弥生時代後期～古墳時代初頭のものであり、当該期に大規模な集落が存在したことが再認識された。また、この時期の遺構面（第4遺構面）では多くの遺構が検出されたが、調査地周辺ではその後、洪水が度々起こったようで、谷状地形や新たな流路が流れ込み、遺構が希薄になるようである。さらに調査が進めば、集落の変遷などがより明らかになることだろう。

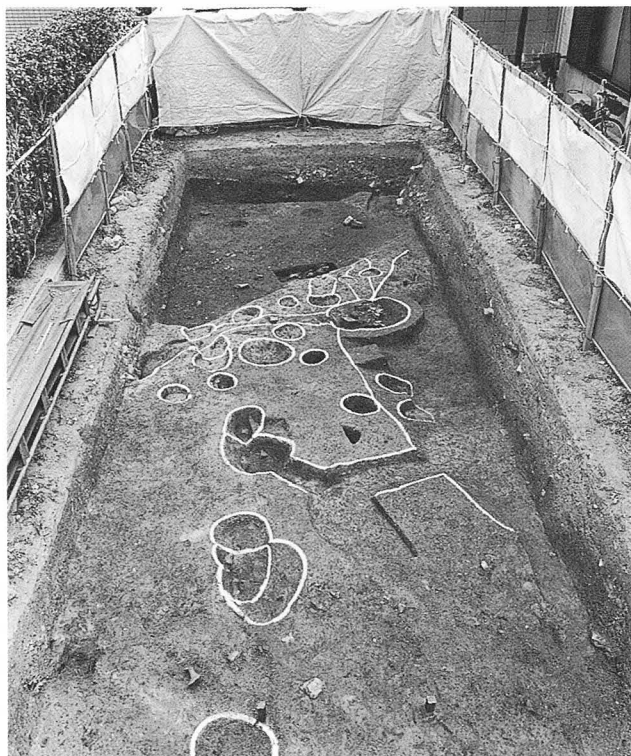


fig. 69 第1遺構面全景



fig. 70 第2遺構面全景

8. 本山遺跡 第27次調査

1. はじめに 今回の発掘調査は、阪神・淡路大震災によって失われた田辺会館の再建に伴うものである。田辺の名はこの付近の字名で、1889年本山村が施行されるまでは田辺村と称されていた。現在はこの会館とJRの踏切にその名をとどめている。会館が建てられている山神社は、田辺村の鎮守である保久良神社の遙拝所にあたる。1994年に北東隣接地でおこなわれた発掘調査では、弥生時代中期の竪穴住居址や掘立柱建物が発見されていて遺跡の広がりには予想されていたが、今回の再建に先立つ試掘調査で弥生土器が出土したため、建築範囲について全面発掘調査を実施することになった。



fig. 71
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要
- 基本層序** 基本層序は、盛土、旧耕土、茶褐色シルト、暗褐色礫まじり砂（弥生時代～中世遺物包含層）(T. P. +21.1m)、黒灰色シルトまじり砂（拳大～拳倍大の礫を多く含む）（弥生時代中期～古墳時代後期遺物包含層）、黒灰色シルトまじり砂（拳大の礫を含む）（上面が弥生時代遺構面）(T. P. +20.9m) となっている。
- 弥生時代** 遺構は調査区東部に集中しており、弥生時代の土坑3基、ピット6個、落ち込み状遺構1カ所が検出された。中央から西側は大形の礫を含む洪水砂におおわれていて、遺構は残されていない。南壁沿いに50～80cmの範囲は中世以降の整地に伴う土砂が充填されていて、弥生時代～中世の遺物が多く含まれていた。
- SK02** 径72cm、深さ52cmの円形の土坑である。土坑内に拳大の礫がたくさん入っており、それに混じって弥生土器の小片が十数点出土したのみである。

SK03 径 65cm、深さ 76cmの円形の土坑である。東半分は近世以降の暗渠によって切られていて底がわずかに残っているのみである。SK02同様、土坑内に拳大の礫がたくさん入っており、それに混じって弥生時代中期の土器片が出土している。

この他、ピットや落ち込み状遺構などを検出しているが、ピット類は建物として認識するに至っていない。遺構から出土する土器もいずれも小片で、弥生時代中期に属するものと考えられるが、詳細な時期の決定は困難である。

3. ま と め 今回の調査地では大部分が洪水砂により遺構が失われていたが、弥生時代中期の集落が周辺に広がっていることは確実であろう。

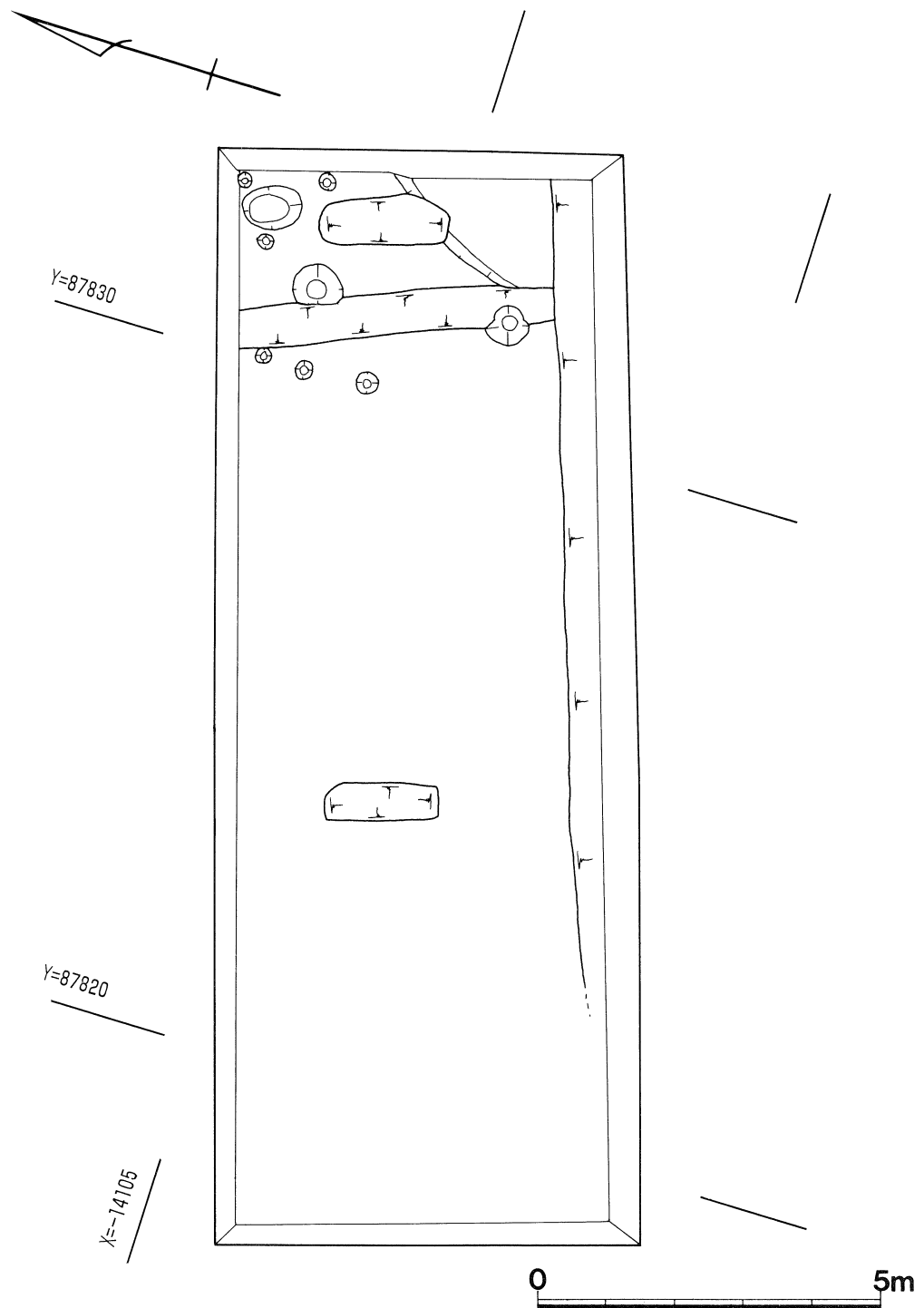


fig. 72 調査区平面図

すみよしみやまち
9. 住吉宮町遺跡 第24次調査

1. はじめに 六甲山系の南麓一帯には、中小の河川によって、扇状地が形成されている。住吉宮町遺跡は、住吉川や石屋川をはじめとする小河川によって形成された標高 19m～28mの扇状地の末端付近に立地しており、今回の調査地の現標高は、28m前後である。

この付近の地名は、かつては住吉町坊ヶ塚と呼ばれており、住吉神社に残されている江戸時代の絵地図には、前方後円墳と思われる「坊ヶ塚」と書かれた古墳が描かれている。付近の地籍図をみると、今回の調査地の東側に隣接する区画に前方後円形の地割りがあり、現況では確認できないが、ここが上記の絵地図に描かれている「坊ヶ塚」とであると推定される。

平成8年11月、当該地において共同住宅建設が計画され、試掘調査を実施した。この結果、古墳の溝が検出され、埴輪片が出土したため、平成9年2月より、全事業面積 649.32㎡の内、工事影響範囲である 450㎡について、発掘調査を実施することとなった。

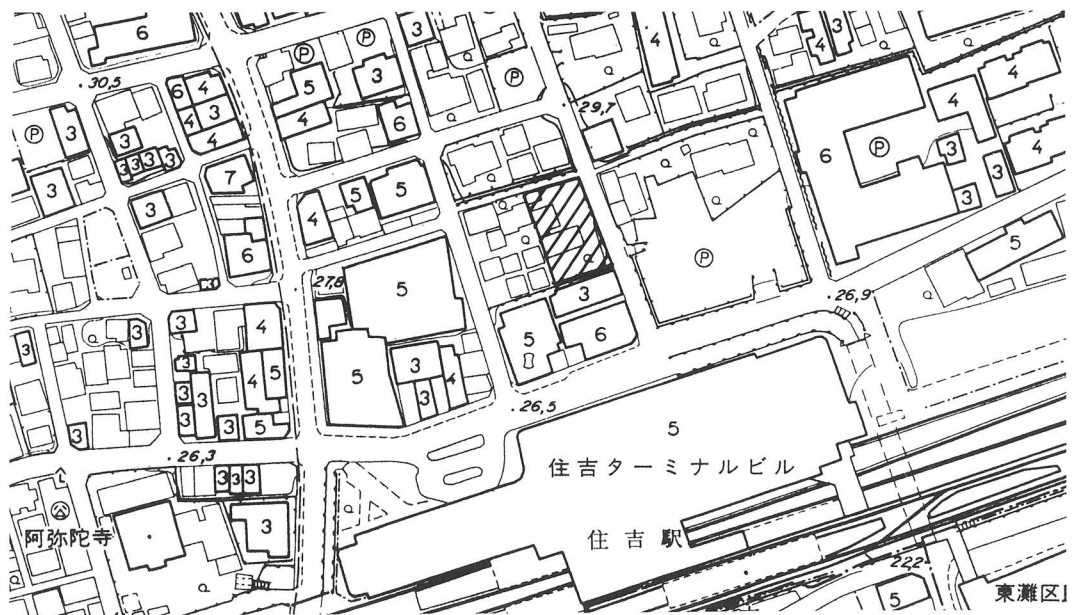


fig. 73
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要 今回の調査は、平成9年2月より開始しており、平成8年度調査で、既に4基の方墳と溝、土坑及び庄内期の土器棺が確認されていた。

今年度は、平成8年度調査区の約 400㎡について、引き続き、古墳の詳細な発掘調査を実施した。また、2号墳の東側及び4号墳の南東側を約 50㎡拡張した。

基本層序 今回の調査地における基本層序は、上から、近現代の盛土・灰色砂（中世後期～近世の旧耕土）となり、この灰色砂直下で、古墳の上面が検出される。それより下は、茶褐色砂・灰色粘質シルト・淡茶褐色砂となる。

検出遺構 今回の調査区内で検出した遺構は、古墳時代中期末～後期初頭の方墳4基（24-1号墳～24-4号墳）、古墳時代頃の土坑1基（SK01）、弥生時代末～古墳時代前期の土器棺墓1基（SX01）、平安時代の自然流路1条（SD01）である。

4基の古墳は、いずれも墳丘の上端部分は、後世の水田等の造成によって削平されてい

たが古墳が築造されてしばらくしてから洪水による砂によって覆われていたため、墳丘の下端部分及び周溝内に関しては、良好な状態で残っていた。

24-1号墳 24-1号墳は、調査区の北西側で検出された方墳である。北側は調査区外にのびており、全体の約 $\frac{3}{4}$ が検出されている。

墳丘の上端部は、後世の削平を受けているため、封土は確認されず、また、主体部も確認できなかった。

古墳の形状は、隅丸方形を呈しており、墳丘規模は、周溝外径（周溝部を含めた長さ）で、東西長9.1m、南北長7.0m以上、周溝内径で、東西長5.5m、南北長5.5m以上を測る。

周溝幅は、1.2m～2.0mで、深さは、30cm～50cmを測る。周溝の埋土は、底部付近は、暗灰褐色シルト層であるが、上層は、洪水による堆積と考えられる黄茶灰色粗砂である。

北東隅を除く各コーナー部に、人頭大の花崗岩を積み上げている。現状では、2個または3個残存している。また、南西隅の周溝底で、須恵器の坏・高坏・甗・土師器の壺が、



fig. 74 調査区平面図



fig. 75 土器群 1



fig. 77 土器群 2

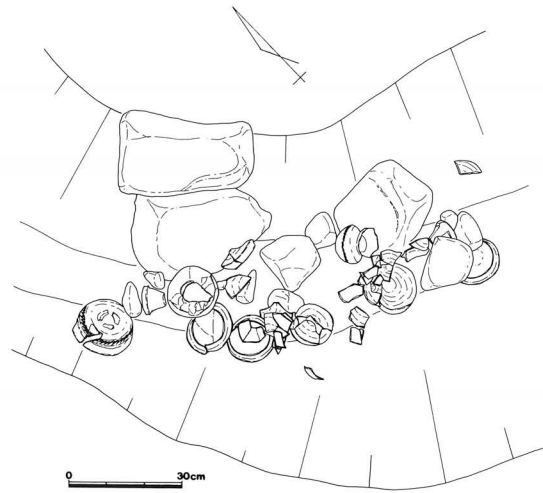


fig. 76 土器群 1 平面図

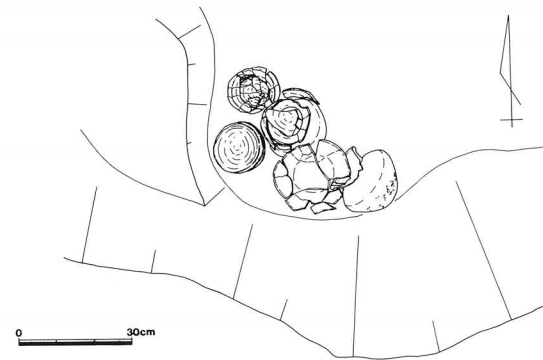


fig. 78 土器群 2 平面図

出土している。(土器群 1)

周溝内縁部は、東辺・南辺・西辺のいずれもほぼ直線的であるが、周溝外縁部は、南側周溝が、約 2.5m にわたって、南側に 50cm~70cm 程、張り出している。この張り出し部の周溝底で須恵器の坏・壺が出土している。(土器群 2)

24-1 号墳の南側周溝のすぐ南側には、24-3 号墳が、隣接して築造されている。周溝の前後関係は明瞭ではないが、24-3 号墳の北側周溝が、24-1 号墳の南側周溝を切っている可能性が高いところから、24-1 号墳の方が、若干時期的に遡ると考えられる。

24-2 号墳 24-2 号墳は、調査区の北西側で検出された方墳である。北側及び東側は調査区外にのびており、全体の約 1/4 が検出されている。

24-1 号墳のすぐ東側に位置しており、周溝外縁部とおしの距離は、0.6m~1.5m であるが、互いの周溝は切り合っていない。また、すぐ南側の 24-4 号墳とも、周溝外縁部とおしの距離は、0.3m~0.7m であるが、互いの周溝は切り合っていない。

墳丘の上端部は、24-1 号墳同様、後世の削平を受けているが、墳丘の中央付近で、東西長 1.5m、南北長 0.8m、深さ 10cm~20cm を測る長方形の土坑を確認した。この土坑内の底面付近から、全長 40cm の鉄刀が 1 振出土している。鉄刀は、南西に切っ先を向けた状態で検出されている。おそらく、この土坑が、24-2 号墳の主体部と考えられる。

古墳の形状は、隅丸方形を呈しており、墳丘規模は、周溝外径で、東西長 6.0m 以上、南北長 5.5m 以上、周溝内径で、東西長 4.4m 以上、南北長 4.0m 以上を測る。

周溝幅は、1.5m～1.8mで、深さは、50～70cmを測る。周溝の埋土は、24-1号墳とほぼ同じで、底部付近は、暗褐色シルト層であるが、上層は、淡黄茶灰色粗砂である。西側の墳丘斜面には、拳大から人頭大の葺石を葺いているが、南側斜面では、今回の調査区内では、検出されていない。

周溝内縁部は、南辺・西辺のいずれもほぼ直線的であるが、周溝外縁部は、24-1号墳で確認された状態より明確ではないが、西側周溝が、約1.5mにわたって、西側に30cm～50cm程、張り出している。この張り出し部の周溝底で、須恵器の坏・壺・鉄製品の鋤先が出土している。(土器群3)



fig. 79 1・2号墳

また、南西コーナー部付近の西側周溝底で、墳丘から転落したと考えられる須恵器の甕の破片が多数出土し、墳丘の南側斜面から南側周溝にかけて、形象埴輪を含む埴輪片が多量に出土している。

人物埴輪

これらの中で、特筆すべきものとして、2体の人物埴輪がある。

そのうちの1体は、頭部のみ復元が可能であったが、顔面にへらで線刻し、頬や鼻の上や顎の下に、イレズミを表現していた。イレズミをした男子の埴輪は、古墳を守る人か、あるいは武人を表していると思われる。

これまでに、イレズミをした男子の埴輪は、近畿地方を中心に、全国で、今回のものを含め49例出土しているが、神戸市内では、初めてで、兵庫県下でも、芦屋市打出小槌古墳に次いで2例目である。



fig. 80 3号墳



fig. 81 4号墳

もう1体は、指先から肩、そして腰の部分が復元できた人物埴輪である。腕を前に延ばし、腰にはフンドシ状の帯があることから、力士の埴輪と考えられる。

その他、馬形埴輪と考えられる破片も出土している。

24-3号墳 24-2号墳は、調査区の西側で検出された方墳である。西側は調査区外にのびており、全体の約 $\frac{3}{4}$ が検出されている。

24-1号墳のすぐ南側に接しており、24-3号墳の北側周溝は、24-1号墳の南側周溝を切っている可能性が高い。すぐ東側に隣接する24-4号墳とは、周溝外縁部どおしの距離は、0.4m~0.7mであるが、互いの周溝は切り合っていない。墳丘の上端部は、24-2号墳同様、後世の削平を受けており、また、墳丘の西半分は、平安時代の自然流路であるSD01によって削り取られている。

古墳の形状は、隅丸方形を呈しており、墳丘規模は、周溝外径で、東西長6.5m以上、南北長9.6m、周溝内径で、東西長4.9m以上、南北長6.5mを測る。

周溝幅は、1.3m~2.0mで、深さは、50cm~70cmを測る。周溝の埋土は、24-1号墳とほぼ同じで、底部付近は、暗黄褐色シルト層であるが、上層は、黄茶灰色粗砂である。北東隅及び南東隅のコーナー部に、24-1号墳同様、人頭大の花崗岩を積み上げている。現状では、2個または3個残存している。

箱式石棺 墳丘の中央付近で、東西長2.0m以上、南北長1.0mを測る箱式石棺を確認した。

箱式石棺は、内法で、幅40cm、長さ165cm以上を測り、24-3号墳の主体部と考えられ



fig. 82 箱式石棺

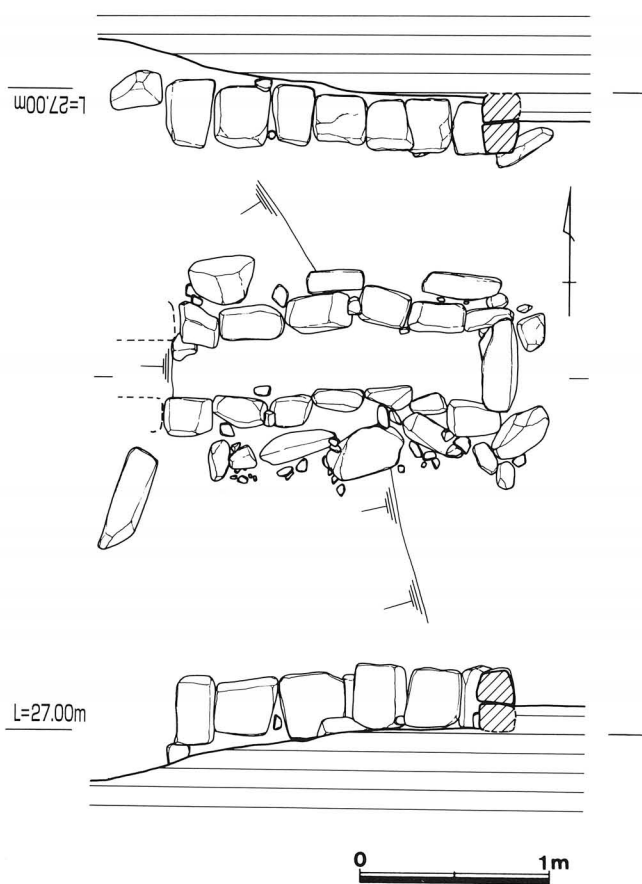


fig. 83 箱式石棺平面図・断面図



fig. 84 土器群 4

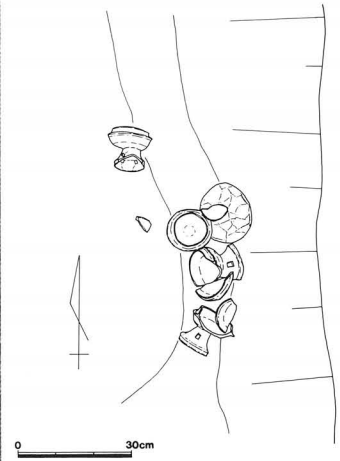


fig. 85 土器群 4 平面図

る。西側の小口は、SD01によって削り取られているため、不明であるが、東側の小口は、偏平な花崗岩を横向けに積み上げており、現状では2段分のみ残存している。

側壁部も同様に偏平な花崗岩を使用しているが、小口部とは異なり、石材を縦向けに積み上げている。現状では1段分のみ残存している。

棺内から遺物は出土しなかったが、石棺の東側掘形内より、刀子と思われる鉄製品が1点出土している。

また、南東コーナー部付近の東側周溝底で、須恵器高杯4個と土師器の壺が出土した。(土器群4)

24-4号墳 24-4号墳は、調査区の南東側で検出された方墳である。東側は調査区外にのびており、全体の約 $\frac{3}{4}$ が検出されている。

墳丘の上端部は、後世の削平を受けているため、24-1号墳同様、封土は確認されず、また、主体部も確認できなかった。

古墳の形状は、隅丸方形を呈しており、墳丘規模は、周溝外径で、東西長13.8m以上、南北長17.5m、周溝内径で、東西長10.5m以上、南北長13.5mを測る。

周溝幅は、2.4m~3.9mで、深さは、70cm~1.0mを測る。周溝の埋土は、底部付近は、暗灰褐色シルト層であるが、上層は、洪水による堆積と考えられる黄茶灰色粗砂である。

北西隅及び南西隅のコーナー部周辺の墳丘斜面には、拳大から人頭大の葺石を葺いている。また、南西隅の周溝底で、墳丘から転落した壺が、墳丘南側斜面で、土師器の甕の破片が出土している。

南西コーナー部付近の南側周溝底で、須恵器の把手付き椀、土師器の高杯・壺が出土した。(土器群5)

SX01 調査区の南西隅、4号墳の南側で検出された土器棺墓である。弥生時代末~古墳時代初頭(庄内併行期と考えられる)の壺形土器が、倒立した状態で検出された。壺形土器の内側には、後世に流入した土砂の他には、何も検出されなかったが、掘形を掘った後に、土器を倒立して埋納しているところから見て、土器棺墓である可能性が高いと考えられる。

SK01 調査区の南西側で検出された楕円形の土坑である。南北3.0m以上、東西1.0m~1.2mを測る。深さ30cm~50cmを測る。



fig. 86 土器群5



fig. 87 SX01

S K01の北側は、3号墳の周溝に接しており、当初は、3号墳に伴う遺構である可能性を予想していた。しかし、3号墳及びS K01の埋没土層の状況を観察した結果、S K01は、3号墳の周溝に切られているという前後関係が明らかになった。

遺構内及び埋没土内から遺物が出土しなかったため、明確な時期は確定できないが、3号墳よりも時期が遡る事から見て、古墳時代前期～中期頃のものと考えられる。

S D01

調査区西側で検出された南北方向に流れる平安時代の自然流路である。S D01の西側は、調査区外にのびているため、全体の規模は、不明であるが、全長 25.0m 以上、幅 2.0m 以上、深さ 50cm～1.0m 以上を測る。

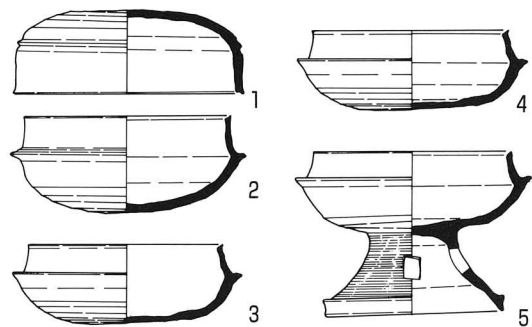
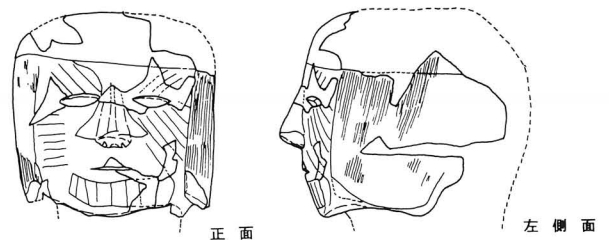
S D01によって、1号墳の南西隅及び3号墳の西半分の墳丘は、削り取られており、3号墳の箱式石棺の西側小口もS D01により失われている。

3. ま と め

今回の調査では、市街地の地下に、古墳時代の洪水によって埋もれた古墳時代中期から後期にかけての古墳群が良好な保存状態で検出された。

当該地は、これまでの調査で発見された「住吉宮町古墳群」の分布範囲の北端に位置しており、当初予想されていたよりも、当古墳群の範囲が北側にひろがり、東西 600m、南北 200m となった。

また、当古墳群は、前方後円墳である「坊ヶ塚古墳」や帆立貝式古墳である「住吉東古墳」等の盟主墳を中心として、その周辺に、一辺 5m～15m 前後の方墳が、群集して築造されるということが、しだいに明らかになってきた。現在までに、約40



1・2・3. 2号墳土器群3
4. 1号墳土器群1 5. 3号墳土器群4



fig. 88 出土遺物実測図

基の古墳が確認されているが、総数は200基近くの古墳で構成されていると推定される。また、今回の調査では、古墳に供えられた土器が、そのままの状態で見出され、当時の葬送の際に行われる墓前祭祀の様子の一部が判明した。

以上のように、今回の調査では、これまでの調査結果とあわせて考えると、古墳時代後期の初め（5世紀末から6世紀初め）という古墳時代における大きな社会変化の起こる画期において、古墳群の形成を知る上で重要な資料となった。

また、この地域の居住域や墓域が明らかになり、当時の生活空間の様子の一部を伺うことのできる貴重な資料を得ることができた。

今後は、当地域の調査及び資料の分析・検討が進むにつれて、この時代の姿がより一層明らかに成ってくるものと考えられる。



fig. 89 調査区全景



fig. 90 調査区遠景

すみよしみやまち
10. 住吉宮町遺跡 第25次調査

1. はじめに 住吉宮町遺跡は、六甲山地南麓を流れる住吉川、石屋川等の河川により形成された扇状地上に立地する、弥生時代中期～近世にかけての複合遺跡である。

住吉東古墳をはじめとする古墳群や奈良時代の掘立柱建物などが発見され、現在までに24次にわたる調査が実施されている。

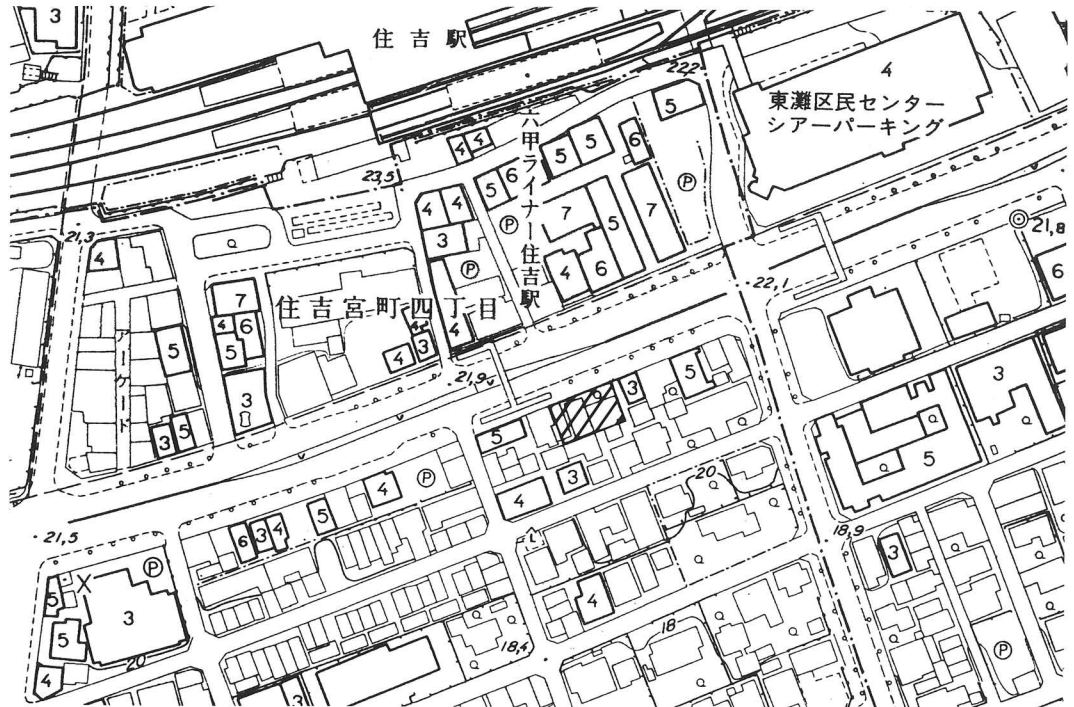


fig. 91
調査地位置図
1 : 2,500

2. 調査の概要 調査区の層序は、表土、盛土、旧耕土、そして遺物包含層である淡灰褐色砂質土以下の土層が堆積する。なお、この深度は概ね、調査区北側において G. L. -150cm、南側で -170cm を測る。

また、明褐色砂をベースとして中世、淡灰青色シルト・灰白色砂・暗褐灰色粘質土をベースとして古墳～弥生時代後期の2面の遺構面が全面において、またこの2面の中間には調査区の東側約3分の1ほどにおいて、灰白色砂をベースとする奈良～平安時代前期の遺構面が確認されている。

第3遺構面を構成する各土層からは、若干の遺物が含まれるが、それ以下の堆積には、遺構、遺物は確認されなかった。

第1遺構面 主な遺構としては、土坑墓、井戸、土坑、溝などがある。調査区の西側ほど、遺構の密度は高く、残りも良い。

ST01 調査区南東部において検出された土坑墓である。80cm×35cm以上の長方形

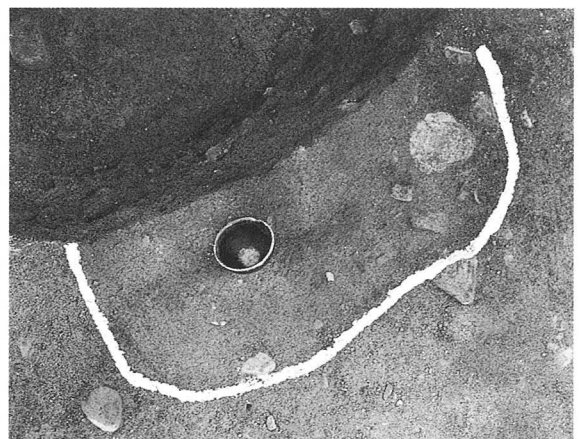


fig. 92 ST01